

## 基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部の学科の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ルーテルガクイン 学校法人 ルーテル学院									
フリガナ大学の名称	ルーテルガクインダイガク ルーテル学院大学 (JAPAN LUTHERAN COLLEGE)									
大学本部の位置	東京都三鷹市大沢三丁目10番20号									
大学の目的	本大学は、キリスト教に基づき人格の形成を図り、教育基本法及び学校教育法によりキリスト教、社会福祉学、臨床心理学及びこれに関係のある科目を教授研究し、キリスト教、社会福祉、臨床心理の分野の専門職及びそれらの知識をもつ市民を養成することを目的とする。									
新設学部等の目的	本学はキリスト教を基盤とした人格教育のもと、ルター <small>の</small> 宗教改革の精神に基づき「キリストの心を心とし神と世に仕える人材」、特に心と福祉と魂の高度な専門家を養成する教育事業を、教育基本法及び学校教育法に従って行うことを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	総合人間学部 [Faculty of Integrated Human Studies]  人間福祉心理学科 [Department of Human Studies, Social Work and Clinical Psychology]  計	年	人	年次人 3年次 20	人 400	学士 (総合人間学)	年 月 第 年次  平成26年4月 第1年次  平成28年4月 第3年次	東京都三鷹市大沢 三丁目10番20号		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	平成26年4月 総合人間学部 キリスト教学科(廃止) (△10) 3年次編入(△2) (3年次編入学定員は平成28年4月学生募集停止) 社会福祉学科(廃止) (△50) 3年次編入(△10) (3年次編入学定員は平成28年4月学生募集停止) 臨床心理学科(廃止) (△30) 3年次編入(△8) (3年次編入学定員は平成28年4月学生募集停止)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	総合人間学部 人間福祉心理学科	講義	演習	実験・実習	計					
		199科目	37科目	22科目	258科目	124単位				
概 教 員 組 織 要 の	学部等の名称			専任教員等					兼任 教員等	
	分設新	総合人間学部 人間福祉心理学科		教授	准教授	講師	助教	計	助手	70人
		計		14 (17)	5 (5)	6 (6)	1 (1)	26 (29)	-	(67)
	分設既	-		-	-	-	-	-	-	-
		計		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	合計		14 (17)	5 (5)	6 (6)	1 (1)	26 (29)	-	(67)	70人
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種			専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員			17 (16)		6 (6)		23 (22)		
	技 術 職 員			-		-		-		
	図 書 館 専 門 職 員			3 (3)		4 (3)		7 (6)		
	そ の 他 の 職 員			1 (1)		0 (0)		1 (1)		
	計			21 (20)		10 (9)		31 (29)		

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	各種学校 日本ルーテル神学校と 共用 (収容定員40名)				
	校舎敷地	9,141㎡	0㎡	2㎡	9,143㎡					
	運動場用 地	5,629㎡	0㎡	0㎡	5,629㎡					
	小 計	14,770㎡	0㎡	2㎡	14,772㎡					
	そ の 他	9,378㎡	0㎡	0㎡	9,378㎡					
合 計	24,148㎡	0㎡	2㎡	24,150㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	各種学校 日本ルーテル神学校と 共用 (収容定員40名) (面積基準115.7㎡)				
		6,174㎡ ( 6,174㎡)	985㎡ ( 985㎡)	210㎡ ( 210㎡)	7,369㎡ ( 7,369㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	16室	0室	6室	2室 (補助職員0人)	0室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		総合人間学部 人間福祉心理学科		29 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	総合人間学部 人間福祉心理学科	117,000 [38,400] (110,788 [37,472])	430 [140] (416 [133])	10 [5] ( 1 [1])	1,100 (983)	0 ( 0 )	0 ( 0 )			
	計	117,000 [38,400] (110,788 [37,472])	430 [140] (416 [133])	10 [5] ( 1 [1])	1,100 (983)	0 ( 0 )	0 ( 0 )			
図書館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数					
		1,050㎡		95席	141,000冊					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		なし		グラウンド		テニスコート (1面)				
経 費 積 持 方 法 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出学科全体
		教員1人当り研究費等		500千円	500千円	500千円	500千円			
		共同研究費等		3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円			
		図書購入費	7,000千円	7,000千円	7,000千円	7,000千円	7,000千円			
		設備購入費	10,000千円	10,000千円	10,000千円	10,000千円	10,000千円			
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,240千円	1,120千円	1,120千円	1,120千円	千円	千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、寄付金 等							
大 学 の 名 称 ルーテル学院大学										
既 設 大 学 等 の 状 況	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	総合人間学部	年	人	年次 人	人		倍		東京都三鷹市大沢 三丁目10番20号	
	キリスト教学科 (廃止)	4	10	3年次 2	44	学士 (キリスト教学、 神学)	0.90	昭和39年度		
	社会福祉学科 (廃止)	4	50	10	220	学士 (社会福祉学)	0.92	昭和62年度		
	臨床心理学科 (廃止)	4	30	8	136	学士 (臨床心理学)	1.24	昭和17年度		
	総合人間学研究科						1.10			
	社会福祉学専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士 (社会福祉学)	1.10	平成13年度		
	社会福祉学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (社会福祉学)	0.66	平成16年度		
臨床心理学専攻 (修士課程)	2	10	—	20	修士 (臨床心理学)	1.25	平成17年度			

<p>附属施設の概要</p>	<p>           名 称：ルター研究所            目 的：ルター著作の翻訳と、その信仰と神学の研究            所 在 地：東京都三鷹市大沢三丁目10番20号            設置年月：昭和60年10月            規 模 等：土地544㎡ 建物299㎡（専有面積77㎡）         </p> <p>           名 称：臨床心理相談センター            目 的：地域社会の臨床心理相談活動、大学院の教育・訓練活動            所 在 地：東京都三鷹市大沢三丁目10番20号            設置年月：平成18年4月            規 模 等：土地451㎡ 建物268㎡（専有面積134㎡）         </p> <p>           名 称：包括的臨床死生学研究so            目 的：臨床死生学に基づく包括的研究活動            対人援助に対する包括的養成プログラムの開発            所 在 地：東京都三鷹市大沢三丁目10番20号            設置年月：平成21年4月         </p> <p>           名 称：コミュニティ人材養成センター            目 的：地域社会における「ひとに関わる人材」の養成活動の展開            所 在 地：東京都三鷹市大沢三丁目10番20号            設置年月：平成21年4月         </p>	
----------------	---	--

学 校 法 人 ル ー テ ル 学 院 届 出 等 に 関 わ る 組 織 の 移 行 表

平成25年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成26年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	
ルーテル学院大学					ルーテル学院大学				
総合人間学部					総合人間学部				
							3年次		
					人間福祉心理学科	90	20	400	学科の設置(届出)
				→		0	0	0	平成26年4月学生募集停止 平成28年4月編入学生募集停止
キリスト教学科	10	2	44						
							3年次		
社会福祉学科	50	10	220	→		0	0	0	平成26年4月学生募集停止 平成28年4月編入学生募集停止
							3年次		
臨床心理学科	30	8	136	→		0	0	0	平成26年4月学生募集停止 平成28年4月編入学生募集停止
総合人間学研究科					総合人間学研究科				
社会福祉学専攻					社会福祉学専攻				
博士前期課程	10	-	20		博士前期課程	10	-	20	
博士後期課程	3	-	9		博士後期課程	3	-	9	
臨床心理学専攻					臨床心理学専攻				
修士課程	10	-	20		修士課程	10	-	20	

## 設置前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況						新設学部等の学年進行状況					
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
総合人間学部 キリスト教学科 (廃止)	学士 (キリスト教学) (神学)	文学	人間福祉心理学科	5	3	総合人間学部 人間福祉心理学科 (総合人間学)	学士 (総合人間学)	文学 社会学・ 社会福祉学	キリスト教学科	5	3
			その他	1	1				社会福祉学科	10	6
			退職	1	0				臨床心理学科	8	3
			計	7	4				教養部門	2	2
総合人間学部 社会福祉学科 (廃止)	学士 (社会福祉学)	社会学・ 社会福祉学	人間福祉心理学科	10	6				新規採用	1	0
			その他	2	2				計	26	14
			計	12	7				<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; transform: rotate(45deg);"></div>		
総合人間学部 臨床心理学科 (廃止)	学士 (臨床心理学)	文学	人間福祉心理学科	8	3						
			その他	1	1						
			計	9	4						
教養部門			計	2	2						

## 教育課程等の概要

(総合人間学部 人間福祉心理学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教 養 科 目 群	総合人間学	1 前	2			○			5	1					オムニバス
	聖書を読む	1 後	2				○		2	1	1			兼1	
	キリスト教概論 I	1 前	2			○					1				
	キリスト教概論 II	1 後	2			○					1				
	社会福祉原論 I	1 前	2			○			1						
	社会福祉原論 II	1 後	2			○			1						
	心理学	1・2 前	2			○						1			
	心理学 II	1・2 後	2			○						1			
	コミュニケーションの理論	1 後	2			○			4	1		1			オムニバス
	生命・生態・進化 I	1・2・3・4 前	2			○			1						
	生命・生態・進化 II	1・2・3・4 後	2			○			1						
	スポーツと健康(体育実技を含む)A	1 前	2			○								兼1	※実技
	スポーツと健康(体育実技を含む)B	1 後	2			○								兼1	
	海と森の生物 I	2・3・4 前	2			○			1						
	海と森の生物 II	2・3・4 後	2			○			1						
	地球と宇宙I	1・2・3・4 前	2			○								兼1	隔年
	地球と宇宙II	1・2・3・4 後	2			○								兼1	隔年
	自然科学の視点 I	1・2・3・4 前	2			○			1						隔年
	自然科学の視点 II	1・2・3・4 後	2			○			1						隔年
	中世史との対話	1・2 前	2			○								兼1	隔年
	近世史との対話	1・2 後	2			○								兼1	隔年
	憲法	1・2 前	2			○			1						
	法学	1・2 後	2			○			1						
	社会学	1・2 前	2			○								兼1	
	社会学 II	1・2 後	2			○								兼1	
	政治学(国際政治を含む)	1・2 後	2			○								兼1	隔年
	文学 I	1・2 前	2			○								兼1	隔年
	文学 II	1・2 後	2			○								兼1	隔年
	教養としての哲学	1・2 前	2			○								兼1	
	哲学と論理	1・2 後	2			○								兼1	
	教育学	1・2 前	2			○								兼1	
	音楽の基礎	1・2 前	2			○								兼1	
	音楽の実際	1・2 後	2			○								兼1	
	コミュニケーションの演習	1 前	2				○		1	1	1				
	異文化間コミュニケーション	2・3・4 後	2			○			1	1					隔年/オムニバス
	キャリア概論 I	2 前	1			○				1				兼1	オムニバス
	キャリア概論 II	2 後	1			○				1				兼1	オムニバス
	コンピュータ入門 I	1・2・3・4 前	2			○			1						
	コンピュータ入門 II	1・2・3・4 後	2			○			1						
	情報言語コミュニケーション I	2・3・4 前	2			○			1						
	情報言語コミュニケーション II	2・3・4 後	2			○			1						
	英語Reading	1前・後	2			○			1					兼1	
	英語Speaking/Listening	1 前	2			○			1					兼1	
	英語Writing/Grammar I	1 前	1			○			1					兼1	
	英語Writing/Grammar II	1 後	1			○			1					兼1	
	英語特別演習(Independent Study)	2・3・4 通	1				○		1						
	英語Reading演習A(基礎)	2・3 前	1				○		1						
	英語Reading演習B(発展)	2・3 後	1				○		1						
	英語Speaking/Listening 演習	2・3 前	2				○		1					兼1	
	英語Writing 演習	2・3 前	1				○		1						隔年
	ドイツ語 初級A(読本・会話) I	1 前	1			○								兼1	
	ドイツ語 初級A(読本・会話) II	1 後	1			○								兼1	
	ドイツ語 初級B(文法)	1 前	2			○								兼1	
	ドイツ語 中級A(講読・会話) I	2 前	1			○								兼1	隔年
	ドイツ語 中級A(講読・会話) II	2 後	1			○								兼1	隔年
	ドイツ語 中級B(文法)	1 後	2			○								兼1	
	外国の言語と文化 初級(韓国語)	1・2・3・4 前	1			○								兼1	
	外国の言語と文化 中級(韓国語)	1・2・3・4 後	1			○								兼1	
	外国の言語と文化 初級(中国語) I	1・2・3・4 前	1			○								兼1	
	外国の言語と文化 初級(中国語) II	1・2・3・4 後	1			○								兼1	
	外国の言語と文化 (フィリピン語)	1・2・3・4 後	1			○				1					
	日本語特講(留学生) I	1・2 前	1			○								兼1	
	日本語特講(留学生) II	1・2 後	1			○								兼1	
小計(63科目)			12	95	0	-	-	-	7	3	2	1	0	兼18	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合人間学コア科目群	人間・文化とキリスト教Ⅰ	2・3 前		2		○				1					
	人間・文化とキリスト教Ⅱ	2・3 後		2		○				1					集中
	キリスト教の人間観Ⅰ	2・3・4 前		2		○			1						
	キリスト教の人間観Ⅱ	2・3・4 後		2		○			1						
	社会福祉の基礎	2 前		2		○			1						
	ソーシャルワーク論Ⅰ	2 前		2		○			1						
	ソーシャルワーク論Ⅱ	2 後		2		○			1						
	ターミナルケアとグリーフワーク	2・3・4 後		2		○			1					兼1	オムニバス
	地域福祉論Ⅰ	2 前		2		○								兼1	
	地域福祉論Ⅱ	2 後		2		○								兼1	
	ボランティア・市民活動論	2・3 前		2		○			1		1				オムニバス
	多文化ソーシャルワーク	2・3・4 後		2		○				1					
	児童福祉の諸問題	2 前		2		○			1						
	教育心理学	2 前		2		○					1				
	発達心理学(発達障害を含む)	2 前		2		○								兼1	
	国際社会福祉概説	2 前		2		○				1					
	心理療法概説	2 前		2		○				1					
	カウンセリング実技の基本	2 前		2		○					1				
	カウンセリングの実際	2 後		2		○						1			
	心理学基礎実験	2 後		2				○				1		兼1	
小計(20科目)			0	40	0	-	-	-	6	3	4	1	0	兼4	
総合人間学キリスト教のち科目群	いのち学序説	1・2 後	4	2		○			1						
	人間の尊厳と人権	2・3・4 前		2		○								兼1	
	福祉のキリスト教的源流	2・3・4 後		2		○			1						隔年
	社会福祉とキリスト教	2・3・4 後		2		○			1						隔年
	キリスト教と生命倫理	2・3・4 後		2		○								兼1	
	人間・いのち・世界Ⅰ	3・4 前		2		○			1						
	人間・いのち・世界Ⅱ	3・4 後		2		○			1						
	キリスト教の倫理	2・3・4 後		2		○			1						
小計(8科目)			0	16	0	-	-	-	3	0	0	0	0	兼2	
総合人間学実践科目群	海外研修	1・2・3・4 休		2				○	1	1					集中
	食といのちと環境Ⅰ	2・3 休		2		○				1					集中
	食といのちと環境Ⅱ	2・3 休		2		○				1					集中
	ボランティア実習	2 前		2				○			1				
	介護技術演習	2 休		1			○							兼1	集中
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2 後		2			○		2	1	1			兼4	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3・4 前		2			○		2	1	1			兼4	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3・4 前		2			○		2	1	1			兼4	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ	3・4 後		1			○		5	2	1			兼5	
	精神保健福祉援助演習(専門)Ⅰ	4 前		2			○		1						
	精神保健福祉援助演習(専門)Ⅱ	4 後		2			○							兼1	
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3 後		2			○		1					兼2	
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4 前		2			○		1					兼3	
	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	4 後		2			○		1					兼3	
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	3・4 前		4				○	3	1	1			兼4	
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	4 通		3				○	2	1					
	ソーシャルワーク実習Ⅲ	3・4 通		3				○	1						
	精神保健福祉現場実習	4 前		3				○	1					兼3	
	精神保健福祉実習	4 前		4				○	1					兼3	
	インターンシップゼミ	3 前		2			○				1				
	インターンシップⅠ	3 前		1				○			1				
	インターンシップⅡ	3 前		1				○			1				
	インターンシップⅢ	4 前		1				○			1				
	インターンシップⅣ	4 前		1				○			1				
海外インターンシップ前ゼミ	3 後		2			○			1						
海外インターンシップ	3 後		2				○		1						
臨床心理実習前演習	2 後		2				○			1				兼1	
臨床心理実習Ⅰ	3 前		2				○			1				兼1	
臨床心理実習Ⅱ	3 休		2				○			3				集中	
小計(29科目)			0	59	0	-	-	-	6	3	4	0	0	兼9	
総合人間学外国語原典講読科目	英語聖書Ⅰ	1・2 前		1		○									兼1
	英語聖書Ⅱ	1・2 後		1		○									兼1
	神学初級演習	1 後		2			○		1						
	旧約聖書原典講読	2 通		2		○									兼1
	新約聖書原典講読	3・4 後		2		○									兼1
	ドイツ語聖書	2 前		2		○									兼1
	ヘブル語	2 通		8		○			1						オムニバス
	ギリシア語	3 通		8		○									兼1
	社会福祉英専門書講読	2・3・4 後		2		○				1					
	臨床心理英専門書講読A	2・3・4 前		2		○									兼1
	臨床心理英専門書講読B	2・3・4 後		2		○									兼1
	臨床心理英語論文読解Ⅰ	2・3・4 前		2		○					1				
	臨床心理英語論文読解Ⅱ	2・3・4 後		2		○					1				
小計(13科目)			0	36	0	-	-	-	2	1	1	0		兼6	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合人間学 総合演習科目群	卒業演習プレゼминаール	3 前		1			○		1						
	卒業演習 I	3 後		2			○		5	3	2				
	卒業演習 II	4 前		2			○		5	3	2				
	卒業演習 III	4 後		2			○		3	1	2				
	ソーシャルワーク演習 V	3 後		2			○		4	2					
	ソーシャルワーク演習 VI	4 前		2			○		4	2					
	卒業論文	4 通		4			○		12	5	2				
	小計(7科目)		0	15	0	-	-	-	12	5	2	0	0		
総合人間学 キャリア形成科目群(キリスト教人間学系)	世界の宗教 I	1 前		2			○			1					
	世界の宗教 II	1 後		2			○			1					
	文化史	1・2・3 前		2			○			1					
	比較文化論	3・4 後		2			○			1					
	いのちのキリスト教史	2・3・4 後		2			○			1					
	日本における死生学	4 前		2			○		1						
	キリスト教と死生学	4 後		2			○		1						
	キリスト教カウンセリング	3・4 後		2			○								兼1
	キリスト教の歴史 I	3 前		2			○			1					
	キリスト教の歴史 II	3 後		2			○			1					
	聖書入門 I (旧約)	2 前		2			○								兼1
	聖書入門 II (新約)	2 後		2			○								兼1
	旧約聖書の人間観	3 後		2			○		1						兼1
	新約聖書の人物像	3 前		2			○								兼1
	聖書に見るジェンダー	3・4 後		2			○								兼1 隔年
	スピリチュアリティと聖書の伝統	3・4 前		2			○		1						
	美術史	2・3・4 前		2			○								兼1 隔年
	キリスト教美術特講	2・3・4 後		2			○								兼1 隔年
	キリスト教文学特講 I	2・3・4 前		2			○								兼1 隔年
	キリスト教文学特講 II	2・3・4 後		2			○								兼1 隔年
	キリスト教音楽実技 I	3 前		2											兼2
	キリスト教音楽実技 II	3 後		1											兼2
	キリスト教音楽実技 III	4 前		1											兼2
	礼拝音楽と讃美歌	4 後		2			○								兼1
	日本の宗教 I	3 前		2			○				1				
	日本の宗教 II	3 後		2			○				1				
	キリスト教の信仰	4 前		2			○								兼1
	小計(27科目)		0	52	0	-	-	-	3	2	0	0		兼9	
総合人間学 キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	社会福祉の歴史	1・2・3 休		2			○								兼1 集中
	社会福祉入門	1 後		2			○		1						
	ソーシャルワーク論 III	2 後		2			○		1						
	ソーシャルワーク論 IV	4 後		2			○		1						
	ソーシャルワーク論 V	4 前		2			○								兼1
	ソーシャルワーク論 VI	4 後		2			○								兼1
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開	3・4 後		2			○		1						
	介護概論	1・2 前		2			○								兼1
	高齢者福祉の諸問題	2 前		2			○		1						
	高齢者福祉論	2 後		2			○		1						
	障害者福祉の諸問題	2 前		2			○		1						
	障害者福祉論	2 後		2			○		1						
	保健医療サービス	3 後		2			○								兼1
	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	2 前		2			○								兼1
	精神保健福祉に関する制度とサービス	2 後		2			○								兼1
	精神障害者の生活支援システム	2 後		2			○								兼1
	SST	2・3・4 前・後		2			○								兼2
	権利擁護と成年後見制度	1・2 後		2			○		1						
	公的扶助論	2 後		2			○								兼1
	就労支援サービス	3 後		2			○		2						兼1 オムニバス
	更生保護制度論	2 後		2			○		1						兼1
	医学一般	2 前		2			○								兼1
	精神保健	1 後		2			○		1						
	精神医学	2 前		2			○		1						
	聴覚障害者のコミュニケーション	1・2・3・4 後		2			○								兼1
	ソーシャルワーク演習 I	1 前		2				○	3	1					オムニバス
	ソーシャルワーク演習 II	1 後		2				○	2	2					オムニバス
	ソーシャルワーク演習 III	2 前		2				○	4	1					オムニバス
	ソーシャルワーク演習 IV	3 前		2				○	3	1					オムニバス
	キャリアアップゼミ	4 後		2				○	5	2					オムニバス
	社会福祉特講A	4 後		2			○		1	1					オムニバス
	社会福祉特講B	4 後		2			○		1						兼1 オムニバス
	小計(32科目)		0	64	0	-	-	-	6	2	0	0	0	兼11	



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合人間学キャリア形成 科目群(地域福祉開発系)	社会福祉と国際協力	2・3・4 前		2		○				1					
	社会保障論I	2 前		2		○			1						
	社会保障論II	2 後		2		○			1						
	地域支援技法I	4 前		2		○				1	1			兼1	オムニバス
	地域支援技法II	4 後		2		○				1	1			兼1	オムニバス
	福祉行財政と福祉計画	3 後		2		○			2						オムニバス
	福祉サービスの組織と経営	3 後		2		○				1					
	社会福祉調査	3・4 後		2		○				1					
	福祉実践調査	4 前		2			○			1					
	地域開発総論	4 前		2		○			2	2					オムニバス
	社会福祉特講C	3 後		2			○		1						
小計(11科目)			0	22	0	-	-	-	2	2	1	0	0	兼1	
(総合人間学キャリア形成科目群 子ども支援系)	保育原理と保育士の専門性	2 前		2		○								兼1	
	児童福祉論	2 後		2		○			1						
	レクリエーションとグループリーダー	2 後		2		○								兼1	
	発達障害の理解	2 休		2		○								兼1	集中
	家族福祉論	3 休		1		○								兼1	集中
	家族心理学	2・3・4 前		2		○								兼1	
	子どもと教育	3 前		2		○								兼1	
	子どもと家族の国際問題と支援	3 後		2		○				1					
	子どものプレイセラピー	3 後		2		○			1						隔年
	虐待への対応	3 後		1		○			1						隔年
	教育カウンセリング	2・3・4 後		2		○					1				
	家族療法	2・3・4 後		2		○								兼1	
	小児と高齢者の栄養	3・4 後		2		○								兼1	
	子ども支援キャリアデザイン	1・2・3 前		1		○			1						
	野外活動とキャンプ	3・4 前		2		○			1	1					
	子どものグリーンワーク	3 後		1		○			1						隔年
小計(16科目)			0	28	0	-	-	-	1	2	1	0	0	兼8	
総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	臨床心理フレッシュマンゼミ	1 後		2			○				1	1			
	臨床心理学概説	1 前		2		○					1				
	臨床心理の倫理	2・3・4 後		2		○					1				
	心理療法演習	2・3・4 後		2			○				1				
	青年心理学	2・3・4 前		2		○					1				
	心理学研究法I(統計基礎)	1 後		2		○			1						
	心理学研究法II(質的研究)	2・3・4 前		2		○								兼1	
	心理学研究法III(データ解析)	2 前		2		○								兼1	
	質問紙調査法実習	3 前		2				○	1						
	人間行動観察実習	3・4 前		2				○				1			
	心理検査技法I	2・3・4 前		2				○		1					
	心理検査技法II	2・3・4 後		2				○		1					
	学習心理学	2・3・4 後		2		○								兼1	
	認知心理学	2・3・4 前		2		○								兼1	
	生理心理学	2・3・4 休		2		○								兼1	集中
	神経心理学	2・3・4 休		2		○								兼1	集中
	カウンセリングの理論	1・2 前		2		○					1				
	絵画療法	2・3・4 休		1		○								兼1	集中
	箱庭・カラー・ジュ療法	2・3・4 休		1		○								兼1	集中
	自律訓練法	1・2・3 休		1		○				1					集中
	サイコドラマI	2・3・4 前		1		○			1						
	サイコドラマII	2・3・4 後		1		○			1						
	サイコドラマIII	2・3・4 前		1		○			1						
	サイコドラマIII演習	2・3・4 前		1		○			1						
	人格心理学	2・3・4 後		2		○								兼1	
	交流分析	2・3・4 前		2		○								兼1	
社会心理学	2・3・4 休		2		○								兼1	集中	
産業組織心理学	2・3・4 後		2		○								兼1		
精神分析学	2・3・4 前		2		○								兼1		
ストレス学	2・3・4 後		2		○				1						
犯罪心理学	2・3・4 休		2		○								兼1	集中	
臨床心理特講A(大学院進学支援講座)	2・3・4 前		2		○						1				
小計(32科目)			0	57	0	-	-	-	1	1	3	1	0	兼12	
合計(258科目)			12	484	0	-	-	-	14	5	6	1	0	兼70	
学位又は称号		学士(総合人間学)						社会学・社会福祉学関係 文学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
教養科目から必修および英語科目選択必修(2単位)を含め30単位以上、 専門科目から総合人間学コア科目群の選択必修(4科目8単位)および総合人間学 キリスト教といのち科目群の選択必修(2科目4単位)を含め72単位以上を履修し、 124単位以上を履修すること。(履修科目の登録上限:48単位(年間))								2学期							
								15週							
								90分							

## 教育課程等の概要

(総合人間学部 キリスト教学科)

教養(Liberal Arts)科目:「いのち、環境、コミュニケーション」

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
<b>I. いのち</b>														
基礎	生命・生態・進化 I	1・2・3・4 前		2		○			1					
	生命・生態・進化 II	1・2・3・4 後		2		○			1					
	聖書入門 I (旧約)	1 前	2			○						兼1		
	聖書入門 II (新約)	1 後	2			○			1					
	キリスト教概論 I	1 前		2		○					1			
	キリスト教概論 II	1 後		2		○					1			
健康	スポーツと健康(体育実技を含む)A	1 前		2		○						兼1	※実技	
	スポーツと健康(体育実技を含む)B	1 後		2		○						兼1		
<b>II. 環境</b>														
自然	海と森の生物 I	2・3・4 前		2		○			1					
	海と森の生物 II	2・3・4 後		2		○			1					
	地球と宇宙 I	1・2・3・4 前		2		○						兼1	隔年	
	地球と宇宙 II	1・2・3・4 後		2		○						兼1	隔年	
	自然科学の視点 I	1・2・3・4 前		2		○			1				隔年	
	自然科学の視点 II	1・2・3・4 後		2		○			1				隔年	
社会	中世史との対話	1・2 前		2		○						兼1	隔年	
	近世史との対話	1・2 後		2		○						兼1	隔年	
	憲法	1・2 前		2		○			1					
	法学	1・2 後		2		○			1					
	社会学	1・2 前		2		○						兼1		
	社会学 II	1・2 後		2		○						兼1		
	政治学(国際政治を含む)	1・2 後		2		○						兼1	隔年	
	心理学	1・2 前		2		○					1			
心理学 II	1・2 後		2		○					1				
文化	文学 I	1・2 前		2		○						兼1	隔年	
	文学 II	1・2 後		2		○						兼1	隔年	
	教養としての哲学	1・2 前		2		○						兼1		
	哲学と論理	1・2 後		2		○						兼1		
	教育学	1・2 前		2		○						兼1		
	音楽の基礎	1・2 前		2		○						兼1		
音楽の実際	1・2 後		2		○						兼1			
<b>III. コミュニケーション</b>														
基礎	コミュニケーションの理論	1 後	2			○			1	1		1		オムニバス
	コミュニケーションの演習	1 前		2			○		1	1		1		オムニバス
	異文化間コミュニケーション	2・3・4 後		2		○			1	1				隔年
情報処理	キャリアデザイン講座	2・3・4 前・後			1	○			1	1				
	コンピュータ入門 I	1・2・3・4 前		2		○			1					
	コンピュータ入門 II	1・2・3・4 後		2		○			1					
	情報言語コミュニケーション I	2・3・4 前		2		○			1					
情報言語コミュニケーション II	2・3・4 後		2		○			1						
語学	英語Reading	1前・後		2		○			1				兼1	
	英語Speaking/Listening A	1 前		2		○			1				兼1	
	英語Speaking/Listening B	1 後		2		○			1				兼1	
	英語Writing/Grammar I	1 前		1		○			1				兼1	
	英語Writing/Grammar II	1 後		1		○			1				兼1	
	英語特別演習 I (語学研修等)	2・3・4 前		1		○			1					
	英語特別演習 II (Independent Study)	2・3・4 後		1		○			1					
	英語Reading演習A(基礎)	2・3 前		1		○			1					
	英語Reading演習B(発展)	2・3 後		1		○			1					
	英語Speaking/Listening 演習 A	2・3 前		2		○			1				兼1	
	英語Speaking/Listening 演習 B	2・3 後		2		○			1				兼1	
	英語Writing 演習	2・3 前		1		○			1				隔年	
	ドイツ語 初級A(読本・会話) I	1 前		1		○							兼1	
	ドイツ語 初級A(読本・会話) II	1 後		1		○							兼1	
	ドイツ語 初級B(文法)	1 前		2		○							兼1	
	ドイツ語 中級A(講読・会話) I	2 前		1		○							兼1 隔年	
	ドイツ語 中級A(講読・会話) II	2 後		1		○							兼1 隔年	
	ドイツ語 中級B(文法)	1 後		2		○							兼1	
	外国の言語と文化 初級(韓国語)	1・2・3・4 前		1		○							兼1 隔年	
	外国の言語と文化 中級(韓国語)	1・2・3・4 後		1		○							兼1 隔年	
外国の言語と文化 初級(中国語) I	1・2・3・4 前		1		○							兼1 隔年		
外国の言語と文化 初級(中国語) II	1・2・3・4 後		1		○							兼1 隔年		
日本語特講(留学生) I	1・2 前		1		○							兼1		
日本語特講(留学生) II	1・2 後		1		○							兼1		
小計(62科目)			6	99	1	-	-	-	5	1	1	1	0	兼16

キリスト教学科専門科目														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
<b>神学系科目群</b>														
基礎科目	キリスト教の世界Ⅰ	1 前	2			○			3	2				オムニバス
	キリスト教の世界Ⅱ	1 後	2			○				1				オムニバス
	神学通論	1・2 前	2			○			1					
	神学初級演習Ⅰ	2 前		1			○		1					
	神学初級演習Ⅱ	2 後		1			○		1					
	英語聖書Ⅰ	1・2 前		1			○		1					
	英語聖書Ⅱ	1・2 後		1			○		1					
聖書学(旧約聖書)	基礎英神学書Ⅰ	2・3 前		1		○			1					
	基礎英神学書Ⅱ	2・3 後		1		○			1					
	旧約緒論Ⅰ	2 前	2			○			1					
	旧約緒論Ⅱ	2 後	2			○			1					
	旧約歴史	2 前		2			○		1					隔年
	旧約釈義Ⅰa	3 前		2			○		1					
	旧約釈義Ⅰb	3 後		2			○		1					
聖書学(新約聖書)	旧約釈義Ⅱa	4 前		2			○		1					
	旧約釈義Ⅱb	4 後		2			○		1					
	旧約神学Ⅰ	4 前		2			○		1					
	旧約神学Ⅱ	4 後		2			○		1					
	新約緒論Ⅰ	2 前	2			○								兼1
	新約緒論Ⅱ	2 後	2			○								兼1
	新約時代史	2 休		2			○							隔年/集中
歴史神学	新約釈義Ⅰa	3 前		2			○							兼1
	新約釈義Ⅰb	3 後		2			○							兼1
	新約釈義Ⅱa	4 前		2			○			1				
	新約釈義Ⅱb	4 後		2			○							兼1
	新約神学Ⅰ(パウロ)	4 前		2			○			1				
	歴史神学Ⅰ(初代教会)	2 前		2			○			1				
	歴史神学Ⅱ(中世)	2 後		2			○			1				
ルター	歴史神学Ⅲ(宗教改革)	3 前		2			○			1				
	歴史神学Ⅳ(近・現代)	3 後		2			○			1				
	信条学	4 後		2			○			1				
	日本キリスト教史	3・4 前		2			○			1				
組織神学	ルターの生涯	3・4 後		2			○			1				隔年
	ルターの神学	3・4 前		2			○			1				隔年
	ルターと聖書	3・4 後		2			○			1				隔年
	ルーテル教会	3・4 前		2			○			1				隔年
実践神学	教義学概説Ⅰ	2・3 後	2							1				
	教義学概説Ⅱ	2・3 前		2			○			1				
	教義学	4 後		2			○			1				
	宗教哲学Ⅰ	4 前		2			○							兼1 隔年
実践神学	宗教哲学Ⅱ	4 前		2			○							兼1 隔年
	伝道学	3 後		2			○							兼1 隔年
	キリスト教カウンセリング	3・4 後		2			○							兼1 隔年
	礼拝学	4 後		2			○							兼1 隔年
キリスト教教育	3 前		2			○							兼1	
<b>文化系科目群</b>														
文	文化とキリスト教Ⅰ	2・3 前		2			○				1			
	文化とキリスト教Ⅱ	2・3 休		2			○				1			集中
	ビザンティン・キリスト教文化特講	3・4 前		2			○			1				隔年
	文化史	1・2・3 前		2			○				1			
	比較文化論	3・4 後		2			○				1			
	美術史	2・3・4 前		2			○							兼1 隔年
	キリスト教美術特講	2・3・4 後		2			○							兼1 隔年
	キリスト教文学特講Ⅰ	2・3・4 前		2			○							兼1 隔年
	キリスト教文学特講Ⅱ	2・3・4 後		2			○							兼1 隔年
	キリスト教音楽特講	2・3・4 後		2			○							兼1 隔年
	礼拝音楽と讃美歌Ⅰ	2・3・4 前		2			○							兼1 隔年
	礼拝音楽と讃美歌Ⅱ	2・3・4 前		2			○							兼1 隔年
宗教と思想	教会音楽実技Ⅰ(ピアノ・オルガン・パイプオルガン)	1・2・3・4 通		2							○			兼2
	教会音楽実技Ⅱ(ピアノ・オルガン・パイプオルガン)	2・3・4 前		1							○			兼2
	教会音楽実技Ⅲ(ピアノ・オルガン・パイプオルガン)	2・3・4 後		1							○			兼2
	キリスト教の人間観Ⅰ	1・2 前		2			○			1				
	キリスト教の人間観Ⅱ	1・2 後		2			○			1				
	宗教史	2・3 後		2			○				1			隔年
	宗教学	2・3 後		2			○				1			隔年中
地文域化	日本の宗教風土	3・4 休		2			○				1			
	日本宗教の源流	2・3・4 前		2			○				1			
	聖書に見るジェンダー	3・4 後		2			○							兼1 隔年
北米文化とキリスト教	2・3・4 後		2			○				1			隔年	
世界の教会	2・3・4 休		2						○	1			集中	
<b>言語系科目群</b>														
言語	ヘブル語	3 通		8			○			1				兼1
	旧約原典講読	4 前		2			○							兼1
	ギリシア語	2 通		8			○							兼1
	新約原典講読	3・4 前		2			○				1			
	フランス語Ⅰ	3 前		2			○							兼1
	フランス語Ⅱ	3 後		2			○							兼1
	基礎独神学書Ⅰ	3 前		2			○							兼1
	基礎独神学書Ⅱ	3 後		2			○							兼1
	ルター原典講読(ドイツ語)	3・4 後		2			○							兼1
	ルター原典講読(ラテン語)Ⅰ	4 前		2			○				1			
	ルター原典講読(ラテン語)Ⅱ	4 後		2			○				1			
	英専門書講読Ⅰ	3・4 前		2			○					1		隔年
	英専門書講読Ⅱ	3・4 後		2			○					1		隔年
	英専門書講読Ⅲ	3・4 前		2			○				1			隔年
英専門書講読Ⅳ	3・4 後		2			○				1			隔年	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
<b>課題研究と卒業論文</b>															
	課題研究方法論	1・2 休		1			○		1					集中	
	課題研究Ⅰa	2・3 前		1			○		1						
	課題研究Ⅰb	2・3 後		1			○		1						
	課題研究Ⅱa	3 前		1			○		1						
	課題研究Ⅱb	3 後		1			○		1						
	卒業論文(キリスト教学科)	4 通		4			○		4	2					
<b>学芸員関連科目</b>															
学芸員	生涯学習概論	2・3・4 前		2			○							兼1 隔年	
	博物館学総論	2・3・4 後		2			○							兼1	
	博物館学各論Ⅰ	2・3・4 前		2			○							兼1 隔年	
	博物館学各論Ⅱ	2・3・4 前		2			○							兼1 隔年	
	博物館学実習	4 前		3				○						兼1	
	視聴覚教育メディア研究	2・3 後		2			○							兼1	
<b>いのち学</b>															
いのち学	人間・いのち・世界Ⅰ	2 前	2				○		1						
	人間・いのち・世界Ⅱ	2 後	2				○		1						
	いのち学序説	2・3 前		2			○		1						
	食といのちと環境Ⅰ	2・3 休		2			○			1				集中	
	食といのちと環境Ⅱ	2・3 休		2			○			1				集中	
	新約神学Ⅱ(福音書におけるいのち)	4 前		2			○			1					
	いのちのキリスト教史	2・3・4 後		2			○			1					
	死生学Ⅰ	3・4 前		2			○			1					
	死生学Ⅱ	3・4 後		2			○			1					
	キリスト教倫理Ⅰ	3 前		2			○			1					
	キリスト教倫理Ⅱ	3 後		2			○			1					
	キリスト教と環境倫理	2 前		2			○			1					
	キリスト教と生命倫理	2 後		2			○			1					
	神化の教理と永遠のいのち	4 前		2			○			1				隔年	
	スピリチュアリティと聖書の伝統	3・4 前		2			○			1				隔年	
	ターミナルケアとグリーフワーク	2・3・4 後		2			○			2				オムニバス	
	小計(112科目)			20	206	0	-	-	-	7	3	0	0	0	兼22

<b>社会福祉学科専門科目</b>														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目	社会福祉入門Ⅰ	1 後		2			○		1					
	社会福祉入門Ⅱ	2 前		2			○		1					
	社会福祉原論Ⅰ	1 前		2			○		1					
	社会福祉原論Ⅱ	1 後		2			○		1					
	地域福祉論Ⅰ	2 前		2			○		1					
	地域福祉論Ⅱ	2 後		2			○		1					
	社会保障論Ⅰ	2 前		2			○		1					
	社会保障論Ⅱ	2 後		2			○		1					
	国際社会福祉概説	1・2 前		2			○			1				
	社会福祉の歴史	1・2・3 休		2			○							兼1 集中
キリスト教	キリスト教と環境倫理	2 前		2			○		1					
	キリスト教と生命倫理	2 後		2			○		1					
	福祉のキリスト教的源流	2・3・4 後		2			○		1					隔年
	福祉のキリスト教的展開	2・3・4 後		2			○		1					隔年
	社会福祉とキリスト教	2・3・4 後		2			○		1					隔年
援助技術	いのち学序説	2・3・4 前		2			○		1					
	ソーシャルワーク論Ⅰ	2 前		2			○		1					
	ソーシャルワーク論Ⅱ	2 後		2			○		1					
	ソーシャルワーク論Ⅲ	2 後		2			○		1					
	ソーシャルワーク論Ⅳ	4 後		2			○		1					
	福祉行政と福祉計画	3 後		2			○		2					
	社会福祉調査	3・4 後		2			○			1				
	心理療法概説	1・2 前		2			○			1				
	カウンセリングの理論	1・2 前		2			○				1			
	カウンセリング実技の基本	1・2 前		2			○				1			
専門領域	カウンセリングの実際	2 後		2			○				1			
	高齢者福祉の諸問題	2 前		2			○		1					
	高齢者福祉論	2 後		2			○		1					
	介護概論	1・2 前		2			○							兼1
	障害者福祉の諸問題	2 前		2			○		1					
	障害者福祉論	2 後		2			○		1					
	児童福祉の諸問題	2 前		2			○		1					
	児童福祉論	2 後		2			○		1					
	保健医療サービス	3 後		2			○							兼1
	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	2 前		2			○		1					
	精神保健福祉に関する制度とサービス	2 後		2			○		1					
	精神障害者の生活支援システム	2 後		2			○							兼1
	SST	2・3・4前・後		2			○							兼2
	公的扶助論	2 後		2			○							兼1
	就労支援サービス	3 後		2			○		2					兼1
	権利擁護と成年後見制度	1・2 後		2			○		1					
	更生保護制度論	2 後		2			○		1					
	精神保健	1 前		2			○		1					
	医学一般	1・2 前		2			○							兼1
	精神医学	1 後		2			○		1					
ボランティア論	1・2・3・4 前		2			○		1		1				
家族福祉論	2・3・4 休		1			○							兼1 集中	
ターミナルケアとグリーフワーク	2・3・4 後		2			○			2				オムニバス	
聴覚障害者のコミュニケーション	1・2・3・4 後		2			○							兼1	
レクリエーション	2・3・4 後		2			○							兼1	
保育原理と保育士の専門性	2・3・4 前		2			○							兼1	
小児と高齢者の栄養	3・4 前		2			○							兼1	
国際	社会福祉と国際協力	2・3・4 前		2			○			1				
	多文化ソーシャルワーク	2・3・4 後		2			○			1				
	国際社会福祉研修	1・2・3・4 休		2			○			1				
小計(55科目)			0	109	0	-	-	-	11	3	3	0	0	兼13

臨床心理学科専門科目														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
<b>専門基礎科目</b>														
人倫 間 観 と	臨床心理学概説	1 前		2		○					1			
	キリスト教の人間観 I	2・3 前		2		○			1					
	キリスト教の人間観 II	2・3 後		2		○			1					
	臨床心理の倫理	3 後		2		○			1					
心研 究 学 法	心理学研究法(統計基礎)	1前・後		2		○			1					
	心理学研究法II(質的研究)	2・3・4 前		2		○							兼1	
	心理学研究法III(データ解析)	2 前		2			○						兼1	
	心理統計法(質問紙調査法)	3 前		2		○			1					
	観察法・実験法	2・3・4 前		2		○					1			
心実 演 習 学 ・ 基 礎 実 験 習	心理検査技法 I	2・3・4 前		2		○			1					
	心理検査技法 II	2・3・4 後		2		○			1					
	カウンセリング実技の基本	2 前		2		○				1				
	カウンセリングの実際	2・3・4 後		2		○				1				
<b>臨床心理コアプログラム</b>														
学心 習 理 学	学習心理学	2・3・4 後		2		○								兼1
	認知心理学	2・3・4 前		2		○								兼1
教発 育 達 心 理 学 学	教育心理学	2・3・4 後		2		○				1				
	発達心理学(発達障害を含む)	2・3・4 前		2		○								兼1
生心 理 理 学	生理心理学	2・3・4 休		2		○								兼1 集中
	神経心理学	2・3・4 休		2		○								兼1 集中
臨 床 心 理 学	心理療法概説	1・2 前		2		○				1				
	カウンセリングの理論	1・2 前		2		○				1				
	家族療法	2・3・4 後		2		○								兼1
	教育カウンセリング	2・3・4 前		2		○				1				
	絵画療法	2・3・4 休		1		○								兼1 集中
	箱庭・コラーージュ療法	2・3・4 休		1		○								兼1 集中
	自律訓練法	1・2・3 休		1		○				1				集中
	心理技法エッセンス(NLP技法)	2・3・4 後		2		○			1					
	サイコドラマ I	2・3・4 前・後		1		○			1					
	サイコドラマ II	2・3・4 後		1		○			1					
	サイコドラマ III	2・3・4 前・後		1		○			1					
人 心 格 理 学	サイコドラマ III 演習	2・3・4 前・後		1		○			1					
	子どものプレイセラピー	3・4 後		1		○			1					
	虐待への対応	3・4 後		1		○			1					
	発達障害の理解	2・3・4 休		2		○								兼1 集中
	人格心理学(精神分析を中心に)	2・3・4 前		2		○				1				兼1
社 心 会 理 学	交流分析	2・3・4 前		2		○				1				
	社会心理学	2・3・4 休		2		○								兼1 集中
	家族心理学	2・3・4 前		2		○								兼1 集中
精 医 神 学	犯罪心理学	2・3・4 休		2		○								兼1 集中
	精神保健	1 前		2		○			1					
	精神医学	1 後		2		○			1					
そ の 他	医学一般	2 前		2		○								兼1
	英専門書講読A	3・4 前		2		○								兼1
	英専門書講読B	3・4 後		2		○								兼1
	臨床心理特講A	2・3・4 前		2		○					1			
	保育原理と保育士の専門性	2・3・4 前		2		○								兼1
	小児と高齢者の栄養	2・3・4 前		2		○								兼1
	臨床心理海外研修	2・3・4 休		2			○		2					
卒業演習プレゼミナール	3 後		1			○		1						
<b>キリスト教カウンセリングプログラム</b>														
神 学	いのち学序説	2・3・4 前		2		○			1					
	キリスト教と環境倫理	2 前		2		○			1					
	キリスト教と生命倫理	2 後		2		○			1					
	キリスト教倫理 I	3 前		2		○			1					
	キリスト教倫理 II	3 後		2		○			1					
	日本キリスト教史	3・4 前		2		○				1				
実 践	キリスト教カウンセリング	3・4 後		2		○								兼1
	ターミナルケアとグリーフワーク	2・3・4 後		2		○			2					
	キリスト教教育	3 前		2		○				1				
文 化	キリスト教文学特講 I	2・3・4 前		2		○								兼1 隔年
	キリスト教文学特講 II	2・3・4 後		2		○								兼1 隔年
	聖書に見るジェンダー	3・4 後		2		○								兼1 隔年
	文化とキリスト教 I	2・3 前		2		○			1					
	文化とキリスト教 II	2・3 休		2		○			1					
	美術史	2・3・4 前		2		○								兼1 隔年
	キリスト教美術特講	2・3・4 後		2		○								兼1 隔年
	死生学 I	3・4 前		2		○			1					
	死生学 II	3・4 後		2		○			1					
	食といのちと環境 I	2・3 休		2		○				1				
	食といのちと環境 II	2・3 休		2		○				1				
北米文化とキリスト教	2・3・4 後		2		○				1					隔年

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
<b>精神保健福祉プログラム</b>														
社会福祉の基礎	社会福祉原論I	1 前		2		○			1					
	社会福祉原論II	1 後		2		○			1					
	社会福祉入門 I	1 後		2		○			1					
	社会福祉入門 II	2 前		2		○			1					
	社会保障論 I	2 前		2		○			1					
	社会保障論 II	2 後		2		○			1					
	地域福祉論 II	2 後		2		○			1					
	公的扶助論	2 後		2		○								兼1
社会福祉	障害者福祉論	2 後		2		○			1					
	ソーシャルワーク論 I	2 前		2		○			1					
	ソーシャルワーク論 II	2 後		2		○			1					
	ソーシャルワーク論 III	2 後		2		○			1					
精神保健福祉の基礎	地域福祉論 I	2 前		2		○			1					
	保健医療サービス	3 後		2		○								兼1
	権利擁護と成年後見制度	1・2 後		2		○			1					
	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	2 前		2		○			1					
	精神保健福祉に関する制度とサービス	2 後		2		○			1					
	精神障害者の生活支援システム	2 後		2		○								兼1
	SST	2・3・4 前・後		2		○								兼2
福祉行政と福祉計画	3 後		2		○			2						
小計(90科目)			0	170	0	-	-	-	16	3	3	1	0	兼27

<b>教職に関する科目</b>														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	教師論	1・2 後		2		○								兼1
	教育原理(教育課程論を含む)	1・2 後		2		○								兼1
	教育哲学(教育史を含む)	2・3 後		2		○			1					
	教育心理学	2・3 後		2		○					1			
	発達心理学(発達障害を含む)	3・4 前		2		○								兼1
	教育経営概説	2・3・4 前		2		○								兼1
	教育方法論	2・3 前		2		○								兼1
	視聴覚教育メディア研究	2・3 後		2		○								兼1
	宗教科教育法 I	3 前		2		○								兼1
	宗教科教育法 II	3 後		2		○								兼1
	道德教育の研究	2・3 前		2		○								兼1
	特別活動の指導	2・3 後		2		○								兼1
	生徒指導の原理	2・3・4 後		2		○								兼1
	教育カウンセリング	2・3・4 前		2		○								兼1
	教育実習 I [事前・事後指導(1単位を含む)]	4 前		3				○	1	1		1		
	科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				
	教育実習 II	4 前		2				○	1	1				集中
	教職実践演習(中・高)	4 後		2				○		1	1			兼1
小計(17科目)			0	35	0	-	-	-	2	1	2	0	0	兼10

<b>教科又は教職に関する科目</b>														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	介護体験学習(事前学習を含む)	3 休		2	0	○	-	-	2	0	0	0	0	兼0
小計(1科目)			0	2	0	-	-	-	2	0	0	0	0	兼0
合計(337科目)			26	621	1	-	-	-	18	6	5	1	0	兼66
学位又は称号	学士(キリスト教学・神学)	学位又は学科の分野			文学関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間など						
教養科目28単位以上、専門科目72単位以上、教養または専門科目から24単位以上を修得し、124単位以上を修得すること。								1学年の学期区分			2学期			
なお教養科目は必修3科目6単位、英語科目選択必修4単位を含めて28単位以上修得すること、専門科目は、必修10科目20単位を含めて72単位以上								1学期の授業期間			15週			
								1時限の授業時間			90分			

## 教育課程等の概要

(総合人間学部 社会福祉学科)

教養(Liberal Arts)科目:「いのち、環境、コミュニケーション」

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手
I. いのち														
基礎	生命・生態・進化Ⅰ	1・2・3・4 前	4 単位 選択 必修	2		○			1					
	生命・生態・進化Ⅱ	1・2・3・4 後		2		○			1					
	聖書入門Ⅰ(旧約)	1 前		2		○							兼1	
	聖書入門Ⅱ(新約)	1 後		2		○			1					
	キリスト教概論Ⅰ	1 前		2		○					1			
	キリスト教概論Ⅱ	1 後		2		○					1			
健康	スポーツと健康(体育実技を含む)A	1 前	2		○							兼1 ※実技		
	スポーツと健康(体育実技を含む)B	1 後	2		○							兼1		
II. 環境														
自然	海と森の生物Ⅰ	2・3・4 前	2			○			1					
	海と森の生物Ⅱ	2・3・4 後	2			○			1					
	地球と宇宙Ⅰ	1・2・3・4 前	2			○						兼1 隔年		
	地球と宇宙Ⅱ	1・2・3・4 後	2			○						兼1 隔年		
	自然科学の視点Ⅰ	1・2・3・4 前	2			○			1			隔年		
	自然科学の視点Ⅱ	1・2・3・4 後	2			○			1			隔年		
社会	中世史との対話	1・2 前	2			○						兼1 隔年		
	近世史との対話	1・2 後	2			○						兼1 隔年		
	憲法	1・2 前	2			○			1					
	社会学	1・2 前	2			○						兼1		
	社会学Ⅱ	1・2 後	2			○						兼1		
	政治学(国際政治を含む)	1・2 後	2			○						兼1 隔年		
文化	心理学	1・2 前	2			○					1			
	心理学Ⅱ	1・2 後	2			○					1			
	文学Ⅰ	1・2 前	2			○						兼1 隔年		
	文学Ⅱ	1・2 後	2			○						兼1 隔年		
	教養としての哲学	1・2 前	2			○						兼1		
	哲学と論理	1・2 後	2			○						兼1		
教育	教育学	1・2 前	2			○						兼1		
	音楽の基礎	1・2 前	2			○						兼1		
	音楽の実践	1・2 後	2			○						兼1		
III. コミュニケーション														
基礎	コミュニケーションの理論	1 後	2			○			1	1	1		オムニバス	
	コミュニケーションの演習	1 前	2			○			1	1	1		オムニバス	
	異文化間コミュニケーション	2・3・4 後	2			○			1	1			隔年	
	キャリアデザイン講座	前・後	1			○			1	1				
情報処理	コンピュータ入門Ⅰ	1・2・3・4 前	2			○			1					
	コンピュータ入門Ⅱ	1・2・3・4 後	2			○			1					
	情報言語コミュニケーションⅠ	2・3・4 前	2			○			1					
	情報言語コミュニケーションⅡ	2・3・4 後	2			○			1					
語学	英語Reading	1前・後	4 単位 選択 必修	2		○			1				兼1	
	英語Speaking/Listening A	1 前		2		○			1				兼1	
	英語Speaking/Listening B	1 後		2		○			1				兼1	
	英語Writing/Grammar Ⅰ	1 前		1		○			1				兼1	
	英語Writing/Grammar Ⅱ	1 後		1		○			1				兼1	
	英語特別演習Ⅰ(語学研修等)	2・3・4 前		1			○			1				
	英語特別演習Ⅱ(Independent Study)	2・3・4 後		1			○			1				
	英語Reading演習A(基礎)	2・3 前		1			○			1				
	英語Reading演習B(発展)	2・3 後		1			○			1				
	英語Speaking/Listening 演習 A	2・3 前		2			○			1			兼1	
	英語Speaking/Listening 演習 B	2・3 後		2			○			1			兼1	
	英語Writing 演習	2・3 前		1			○			1			隔年	
	ドイツ語 初級A(読本・会話)Ⅰ	1 前		1			○						兼1	
	ドイツ語 初級A(読本・会話)Ⅱ	1 後		1			○						兼1	
	ドイツ語 初級B(文法)	1 前		2			○						兼1	
	ドイツ語 中級A(講読・会話)Ⅰ	2 前		1			○						兼1 隔年	
	ドイツ語 中級A(講読・会話)Ⅱ	2 後		1			○						兼1 隔年	
ドイツ語 中級B(文法)	1 後	2			○						兼1			
外国の言語と文化 初級(韓国語)	1・2・3・4 前	1			○						兼1 隔年			
外国の言語と文化 中級(韓国語)	1・2・3・4 後	1			○						兼1 隔年			
外国の言語と文化 初級(中国語)Ⅰ	1・2・3・4 前	1			○						兼1 隔年			
外国の言語と文化 初級(中国語)Ⅱ	1・2・3・4 後	1			○						兼1 隔年			
日本語特講(留学生)Ⅰ	1・2 前	1			○						兼1			
日本語特講(留学生)Ⅱ	1・2 後	1			○						兼1			
小計(61科目)			2	101	1	-	-	-	5	1	1	1	0	兼17

社会福祉学科専門科目														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目	社会福祉入門Ⅰ	1 後	2			○			1					
	社会福祉入門Ⅱ	2 前	2			○			1					
	社会福祉原論Ⅰ	1 前	2			○			1					
	社会福祉原論Ⅱ	1 後	2			○			1					
	地域福祉論Ⅰ	2 前		2		○			1					
	地域福祉論Ⅱ	2 後		2		○			1					
	社会保障論Ⅰ	2 前		2		○			1					
	社会保障論Ⅱ	2 後		2		○			1					
	国際社会福祉概説	1・2 前		2		○				1				
社会福祉の歴史	1・2・3 休		2		○								兼1 集中	
キリスト教	キリスト教と環境倫理	2 前		4		2			1					
	キリスト教と生命倫理	2 後		4		2			1					
	福祉のキリスト教的原流	2・3・4 後		4		2			1					隔年
	福祉のキリスト教的展開	2・3・4 後		4		2			1					隔年
	社会福祉とキリスト教	2・3・4 後		4		2			1					隔年
いのち学序説	2・3・4 前		4		2			1						
援助技術	ソーシャルワーク論Ⅰ	2 前		2		2			1					
	ソーシャルワーク論Ⅱ	2 後		2		2			1					
	ソーシャルワーク論Ⅲ	2 後		2		2			1					
	ソーシャルワーク論Ⅳ	4 後		2		2			1					
	ソーシャルワーク論Ⅴ	4 前	2			2			1					
	ソーシャルワーク論Ⅵ	4 後	2			2			1					
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開	3・4 後		2		2			1					
	福祉行政と福祉計画	3 後		2		2			2					
	福祉サービスの組織と経営	3 後		2		2				1				
	社会福祉調査	3・4 後		2		2				1				
	心理療法概説	1・2 前		2		2				1				
	カウンセリングの理論	1・2 前		2		2					1			
	カウンセリング実技の基本	1・2 前		2		2					1			
カウンセリングの実際	2 後		2		2					1				
専門領域	高齢者福祉の諸問題	2 前		2		2			1					
	高齢者福祉論	2 後		2		2			1					
	介護概論	1・2 前		2		2								兼1
	障害者福祉の諸問題	2 前		2		2			1					
	障害者福祉論	2 後		2		2			1					
	児童福祉の諸問題	2 前		2		2			1					
	児童福祉論	2 後		2		2			1					
	保健医療サービス	3 後		2		2								兼1
	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	2 前		2		2			1					
	精神保健福祉に関する制度とサービス	2 後		2		2			1					
	精神障害者の生活支援システム	2 後		2		2								兼1
	SST	2・3・4 前・後		2		2								兼2
	公的扶助論	2 後		2		2								兼1
	就労支援サービス	3 後		2		2			2					兼1
	権利擁護と成年後見制度	1・2 後		2		2			1					
	更生保護制度論	2 後		2		2			1					
	精神保健	1 前		2		2			1					
	医学一般	1・2 前		2		2								兼1
精神医学	1 後		2		2			1						
ボランティア論	1・2・3・4 前		2		2			1		1				
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門領域	家族福祉論	2・3・4 休		1		2			○					兼1 集中
	ターミナルケアとグループワーク	2・3・4 後		2		2			○					オムニバス
	聴覚障害者のコミュニケーション	1・2・3・4 後		2		2			○					兼1
	レクリエーション	2・3・4 後		2		2			○					兼1
	保育原理と保育士の専門性	2・3・4 前		2		2			○					兼1
特講	小児と高齢者の栄養	3・4 前		2		2			○					兼1
	英専門書講読	2・3・4 後		2		2			○					
	社会福祉特講A(社会福祉士)	4 後		2		2			○	1	1			
国際	社会福祉特講B(精神保健福祉士)	4 後		2		2			○	1				兼1
	社会福祉特講C	2・3・4 後		2		2			○	1				2013:は閉講
	社会福祉と国際協力	2・3・4 前		2		2			○		1			
	多文化ソーシャルワーク	2・3・4 後		2		2			○		1			
国際	国際社会福祉研修	1・2・3・4 休		2		2			○		1			
	タガログ語	2・3 後		2		2			○		1			



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
演習	ソーシャルワーク演習Ⅰ	1前	2			○			2	2					
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	1後	2			○			3	2					
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2前		2		○			6	2	1				
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	3前		2		○			4	1	1				
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	3後		2		○			3	1					
	ソーシャルワーク演習Ⅵ	4前		2		○			5	1					
	キャリアアップゼミ	4後		2		○			6	2					
	調査ゼミ	4前		2		○				1					
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2後		2		○			2	1	1				兼4
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3・4前		2		○			2	1	1				兼6
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3・4前		2		○			2	1	1				兼6
	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ	3・4後		1		○			4	2	1				兼8
	精神保健福祉援助演習(専門)Ⅰ	4前		2		○			1						
	精神保健福祉援助演習(専門)Ⅱ	4後		2		○									兼1
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3後		2		○			1						兼1
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4前		2		○			1						兼2
	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	4前		2		○			1						兼2
	フイリピン実習前ゼミ	3後		2		○				1					
	介護技術演習	2休		1		○									兼1 集中
卒業論文(社会福祉学科)	3通		4		○			7	2						
実習	ソーシャルワーク実習Ⅰ	3・4前	4			○			2	1	1				兼6
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	4通	3			○			4	1					
	ソーシャルワーク実習Ⅲ	3・4通	4			○			1						
	精神保健福祉現場実習	4前	3			○			1						兼1
	精神保健福祉実習	4前	4			○			1						兼2
	国際社会福祉実習	4休	3			○				1					集中
	国際社会福祉実習(フイリピン)	3・4休	6			○				1					集中
	社会福祉施設介護実習	3・4休	1			○			1						集中
小計(92科目)			16	179	0	-	-	-	11	3	3	0	0	兼20	

キリスト教学科専門科目

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
神学系科目群															
基礎科目	神学通論	1・2前		2		○			1						
	神学初級演習Ⅰ	2前		1			○		1						
	神学初級演習Ⅱ	2後		1			○		1						
	英語聖書Ⅰ	1・2前		1		○			1						
	英語聖書Ⅱ	1・2後		1		○			1						
	基礎英神学書Ⅰ	2・3前		1		○			1						
基礎英神学書Ⅱ	2・3後		1		○			1							
聖書学(旧約聖書)	旧約緒論Ⅰ	2前		2		○			1						
	旧約緒論Ⅱ	2後		2		○			1						
	旧約歴史	2前		2		○			1						隔年
	旧約釈義Ⅰa	3前		2		○			1						
	旧約釈義Ⅰb	3後		2		○			1						
	旧約釈義Ⅱa	4前		2		○			1						
	旧約釈義Ⅱb	4後		2		○			1						
	旧約神学Ⅰ	4前		2		○			1						
旧約神学Ⅱ	4後		2		○			1							
聖書学(新約聖書)	新約緒論Ⅰ	2前		2		○									兼1
	新約緒論Ⅱ	2後		2		○									兼1
	新約時代史	2休		2		○									兼1 隔年/集中
	新約釈義Ⅰa	3前		2		○									兼1
	新約釈義Ⅰb	3後		2		○									兼1
	新約釈義Ⅱa	4前		2		○				1					兼1
新約釈義Ⅱb	4後		2		○										
新約神学Ⅰ(パウロ)	4前		2		○				1						
歴史神学	歴史神学Ⅰ(初代教会)	2前		2		○			1						
	歴史神学Ⅱ(中世)	2後		2		○			1						
	歴史神学Ⅲ(宗教改革)	3前		2		○				1					
	歴史神学Ⅳ(近・現代)	3後		2		○				1					
	信条学	4後		2		○				1					
日本キリスト教史	3・4前		2		○				1						
ルター	ルターの生涯	3・4後		2		○			1						隔年
	ルターの神学	3・4前		2		○			1						隔年
	ルターと聖書	3・4後		2		○			1						隔年
	ルーテル教会	3・4前		2		○			1						隔年
組神学	教義学	4後		2		○			1						
	宗教哲学Ⅰ	4前		2		○									兼1 隔年
	宗教哲学Ⅱ	4前		2		○									兼1 隔年
実践神学	伝道学	3後		2		○									兼1 隔年
	キリスト教カウンセリング	3・4後		2		○									兼1
	礼拝学	4後		2		○									兼1
キリスト教教育	3前		2		○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
<b>文化系科目群</b>																	
文化	文化とキリスト教Ⅰ	2・3 前		2		○				1							
	文化とキリスト教Ⅱ	2・3 休		2		○				1				集中 隔年			
	ピサンの・キリスト教文化特講	3・4 前		2		○			1								
	文化史	1・2・3 前		2		○				1							
	比較文化論	3・4 後		2		○				1							
	美術史	2・3・4 前		2		○								兼1 隔年			
	キリスト教美術特講	2・3・4 後		2		○								兼1 隔年			
	キリスト教文学特講Ⅰ	2・3・4 前		2		○								兼1 隔年			
	キリスト教文学特講Ⅱ	2・3・4 後		2		○								兼1 隔年			
	キリスト教音楽特講	2・3・4 後		2		○								兼1 隔年			
	礼拝音楽と讃美歌Ⅰ	2・3・4 前		2		○								兼1 隔年			
	礼拝音楽と讃美歌Ⅱ	2・3・4 前		2		○								兼1 隔年			
	教会音楽実技Ⅰ(ピアノ・オルガン・パイプオルガン)	1・2・3・4 通		2				○						兼2			
	教会音楽実技Ⅱ(ピアノ・オルガン・パイプオルガン)	2・3・4 前		1				○						兼2			
教会音楽実技Ⅲ(ピアノ・オルガン・パイプオルガン)	2・3・4 後		1				○						兼2				
宗教 と 思想	キリスト教の人間観Ⅰ	1・2 前		2		○			1								
	キリスト教の人間観Ⅱ	1・2 後		2		○			1								
	宗教史	2・3 後		2		○				1				隔年			
	宗教学	2・3 後		2		○				1				隔年			
	日本の宗教風土	3・4 休		2		○				1				隔年/集中			
	日本宗教の源流	2・3・4 前		2		○				1							
	聖書に見るシモン	3・4 後		2		○								兼1 隔年			
地文 域化	北米文化とキリスト教	2・3・4 後		2		○				1				隔年			
	世界の教会	2・3・4 休		2				○	1					集中			
<b>言語系科目群</b>																	
言 語	ヘブル語	3 通		8		○			1					兼1			
	旧約原典講読	4 前		2		○								兼1			
	ギリシア語	2 通		8		○								兼1			
	新約原典講読	3・4 前		2		○			1								
	ラテン語Ⅰ	3 前		2		○								兼1			
	ラテン語Ⅱ	3 後		2		○								兼1			
	基礎独神学書Ⅰ	3 前		2		○								兼1			
	基礎独神学書Ⅱ	3 後		2		○								兼1			
	ルター原典講読(ドイツ語)	3・4 後		2		○								兼1			
	ルター原典講読(ラテン語)Ⅰ	4 前		2		○			1								
	ルター原典講読(ラテン語)Ⅱ	4 後		2		○			1								
	英専門書講読Ⅰ	3・4 前		2		○				1				隔年			
	英専門書講読Ⅱ	3・4 後		2		○				1				隔年			
	英専門書講読Ⅲ	3・4 前		2		○			1					隔年			
英専門書講読Ⅳ	3・4 後		2		○			1					隔年				
<b>学芸員関連科目</b>																	
学 芸 員	生涯学習概論	2・3・4 前		2		○								兼1 隔年			
	博物館学総論	2・3・4 後		2		○								兼1			
	博物館学各論Ⅰ	2・3・4 前		2		○								兼1 隔年			
	博物館学各論Ⅱ	2・3・4 前		2		○								兼1 隔年			
	博物館学実習	4 前		3				○						兼1			
	視聴覚教育メディア研究	2・3 後		2		○								兼1			
<b>いのち学</b>																	
い の ち 学	人間・いのち・世界Ⅰ	2 前		2		○			1								
	人間・いのち・世界Ⅱ	2 後		2		○			1								
	いのち学序説	2・3 前		2		○			1								
	食といのちと環境Ⅰ	2・3 休		2		○				1				集中			
	食といのちと環境Ⅱ	2・3 休		2		○				1				集中			
	新約神学Ⅱ(福音書におけるいのち)	4 前		2		○				1							
	いのちのキリスト教史	2・3・4 後		2		○				1							
	死生学Ⅰ	3・4 前		2		○			1								
	死生学Ⅱ	3・4 後		2		○			1								
	キリスト教倫理Ⅰ	3 前		2		○			1								
	キリスト教倫理Ⅱ	3 後		2		○			1								
	キリスト教と環境倫理	2 前		2		○			1								
	キリスト教と生命倫理	2 後		2		○			1								
	神化の教理と永遠のいのち	4 前		2		○			1					隔年			
	スピリチュアリティと聖書の伝統	3・4 前		2		○			1					隔年			
	ターミナルケアとグリーフワーク	2・3・4 後		2		○			2					オムニバス			
	小計(102科目)			0	209		0		-	-	-	7	3	0	0	0	兼22

<b>臨床心理学科専門科目</b>														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
<b>専門基礎科目</b>														
人倫 価値 観 と	臨床心理学概説	1 前		2		○						1		
	キリスト教の人間観Ⅰ	2・3 前		2		○			1					
	キリスト教の人間観Ⅱ	2・3 後		2		○			1					
心研 究 学 法	臨床心理の倫理	3 後		2		○			1					
	心理学研究法(統計基礎)	1前・後		2		○			1					
	心理学研究法Ⅱ(質的研究)	2・3・4 前		2		○								兼1
	心理学研究法Ⅲ(データ解析)	2 前		2		○					○			兼1
	心理統計法(質問紙調査法)	3 前		2		○			1					
心実 演 習 学 ・ 基 礎 習	観察法・実験法	2・3・4 前		2		○						1		
	心理検査技法Ⅰ	2・3・4 前		2		○			1					
	心理検査技法Ⅱ	2・3・4 後		2		○			1					
	カウンセリング実技の基本	2 前		2		○					1			
	カウンセリングの実際	2・3・4 後		2		○					1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
臨床心理コアプログラム														
学心 習理 学	学習心理学	2・3・4 後		2		○							兼1	
	認知心理学	2・3・4 前		2		○							兼1	
教発 育達 心心 理理	教育心理学	2・3・4 後		2		○				1			兼1	
	発達心理学(発達障害を含む)	2・3・4 前		2		○							兼1	
生心学 理理	生理心理学	2・3・4 休		2		○							兼1	集中
	神経心理学	2・3・4 休		2		○							兼1	集中
臨 床 心 理 学	心理療法概説	1・2 前		2		○				1				
	カウンセリングの理論	1・2 前		2		○				1			兼1	
	家族療法	2・3・4 後		2		○							兼1	
	教育カウンセリング	2・3・4 前		2		○				1				
	絵画療法	2・3・4 休		1		○							兼1	集中
	箱庭・コラーージュ療法	2・3・4 休		1		○							兼1	集中
	自律訓練法	1・2・3 休		1		○				1				集中
	心理技法エッセンス(NLP技法)	2・3・4 後		2		○			1					
	サイコドラマⅠ	前・後		1		○			1					
	サイコドラマⅡ	2・3・4 後		1		○			1					
	サイコドラマⅢ	前・後		1		○			1					
	サイコドラマⅢ演習	前・後		1		○			1					
	子どものプレイセラピー	3・4 後		1		○			1					
虐待への対応	3・4 後		1		○			1						
発達障害の理解	2・3・4 休		2		○							兼1	集中	
人 心 格 理 学	人格心理学(精神分析を中心に)	2・3・4 前		2		○							兼1	
	交流分析	2・3・4 前		2		○			1					
社 心 会 理 学	社会心理学	2・3・4 休		2		○							兼1	集中
	家族心理学	2・3・4 前		2		○							兼1	
	犯罪心理学	2・3・4 休		2		○							兼1	集中
精 医 神 学	精神保健	1 前		2		○			1					
	精神医学	1 後		2		○			1					
	医学一般	2 前		2		○							兼1	
そ の 他	英専門書講読A	3・4 前		2		○							兼1	
	英専門書講読B	3・4 後		2		○							兼1	
	臨床心理特講A	2・3・4 前		2		○				1			兼1	
	保育原理と保育士の専門性	2・3・4 前		2		○							兼1	
	小児と高齢者の栄養	2・3・4 前		2		○							兼1	
	臨床心理海外研修 卒業演習プレゼミナール	2・3・4 休 3 後		2 1		○ ○			2 1					
キリスト教カウンセリングプログラム														
神 学	いのち学序説	2・3・4 前		2		○			1					
	キリスト教と環境倫理	2 前		2		○			1					
	キリスト教と生命倫理	2 後		2		○			1					
	キリスト教倫理Ⅰ	3 前		2		○			1					
	キリスト教倫理Ⅱ	3 後		2		○			1					
	日本キリスト教史	3・4 前		2		○				1				
実 践	キリスト教カウンセリング	3・4 後		2		○							兼1	
	ターミナルケアとグリーフワーク	2・3・4 後		2		○			2					
文 化	キリスト教教育	3 前		2		○							兼1	
	キリスト教文学特講Ⅰ	2・3・4 前		2		○							兼1	隔年
	キリスト教文学特講Ⅱ	2・3・4 後		2		○							兼1	隔年
	聖書に見るジェンダー	3・4 後		2		○							兼1	隔年
	文化とキリスト教Ⅰ	2・3 前		2		○			1					
	文化とキリスト教Ⅱ	2・3 休		2		○			1					
	美術史	2・3・4 前		2		○							兼1	隔年
	キリスト教美術特講	2・3・4 後		2		○							兼1	隔年
	死生学Ⅰ	3・4 前		2		○			1					
	死生学Ⅱ	3・4 後		2		○			1					
	食といのちと環境Ⅰ	2・3 休		2		○				1				
食といのちと環境Ⅱ	2・3 休		2		○				1					
北米文化とキリスト教	2・3・4 後		2		○				1				隔年	
精神保健福祉プログラム														
社 会 福 祉 の 基 礎	社会福祉原論Ⅰ	1 前		2		○			1					
	社会福祉原論Ⅱ	1 後		2		○			1					
	社会福祉入門Ⅰ	1 後		2		○			1					
	社会福祉入門Ⅱ	2 前		2		○			1					
	社会保障論Ⅰ	2 前		2		○			1					
	社会保障論Ⅱ	2 後		2		○			1					
	地域福祉論Ⅱ	2 後		2		○			1					
	公的扶助論	2 後		2		○							兼1	
障害者福祉論	2 後		2		○				1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
社援 会助 福祉 社術	ソーシャルワーク論Ⅰ	2 前		2		○			1					
	ソーシャルワーク論Ⅱ	2 後		2		○			1					
	ソーシャルワーク論Ⅲ	2 後		2		○			1					
精神 保健 福祉 の 基礎	地域福祉論Ⅰ	2 前		2		○			1					
	保健医療サービス	3 後		2		○								兼1
	権利擁護と成年後見制度	1・2 後		2		○			1					
	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	2 前		2		○			1					
	精神保健福祉に関する制度とサービス	2 後		2		○			1					
	精神障害者の生活支援システム	2 後		2		○								兼1
	SST	前・後		2		○								兼2
福祉行政と福祉計画	3 後		2		○			2						
	小計(90科目)		0	170	0	-	-	-	15	3	3	1	0	兼27
	合計(345科目)		18	659	1	-	-	-	18	6	5	1	0	兼74
学位又は称号	学士(社会福祉学)	学位又は学科の分野		社会学・社会福祉学関係										
卒業要件及び履修方法								授業期間など						
教養科目28単位以上、専門科目72単位以上、教養または専門科目から24単位以上を修得し、124単位以上を修得すること。 なお、教養科目は、必修2単位、選択必修4科目から4単位、英語科目選択必修4単位を含めて28単位以上修得すること。専門科目は、必修8科目16単位、								1学年の学期区分				2学期		
								1学期の授業期間				15週		
								1時限の授業時間				90分		

教育課程等の概要

(総合人間学部 臨床心理学科)

教養(Liberal Arts)科目:「いのち、環境、コミュニケーション」

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
<b>I. いのち</b>														
基礎	生命・生態・進化 I	1・2・3・4 前	4 単 位 選 択 必 修	2	○				1					
	生命・生態・進化 II	1・2・3・4 後		2	○				1					
	聖書入門 I (旧約)	1 前		2	○								兼1	
	聖書入門 II (新約)	1 後		2	○				1					
	キリスト教概論 I	1 前		2	○						1			
	キリスト教概論 II	1 後		2	○							1		
健康	スポーツと健康 (体育実技を含む)A	1 前		2	○								兼1	※実技
	スポーツと健康 (体育実技を含む)B	1 後		2	○								兼1	
<b>II. 環境</b>														
自然	海と森の生物 I	2・3・4 前		2	○				1					
	海と森の生物 II	2・3・4 後		2	○				1					
	地球と宇宙I	1・2・3・4 前		2	○							兼1	隔年	
	地球と宇宙 II	1・2・3・4 後		2	○							兼1	隔年	
	自然科学の視点 I	1・2・3・4 前		2	○				1				隔年	
	自然科学の視点 II	1・2・3・4 後		2	○				1				隔年	
社会	中世史との対話	1・2 前		2	○							兼1	隔年	
	近世史との対話	1・2 後		2	○							兼1	隔年	
	憲法	1・2 前		2	○				1					
	法学	1・2 後		2	○				1					
	社会学	1・2 前		2	○							兼1		
	社会学 II	1・2 後		2	○							兼1		
	政治学 (国際政治を含む)	1・2 後		2	○							兼1	隔年	
	心理学	1・2 前	2		○						1			
心理学 II	1・2 後	2		○						1				
文化	文学 I	1・2 前		2	○							兼1	隔年	
	文学 II	1・2 後		2	○							兼1	隔年	
	教養としての哲学	1・2 前		2	○							兼1		
	哲学と論理	1・2 後		2	○							兼1		
	教育学	1・2 前		2	○							兼1		
	音楽の基礎	1・2 前		2	○							兼1		
	音楽の実際	1・2 後		2	○							兼1		
<b>III. コミュニケーション</b>														
基礎	コミュニケーションの理論	1 後	2		○				1	1		1		オムニバス
	コミュニケーションの演習	1 前		2		○			1	1		1		オムニバス
	異文化間コミュニケーション	2・3・4 後		2		○			1	1				隔年
	キャリアデザイン講座	2・3・4 前・後	1			○			1	1				
情報処理	コンピュータ入門 I	1・2・3・4 前		2		○			1					
	コンピュータ入門 II	1・2・3・4 後		2		○			1					
	情報言語コミュニケーション I	2・3・4 前		2		○			1					
	情報言語コミュニケーション II	2・3・4 後		2		○			1					
語学	英語Reading	1前・1後	8 単 位 選 択 必 修	2	○				1					兼1
	英語Speaking/Listening A	1 前		2	○				1					兼1
	英語Speaking/Listening B	1 後		2	○				1					兼1
	英語Writing/Grammar I	1 前		1	○				1					兼1
	英語Writing/Grammar II	1 後		1	○				1					兼1
	英語特別演習 I (語学研修等)	2・3・4 前		1		○			1					
	英語特別演習 II (Independent Study)	2・3・4 後		1		○			1					
	英語Reading演習A(基礎)	2・3 前		1		○			1					
	英語Reading演習B(発展)	2・3 後		1		○			1					
	英語Speaking/Listening 演習 A	2・3 前		2		○			1					兼1
	英語Speaking/Listening 演習 B	2・3 後		2		○			1					兼1
	英語Writing 演習	2・3 前		1		○			1					隔年
	ドイツ語 初級A(読本・会話) I	1 前		1		○								兼1
	ドイツ語 初級A(読本・会話) II	1 後		1		○								兼1
	ドイツ語 初級B(文法)	1 前		2		○								兼1
	ドイツ語 中級A(講読・会話) I	2 前		1		○								兼1 隔年
ドイツ語 中級A(講読・会話) II	2 後	1		○								兼1 隔年		
ドイツ語 中級B(文法)	1 後	2		○								兼1		
外国の言語と文化 初級(韓国語)	1・2・3・4 前	1		○								兼1 隔年		
外国の言語と文化 中級(韓国語)	1・2・3・4 後	1		○								兼1 隔年		
外国の言語と文化 初級(中国語) I	1・2・3・4 前	1		○								兼1 隔年		
外国の言語と文化 初級(中国語) II	1・2・3・4 後	1		○								兼1 隔年		
日本語特講(留学生) I	1・2 前	1		○								兼1		
日本語特講(留学生) II	1・2 後	1		○								兼1		
小計(62科目)			7	99	0	-	-	-	5	1	1	1	0	兼17

臨床心理学科専門科目														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
<b>専門基礎科目</b>														
人倫 間値 観観 と	臨床心理フレッシュマンゼミ	1 後	2				○				1	1		
	臨床心理学概説	1 前	2			○					1			
	キリスト教の人間観Ⅰ	2・3 前	2			○			1					
	キリスト教の人間観Ⅱ	2・3 後	2			○			1					
心研 究学 法	臨床心理の倫理	3 後		2		○			1					
	心理学研究法(統計基礎)	1前・後	2			○			1					
	心理学研究法Ⅱ(質的研究)	2・3・4 前				○							兼1	
	心理学研究法Ⅲ(データ解析)	2 前	2					○					兼1	
心実 理習 学・ 基演 礎習 実 験	心理統計法(質問紙調査法)	3 前	2			○								
	観察法・実験法	2・3・4 前	2			○					1			
	心理学基礎実験Ⅰ	2 後	1					○			1		兼1	
	心理学基礎実験Ⅱ	2 後	1					○			1		兼1	
	心理検査技法Ⅰ	2・3・4 前	2			○			1					
	心理検査技法Ⅱ	2・3・4 後	2			○			1					
	カウンセリング実技の基本	2 前	2			○					1			
	カウンセリングの実際	2・3・4 後	2			○					1			
臨床心理実習前演習	3・4 前	2					○			1			兼1	
臨床心理実習Ⅰ	3 後	2						○		1			兼1	
臨床心理実習Ⅱ(病院)	4 休		2					○	1		2			集中
<b>臨床心理コアプログラム</b>														
学心 習理 学	学習心理学	2・3・4 後		2			○							兼1
	認知心理学	2・3・4 前		2			○							兼1
教発 育達 心心 理理 学学	教育心理学	2・3・4 後		2			○				1			
	発達心理学(発達障害を含む)	2・3・4 前		2			○							兼1
生心 理理 学	生理心理学	2・3・4 休		2			○							兼1 集中
	神経心理学	2・3・4 休 前		2			○							兼1 集中
臨 床 心 理 学	心理療法概説	1・2 前	2				○				1			
	カウンセリングの理論	1・2 前	2				○				1			
	家族療法	2・3・4 後		2			○							兼1
	教育カウンセリング	2・3・4 前		2			○				1			
	絵画療法	2・3・4 休		1			○							兼1 集中
	箱庭・コラージュ療法	2・3・4 休		1			○							兼1 集中
	自律訓練法	1・2・3 休		1			○				1			集中
	心理技法エッセンス(NLP技法)	2・3・4 後		2			○			1				
	サイコドラマⅠ	2・3・4 前・後		1			○			1				
	サイコドラマⅡ	2・3・4 後		1			○			1				
	サイコドラマⅢ	2・3・4 前・後		1			○			1				
サイコドラマⅢ演習	2・3・4 前・後		1			○			1					
子どものプレイセラピー	3・4 後		1			○			1					
虐待への対応	3・4 後		1			○			1					
発達障害の理解	2・3・4 休		2			○							兼1 集中	
人 心 格 理 学	人格心理学(精神分析を中心に)	2・3・4 前		2			○							兼1
	交流分析	2・3・4 前		2			○			1				
社 心 会 理 学	社会心理学	2・3・4 休		2			○							兼1 集中
	家族心理学	2・3・4 前		2			○							兼1
	犯罪心理学	2・3・4 休		2			○							兼1 集中
精 医 神 学	精神保健	1 前		2			○			1				
	精神医学	1 後		2			○			1				
	医学一般	2 前		2			○							兼1
そ の 他	英専門書講読A	3・4 前		2			○							兼1
	英専門書講読B	3・4 後		2			○							兼1
	臨床心理特講A	2・3・4 前		2			○				1			
	社会福祉特講A(社会福祉士)	4 後		2			○							
	社会福祉特講B(精神保健福祉士)	4 後		2			○			1				兼1
	保育原理と保育士の専門性	2・3・4 前		2			○							兼1
	小児と高齢者の栄養	2・3・4 前		2			○							兼1
	臨床心理海外研修	2・3・4 休		2					○	2				
	卒業演習プレゼミナル	3 後		1					○	1				
	卒業演習Ⅰ	4 前		2				○		3	1	2		
卒業演習Ⅱ	4 後		2					○	3	1	2			
卒業論文(臨床心理学科)	4 通		4					○						

キリスト教カウンセリングプログラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
神学	いのち学序説	2・3・4 前	4 単位 選択 必	2		○			1						
	キリスト教と環境倫理	2 前		2		○			1						
	キリスト教と生命倫理	2 後		2		○			1						
	キリスト教倫理Ⅰ	3 前		2		○			1						
	キリスト教倫理Ⅱ	3 後		2		○			1						
	日本キリスト教史	3・4 前		2		○				1					
実践	キリスト教カウンセリング	3・4 後		2		○								兼1	
	ターミナルケアとグリーフワーク	2・3・4 後		2		○			2						
	キリスト教教育	3 前		2		○								兼1	
文化	キリスト教文学特講Ⅰ	2・3・4 前		2		○								兼1 隔年	
	キリスト教文学特講Ⅱ	2・3・4 後		2		○								兼1 隔年	
	聖書に見るジェンダー	3・4 後		2		○								兼1 隔年	
	文化とキリスト教Ⅰ	2・3 前		2		○				1					
	文化とキリスト教Ⅱ	2・3 休		2		○				1					
	美術史	2・3・4 前		2		○								兼1 隔年	
	キリスト教美術特講	2・3・4 後		2		○								兼1 隔年	
	死生学Ⅰ	3・4 前		2		○				1					
	死生学Ⅱ	3・4 後		2		○				1					
	食といのちと環境Ⅰ	2・3 休		2		○					1				
食といのちと環境Ⅱ	2・3 休		2		○					1					
北米文化とキリスト教	2・3・4 後		2		○					1				隔年	
精神保健福祉プログラム															
社会福祉の基礎	社会福祉原論Ⅰ	1 前		2		○				1					
	社会福祉原論Ⅱ	1 後		2		○				1					
	社会福祉入門Ⅰ	1 後		2		○				1					
	社会福祉入門Ⅱ	2 前		2		○				1					
	社会保障論Ⅰ	2 前		2		○				1					
	社会保障論Ⅱ	2 後		2		○				1					
	地域福祉論Ⅱ	2 後		2		○				1					
	公的扶助論	2 後		2		○								兼1	
社援会助福祉技術	障害者福祉論	2 後		2		○				1					
	ソーシャルワーク論Ⅰ	2 前		2		○				1					
	ソーシャルワーク論Ⅱ	2 後		2		○				1					
	ソーシャルワーク論Ⅲ	2 後		2		○				1					
精神保健福祉の基礎	地域福祉論Ⅰ	2 前		2		○				1					
	保健医療サービス	3 後		2		○								兼1	
	権利擁護と成年後見制度	1・2 後		2		○				1					
	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	2 前		2		○				1					
	精神保健福祉に関する制度とサービス	2 後		2		○				1					
	精神障害者の生活支援システム	2 後		2		○								兼1	
	SST	2・3・4 前・後		2		○								兼2	
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開	3・4 後		2		○				1					
	ソーシャルワーク論Ⅴ	4 前		2		○				1					
	ソーシャルワーク論Ⅵ	4 後		2		○				1					
	福祉行政と福祉計画	3 後		2		○				2					
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2 前		2			○		6	2	1				
	精神保健福祉援助演習(基礎)Ⅰ	1 前		2			○		1						
精神保健福祉援助演習(基礎)Ⅱ	2 前		2			○		1							
精神福祉保実健習	精神保健福祉援助演習(専門)Ⅰ	3 後		2			○							兼1	
	精神保健福祉援助演習(専門)Ⅱ	4 後		2			○							兼1	
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3 後		2			○							兼1	
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4 前		2			○		1					兼1	
	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	4 前		2			○		1					兼1	
	精神保健福祉実習	4 前		4				○	1					兼1	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ	4 前		1			○		1					兼1	
小計(114科目)			18	199	0	-	-	-	15	5	4	1	0	兼30	

キリスト教学科専門科目

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
<b>神学系科目群</b>														
基礎科目	神学通論	1・2 前		2		○			1					
	神学初級演習Ⅰ	2 前		1			○		1					
	神学初級演習Ⅱ	2 後		1			○		1					
	英語聖書Ⅰ	1・2 前		1		○			1					
	英語聖書Ⅱ	1・2 後		1		○			1					
	基礎英神学書Ⅰ	2・3 前		1		○			1					
基礎英神学書Ⅱ	2・3 後		1		○			1						
聖書学 (旧約聖書)	旧約緒論Ⅰ	2 前		2		○			1					
	旧約緒論Ⅱ	2 後		2		○			1					
	旧約歴史	2 前		2		○			1				隔年	
	旧約釈義Ⅰa	3 前		2		○			1					
	旧約釈義Ⅰb	3 後		2		○			1					
	旧約釈義Ⅱa	4 前		2		○			1					
	旧約釈義Ⅱb	4 後		2		○			1					
	旧約神学Ⅰ	4 前		2		○			1					
	旧約神学Ⅱ	4 後		2		○			1					
聖書学 (新約聖書)	新約緒論Ⅰ	2 前		2		○							兼1	
	新約緒論Ⅱ	2 後		2		○							兼1	
	新約時代史	2 休		2		○							兼1 隔年/集中	
	新約釈義Ⅰa	3 前		2		○							兼1	
	新約釈義Ⅰb	3 後		2		○							兼1	
	新約釈義Ⅱa	4 前		2		○			1					
	新約釈義Ⅱb	4 後		2		○							兼1	
	新約神学Ⅰ(パウロ)	4 前		2		○			1					
	歴史神学Ⅰ(初代教会)	2 前		2		○			1					
歴史神学	歴史神学Ⅱ(中世)	2 後		2		○			1					
	歴史神学Ⅲ(宗教改革)	3 前		2		○			1					
	歴史神学Ⅳ(近・現代)	3 後		2		○			1					
	信条学	4 後		2		○			1					
ルター	日本キリスト教史	3・4 前		2		○			1					
	ルターの生涯	3・4 後		2		○			1				隔年	
	ルターの神学	3・4 前		2		○			1				隔年	
	ルターと聖書	3・4 後		2		○			1				隔年	
組神 織学	ルーテル教会	3・4 前		2		○			1				隔年	
	教義学	4 後		2		○			1					
実践 神学	宗教哲学Ⅰ	4 前		2		○							兼1 隔年	
	宗教哲学Ⅱ	4 前		2		○							兼1 隔年	
	伝道学	3 後		2		○							兼1 隔年	
	キリスト教カウンセリング	3・4 後		2		○							兼1	
	礼拝学	4 後		2		○							兼1	
キリスト教教育	3 前		2		○							兼1		
<b>文化系科目群</b>														
文 化	文化とキリスト教Ⅰ	2・3 前		2		○			1					
	文化とキリスト教Ⅱ	2・3 休		2		○			1				集中	
	ビザンティン・キリスト教文化特講	3・4 前		2		○			1				隔年	
	文化史	1・2・3 前		2		○			1					
	比較文化論	3・4 後		2		○			1					
	美術史	2・3・4 前		2		○							兼1 隔年	
	キリスト教美術特講	2・3・4 後		2		○							兼1 隔年	
	キリスト教文学特講Ⅰ	2・3・4 前		2		○							兼1 隔年	
	キリスト教文学特講Ⅱ	2・3・4 後		2		○							兼1 隔年	
	キリスト教音楽特講	2・3・4 後		2		○							兼1	
	礼拝音楽と讃美歌Ⅰ	2・3・4 前		2		○							兼1 隔年	
	礼拝音楽と讃美歌Ⅱ	2・3・4 前		2		○							兼1 隔年	
	教会音楽実技Ⅰ(ピアノ・オルガン・パイプオルガン)	1・2・3・4 通		2				○					兼2	
	教会音楽実技Ⅱ(ピアノ・オルガン・パイプオルガン)	2・3・4 前		1				○					兼2	
教会音楽実技Ⅲ(ピアノ・オルガン・パイプオルガン)	2・3・4 後		1				○					兼2		
宗 教 と 思 想	キリスト教の人間観Ⅰ	1・2 前		2		○			1					
	キリスト教の人間観Ⅱ	1・2 後		2		○			1					
	宗教史	2・3 後		2		○			1				隔年	
	宗教学	2・3 後		2		○			1				隔年	
地 文 域 化	日本の宗教風土	3・4 休		2		○			1				隔年/集中	
	日本宗教の源流	2・3・4 前		2		○			1					
	聖書に見るジェンダー	3・4 後		2		○							兼1 隔年	
地 文 域 化	北米文化とキリスト教	2・3・4 後		2		○			1				隔年	
	世界の教会	2・3・4 休		2				○	1				集中	



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
言語系科目群														
言語	ヘブル語	3 通		8		○			1					兼1
	旧約原典講読	4 前		2		○								兼1
	ギリシア語	2 通		8		○								兼1
	新約原典講読	3・4 前		2		○				1				
	ラテン語 I	3 前		2		○								兼1
	ラテン語 II	3 後		2		○								兼1
	基礎独神学書 I	3 前		2		○								兼1
	基礎独神学書 II	3 後		2		○								兼1
	ルター原典講読(ドイツ語)	3・4 後		2		○								兼1
	ルター原典講読(ラテン語) I	4 前		2		○			1					
	ルター原典講読(ラテン語) II	4 後		2		○			1					
	英専門書講読 I	3・4 前		2		○				1				隔年
	英専門書講読 II	3・4 後		2		○				1				隔年
	英専門書講読 III	3・4 前		2		○			1					隔年
英専門書講読 IV	3・4 後		2		○			1					隔年	
学芸員関連科目														
学芸員	生涯学習概論	2・3・4 前		2		○								兼1 隔年
	博物館学総論	2・3・4 後		2		○								兼1 隔年
	博物館学各論 I	2・3・4 前		2		○								兼1 隔年
	博物館学各論 II	2・3・4 前		2		○								兼1 隔年
	博物館学実習	4 前		3				○						兼1
視聴覚教育メディア研究	2・3 後		2		○								兼1	
いのち学														
いのち学	人間・いのち・世界 I	2 前		2		○			1					
	人間・いのち・世界 II	2 後		2		○			1					
	いのち学序説	2・3 前		2		○			1					
	食といのちと環境 I	2・3 休		2		○				1				集中
	食といのちと環境 II	2・3 休		2		○				1				集中
	新約神学 II (福音書におけるいのち)	4 前		2		○				1				
	いのちのキリスト教史	2・3・4 後		2		○				1				
	死生学 I	3・4 前		2		○			1					
	死生学 II	3・4 後		2		○			1					
	キリスト教倫理 I	3 前		2		○			1					
	キリスト教倫理 II	3 後		2		○			1					
	キリスト教と環境倫理	2 前		2		○			1					
	キリスト教と生命倫理	2 後		2		○			1					
	神化の教理と永遠のいのち	4 前		2		○			1					隔年
	スピリチュアリティと聖書の伝統	3・4 前		2		○			1					隔年
	ターミナルケアとグリーフワーク	2・3・4 後		2		○			2					オムニバス
	小計(102科目)			0	209	0	-	-	-	7	3	0	0	0

社会福祉学科専門科目														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実習・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目	社会福祉入門Ⅰ	1 後		2		○			1					
	社会福祉入門Ⅱ	2 前		2		○			1					
	社会福祉原論Ⅰ	1 前		2		○			1					
	社会福祉原論Ⅱ	1 後		2		○			1					
	地域福祉論Ⅰ	2 前		2		○			1					
	地域福祉論Ⅱ	2 後		2		○			1					
	社会保障論Ⅰ	2 前		2		○			1					
	社会保障論Ⅱ	2 後		2		○			1					
	国際社会福祉概説	1・2 前		2		○				1				
	社会福祉の歴史	1・2・3 休		2		○								兼1 集中
キリスト教	キリスト教と環境倫理	2 前		2		○			1					
	キリスト教と生命倫理	2 後		2		○			1					
	福祉のキリスト教的源流	2・3・4 後		2		○			1					隔年
	福祉のキリスト教的展開	2・3・4 後		2		○			1					隔年
	社会福祉とキリスト教	2・3・4 後		2		○			1					隔年
いのち学序説	2・3・4 前		2		○			1						
援助技術	ソーシャルワーク論Ⅰ	2 前		2		○			1					
	ソーシャルワーク論Ⅱ	2 後		2		○			1					
	ソーシャルワーク論Ⅲ	2 後		2		○			1					
	ソーシャルワーク論Ⅳ	4 後		2		○			1					
	福祉行政と福祉計画	3 後		2		○			2					
	社会福祉調査	3・4 後		2		○				1				
	心理療法医概説	1・2 前		2		○				1				
	カウンセリングの理論	1・2 前		2		○					1			
	カウンセリング実技の基本	1・2 前		2		○						1		
	カウンセリングの実際	2 後		2		○						1		
専門領域	高齢者福祉の諸問題	2 前		2		○			1					
	高齢者福祉論	2 後		2		○			1					
	介護概論	1・2 前		2		○								兼1
	障害者福祉の諸問題	2 前		2		○			1					
	障害者福祉論	2 後		2		○			1					
	児童福祉の諸問題	2 前		2		○			1					
	児童福祉論	2 後		2		○			1					
	保健医療サービス	3 後		2		○								兼1
	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	2 前		2		○			1					
	精神保健福祉に関する制度とサービス	2 後		2		○			1					
	精神障害者の生活支援システム	2 後		2		○								兼1
	SST	2・3・4 前・後		2		○								兼2
	公的扶助論	2 後		2		○								兼1
	就労支援サービス	3 後		2		○			2					兼1
	権利擁護と成年後見制度	1・2 後		2		○			1					
	更生保護制度論	2 後		2		○			1					
	精神保健	1 前		2		○			1					
	医学一般	1・2 前		2		○								兼1
	精神医学	1 後		2		○			1					
	ボランティア論	1・2・3・4 前		2		○			1		1			
家族福祉論	2・3・4 休		1		○								兼1 集中	
ターミナルケアとグリーフワーク	2・3・4 後		2		○			2					オムニバス	
聴覚障害者のコミュニケーション	1・2・3・4 後		2		○								兼1	
レクリエーション	2・3・4 後		2		○								兼1	
保育原理と保育士の専門性	2・3・4 前		2		○								兼1	
小児と高齢者の栄養	3・4 前		2		○								兼1	
国際	社会福祉と国際協力	2・3・4 前		2		○				1				
	多文化ソーシャルワーク	2・3・4 後		2		○				1				
	国際社会福祉研修	1・2・3・4 休		2		○				1				
小計(55科目)			0	109	0	-	-	-	11	3	3	0	0	兼13
合計(333科目)			25	616	0	-	-	-	18	6	5	1	0	兼70
学位又は称号		学士(臨床心理学)		学位又は学科の分野				文学関係						
卒業要件及び履修方法									授業期間など					
教養科目28単位以上、専門科目72単位以上、教養または専門科目から24単位以上を修得し、124単位以上を修得すること。 なお、教養科目は、必修7単位、選択必修4科目から4単位、英語科目選択必修8単位を含めて28単位以上修得すること。専門科目は必修18単位、選択必修5科目の中から4単位選択必修を含めて72単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限:48単位(年間))									1学年の学期区分		2学期			
									1学期の授業期間		15週			
									1時限の授業時間		90分			

授 業 科 目 の 概 要			
(総合人間学部人間福祉心理学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
1 教養科目群	総合人間学	(概要)新入生が最初に学ぶ教養必修科目として位置づけてある。本学専任教員がそれぞれの専門分野から異なるアプローチで人間に関するテーマを提供し、総合的に人間学を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (6 藤井英一/5回)オリエンテーション、人類の進化、日本人の形成とルーツ、人間と科学、人間と環境 (16 上村敏文/2回)人間と文化、民俗学とその方法 (13 ジャン・プレゲズ/2回)人間と言語 (2 江藤直純/1回)キリスト教の人間観 (9 石居基夫/1回)人間とキリスト教 (5 金子和夫/2回)人間と社会福祉 (10 谷井淳一/2回)人間と臨床心理である。	オムニバス
2 教養科目群	聖書を読む	聖書をはじめて開く人も、ミッション系の学校や教会などで聖書に親しんできた人も、この授業を通して、本学で学び、将来に向かって自己形成をしていくために「聖書を読む」ということの意味や学び方についての基礎的な知識と力を習得する。旧約・新約聖書全体についての基礎的オリエンテーションの後、実際に聖書からいくつかの箇所を読み進み、人間や世界についての理解と思索を深める。講義を含むが全体としてはゼミ形式で進める授業である。	
3 教養科目群	キリスト教概論 I	「キリストの心を心とする」建学の精神に立つミッションスクールとして、キリスト教の精神を土台としての専門的な学びがなされていくために、キリスト教概論 I を通して特にキリスト教の基礎を学ぶ。授業では、まず聖書について簡潔に紹介し、それから歴史や社会、芸術など様々な視点からキリスト教を捉え、その中に表されるキリスト教精神を理解する。主に講義形式で進められるが、時に視覚教材やワークシート、キリスト教の絵画などの作品を用いたりしてさらに理解を深めていく。	
4 教養科目群	キリスト教概論 II	現代社会の中の様々な問題をキリスト教的な視点からも考察できるように、特に聖書を中心としての学びを行う。神の存在と人の存在について考えることから学びが始められ、イエス・キリストの生涯を通しての教えと救いの出来事が、現在においてどのような意味を持つのかを共に探る。授業の終盤では具体的に、現代における愛や平和、いのちの問題などについてキリスト教的視点から捉えていく。おおよそ講義形式で行われるが、時にはグループでテーマについて話し合う時間をとり、より理解を深める。	
5 教養科目群	社会福祉原論 I	① 社会福祉を学ぶ基盤となる理念・思想を学ぶ。 ② 歴史や先駆者の働きを通して、今日の社会福祉のあるべき姿を模索する。③ 制度体系を学習する、ことを到達目標にする。具体的には、社会福祉を学んでいく導入として、社会福祉の思想、理論、実践を考察し、社会福祉に関わる基礎知識を習得することを目的とする。そのため、講義だけでなく、グループディスカッション、事例検討、ビデオ教材を活用した学習等を行い、価値、知識、援助技術を総合的に学ぶ機会を提供したい。	

6	教養科目群	社会福祉原論Ⅱ	① 社会福祉問題に関する客観的な分析を行い、高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉、医療福祉等の各分野の施策とサービスを学ぶ。② 地域福祉、社会福祉等のあり方を学ぶ。③ 援助方法の体系を理解する、ことを到達目標とする。そのため、社会福祉問題に関する客観的な分析を行い、社会福祉制度・政策等の体系的理解を目指す。今日の社会福祉は、経済的貧困とともに、高齢者や障害者の介護、自立生活を妨げるバリアーの問題、児童を養育する家庭基盤が揺らぎと子育ての難しさ、地域における孤立等、多様かつ広範な問題に取り組んでいる。本講義では、受講生が問題を認識し、福祉制度の考え方やサービスの意味を理解できるよう、事例や調査結果を活用し、議論を通して、互いの学びを深める参加型を採用する。	
7	教養科目群	心理学	講義形式で行う。「人の心を読む」テクニックではなく、「心を科学する」学問としての心理学を理解するとともに、心理学に関する基礎知識を習得することを目的とする。講義では心理学の歴史を振り返りながら、人の「心」がこれまでどのように捉えられてきたのか、そして人の「心」についてどのようなことが明らかになっているのか、「認知心理学」「発達心理学」「社会心理学」「臨床心理学」といった心理学の主要分野ごと、初学者向けに分かりやすく解説していく。	
8	教養科目群	心理学Ⅱ	講義形式で行う。心理学が社会の中でどのように応用されているのかを理解するとともに、身近な出来事を心理学的視点で考察する力を身につけることを目的とする。講義では、例えば「よい子を育てる育児法は?」「勉強に王道はあるか?」といった身近なテーマを掲げ、心理学的な知見から解説する。また、心理学だけでなく、脳科学や行動遺伝学の知見についても取り入れ、より包括的に人間の「心」を捉えられるようにする。	
9	教養科目群	コミュニケーションの理論	(概要)コミュニケーションについて幅広く且つ総合的に理論や実例を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (担当教員全員)パネルディスカッション「コミュニケーションとは」 (16 上村敏文/4回)挨拶と礼儀/対人関係、冠婚葬祭の基礎知識、ハーバード流交渉術、コミュニケーション総論 (13 ジャン・プレゲズ/1回)異文化間コミュニケーション (1 市川一宏/1回)社会福祉とコミュニケーション (26 齋藤有/2回)コミュニケーションと心理、カウンセリングとコミュニケーション (2 江藤直純/1回)神との対話 (6 藤井英一/5回)オリエンテーション、動物のコミュニケーション、人間と自然との対話、デジタル・コミュニケーション、まとめ。	オムニバス
10	教養科目群	生命・生態・進化Ⅰ	(概要)地球は豊かな水と生命が存在する宇宙で唯一の星である。生命はいつどのようにして地球に出現し、進化、多様化して来たのか。激変の積み重ねの40億年の生命、環境、地球の歴史を辿りながら生命と地球の共進化の関係を明らかにし、人類誕生へのドラマと地球と生命のかけがえのなさについて学ぶ。15回の講義で、水の惑星「地球」の誕生と進化、生命観の歴史と生命の起源、遺伝の法則と分子生物学、細胞の共生進化と生物界の大分類、生物多様性と生物進化のプロセスとメカニズム、ヒトの特徴と進化の道筋等を学ぶ。	

11	教養科目群	生命・生態・進化Ⅱ	(概要)日常生活の中で環境や生命現象を生態学的視点で見れるような知識を身につける。生物多様性と生態系、殺し合いや競争、助け合いや共存、生物の生活や行動の意味を考察、現代の地球環境問題の対処法や自然環境とヒト社会の共存の方法を探る。15回の講義で、生態学から見る生物の世界、生物群集の構造と組成、生物の形態とニッチ、魚の種類と見分け方、深海生物の世界、日本列島の風土と豊かな森林、樹木の種類と見分け方、森の生物群集と環境、生物生産と物質の循環、環境汚染、食品汚染と食の安全、地球環境問題と対策等を学ぶ。	
12	教養科目群	スポーツと健康(体育実技を含む)A	生涯にわたってスポーツに親しみながら健康な生活を行う意義を理解する。その上で、アウトドアスポーツとして、サッカー、テニス、インドアスポーツとして、バスケットボール、バレー、水泳、ニュースポーツ等にふれながら、それぞれのルール、戦術、技術の習得を目ざす。スポーツを通じた身体活動に応じた健康維持・増進、精神の健康が密接に関わっていることを理解する。発達段階、老化現象に応じた身体活動量を考慮した技術等を学びながらスポーツに親しむ態度を形成する。	※実技
13	教養科目群	スポーツと健康(体育実技を含む)B	生涯にわたって健康的生活を営むうえで必要とされる身体活動について、身体メカニズムを理解しながら、運動負荷量、栄養学、精神的健康、生活習慣、疾病の予防、環境、安全等の基礎を学び、その上で、実践に関する内容(ヘルスプロモーション、健康教育、行政システム、法制度、住民運動等の取り組み)について具体的事例をもとに学習する。また、障害の防止については、テーピングの巻き方、着衣泳、応急手当(救急処置)等についても講義を行う。	
14	教養科目群	海と森の生物Ⅰ	(概要)海や里山にすむ生き物の観察と採集を実際に体験し、自然観察の基礎知識を身に付けるとともに、生物世界に見られる多様性と調和の原理を学ぶ。同時に、沿岸生物の多様性と生物生産を維持するためには、豊かな森作りが重要であることを学ぶ。三浦半島で海浜生物観察ならびに白神山地で外来植物駆除を行う。採集生物は実体顕微鏡を使って観察、スケッチ、分類を行う。講義は、主な海岸生物と観察のポイント、海岸生物の分類と観察、白神山地の自然と生物の概要、外来生物の侵入と生態系や人間生活への影響等である。	
15	教養科目群	海と森の生物Ⅱ	(概要)山や森の自然観察を通して、森の植物、動物、菌類に見られる多様性と調和の原理を学ぶ。同時に、森林がもつ様々な環境調節作用を観察し、人間の生活を守るために森林の保存と保全が如何に重要であるかを学ぶ。履修者は白神山地登山と植樹祭参加が必須で、講義、観察、野外実習を通じて、幅広く「自然」というものに触れ合う内容。白神山地の気候・風土と生物の多様性を事前学習し、白神山地二ツ森登山と自然観察およびブナ植樹と里山林の観察を行う。さらに、武蔵野の雑木林や明治神宮の森の観察を行う。	
16	教養科目群	地球と宇宙Ⅰ	現代天文学概論の講義を行う。Ⅱにおいては、天文学がどのような学問であるか説明し、主に太陽系内の天体を理解するために、地球と月の運動、暦、時間と時刻、惑星の運動、力学と万有引力の法則、惑星の科学、太陽系内小天体、太陽系外縁天体等について解説し、特に最近明らかとなった太陽系の新しい姿を紹介する。これらを通して、宇宙における地球や太陽系の存在、そのおかれている位置を理解することを目標とする。また、自然科学を理解する上で重要な論理的な考え方が身につくような講義を目指す。	隔年

17	教養科目群	地球と宇宙II	現代天文学概論の講義を行う。IIIにおいては、太陽系の外の天体、星や銀河、宇宙を理解するために、電磁波、輻射とスペクトル、年周視差と距離、恒星の運動、恒星の明るさ、等級、色、恒星のスペクトルとスペクトル型、HR図、HR図と恒星の分類、HR図と恒星の進化、元素の起源、恒星、惑星系の形成、我々の銀河系、星間物質、銀河の分類、ハッブルの法則と宇宙膨張、銀河団、銀河の進化、宇宙の起源と進化銀河等を解説する。これらを通して、宇宙とはどういうものかを理解することを目標とする。Iと同様論理的な考え方が身につくような講義を目指す。	隔年
18	教養科目群	自然科学の視点 I	(概要)科学史、科学哲学などの研究を通して明らかにされた「西洋の自然科学」の本質を学び、その長所と有効性、同時に、その短所ないし限界を理解する。自然科学的なものの見方・考え方によって、学生の世界観が広がることを期待する。さらに、演習を通して、クリティカル思考の態度と合理的・論理的判断力を養成する。15回の講義で、科学とは何か、科学的方法の特徴、パラダイム理論、科学技術と倫理、クリティカル思考、やさしい生物進化の話、反進化論＝社会ダーウィニズムの功績と誤謬、ヒトと環境、生物多様性と環境保全、文明の行き詰まりと文化の復権等を学ぶ。	隔年
19	教養科目群	自然科学の視点 II	(概要)キリスト教の世界観と自然科学的な世界観を比較、さらに西洋的な自然観と東洋的な自然観の違いを明らかにし、個人や民族の思想の源泉を探る。「山と自然」に関する著名人の考えを題材にしながら、「自然とは何か」を考える。15回の講義で、天動説の世界観とキリスト教の世界観、西と東の自然観、未開人の呪術・科学・宗教、建築物と自然、こころの中の自然、野生動物に見られる自然的なもの、山を神聖なものとする自然観、自然が失われている現代の食生活、地球環境問題と自然観、生物多様性と環境保全等を学ぶ。	隔年
20	教養科目群	中世史との対話	欧州連合(EU)によるヨーロッパの統合が国際社会で大きな注目を集めている今、「ヨーロッパとは何か」という世界史の問いがあらためて提起されている。講義では、こうした今日の問題を視野に収めつつ、政治・経済・宗教・思想・人々のメンタリティ等の様々な要素を総合した広義の社会史の視点からヨーロッパ世界の形成期として位置づけられている中世という時代を考察することを通して、歴史への関心を高め、人間や文化についての洞察力を養う。	隔年
21	教養科目群	近世史との対話	ヨーロッパの中世と近世を時代的に区分する指標として位置づけられているルネサンスは、ヨーロッパ近代世界の成立基盤として特にその進歩的意義が評価されてきた。講義では、こうした従来のルネサンス論を見直しつつ、政治・経済・宗教・思想・人々のメンタリティ等の様々な要素を総合した広義の社会史の視点からこの文化運動の特徴とその歴史的意義を考察することを通して、歴史への関心を高め、人間や文化についての洞察力を養う。	隔年
22	教養科目群	憲法	国の最高法規について理解し、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験や教員採用試験などに対応するとともに、日常生活にも対応できる知識を身に付ける。内容としては、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重という基本原理を中心に、具体的事例をあげながら講義する。中でも基本的人権を中心に、その一般理論、自由権、社会権の内容について判例をあげながら紹介する。さらに三権分立や地方自治についても講義する。	

23	教養科目群	法学	民法を中心に権利擁護制度について理解する。成年後見制度などを概観することにより、教員採用試験や公務員試験などに対応するとともに、日常生活にも対応できる知識を身に付ける。内容としては、民法を中心に憲法、行政法について、具体的事例をあげながら講義する。民法では、成年後見、契約、不法行為、親族・相続、行政法では行政処分や不服申立てを中心に学習する。さらに、消費者・利用者の権利擁護制度とそれにかかわる専門職について、関連法制度を含めてその実際を理解する。	
24	教養科目群	社会学	形態は、講義形式である。授業の目標は、社会学の基礎理論である構造機能主義とシンボリック相互作用論を理解し、その理論的視点から、社会の諸事象を分析検討できる能力を養うことである。授業内容の概要について述べると、本講義では、グレン・エルダーおよびタマラ・ハレーブが構築した「ライフコース」(life course)概念に準拠し、その前半部分、すなわち、幼児期、子供期、青年期に生じる社会的課題を、社会学の基礎概念を用いて学習する。特に、昨今の深刻な社会問題群である「苛め」、「虐待」、「引きこもり」、「ニート」などに焦点を当て分析検討する。	
25	教養科目群	社会学Ⅱ	形態は、講義形式である。授業の目標は、社会学の基礎理論である構造機能主義とシンボリック相互作用論を理解したうえで、社会学が実は社会関係学であることを把握し、その理論的視点から、社会の諸事象を分析検討できる能力を養うことである。授業内容の概要について述べると、本講義では、前期の講義科目である「社会学」での学びをふまえて、ライフコース(life course)概念に準拠し、ライフコースの後半部分である中年期と老年期に焦点を当て、社会学的な課題を明らかにする。特に、マージナルマン、サクセスフル・エイジング、ケアに焦点を当て、スウェーデンと比較しながら学習する。	
26	教養科目群	政治学(国際政治を含む)	現代政治学の主要な概念や重要な現象についての理解を深めるとともに、みずから政治的判断ができるための基盤をつくることを目的とする。現代政治学の主要な概念や重要な現象について学ぶ。民主主義、政治家、政党、政策決定過程、官僚制、地方自治、政治経済、福祉国家、メディア、グローバル化、国際政治などのテーマを扱う。授業は、講義を中心とするが、新聞記事を使った学生による短い発表の機会をもうけて学生の積極的な参加を促すとともに、期末レポートの土台になるようにする。	隔年
27	教養科目群	文学Ⅰ	講義・講読の形式。明治期をほぼ10年ごとに輪切りにしてそのときどきの作品を読み、大学の教養レベルの習得を目指す明治文学史概説。扱う作品は、スマイルズ『西国立志篇』(1870)または福沢諭吉『学問のすすめ』(1871)、スコット『春風情話』(1880)または戸田欽堂『情海波瀾』(1880)、森鷗外『舞姫』(1890)、泉鏡花『高野聖』(1900)、谷崎潤一郎『刺青』(1910)。ほぼ毎回授業のポイントや問題点を記した印刷物を配布して予復習と授業中の相互対話或はフィードバックペーパーによる遣り取りに生かす。学期中に小レポート、学期末に大レポートを作成する。	隔年
28	教養科目群	文学Ⅱ	講義・講読の形式。大正期から昭和期をほぼ10年ごとに輪切りをして、そのときどきの作品を読む。大正昭和期(1960まで)の文学史概説。扱う作品は武者小路実篤『友情』(1919)、小林多喜二『蟹工船』(1929)、太宰治『走れメロス』(1940)、大岡昇平『野火』(1950)、大江健三郎『孤独な青年の休暇』(1960)。ほぼ毎回授業のポイントや問題点を記した印刷物を配布して予復習に生かすとともに授業中の相互対話とフィードバックペーパーによる遣り取りに生かす。学期途中に小レポート、学期末に大レポートを作成する。	隔年

29	教養科目群	教養としての哲学	前期「教養としての哲学」では古代の思想を中心に扱い、特に「善く生きる」ということを中心としながら、ヘレニズムの思想(古代ギリシャ、ヘレニズム期の哲学)とヘブライズムの信仰(ユダヤ・キリスト教)の両方を考察対象とする。また、それらが土台となり中世以降のヨーロッパ思想が構築された点を強調しながら後期の講義の備えとする。特に、ヘレニズムの思想においては、歴史上の賢人たちの「問いの立て方」とそこから導き出される「考え方」に焦点を当てつつ講義を行う。
30	教養科目群	哲学と論理	後期「哲学と論理」では、「私とは何か?」という問いを軸に、古代から中世への端境期を生き抜いたアウグスティヌス、近代のデカルト、カント、そして現代へと橋渡ししてゆくキルケゴール、ニーチェ、それぞれの思想家の自我理解、自己理解を問題にする。アウグスティヌスに内包された諸問題を、自我という一方向に深めてゆく近代的自我理解・自己理解を扱いつつ、それを批判的に克服しようとした「他者との関係」から自己を問題にするフーバーの思想を扱うことで、「私とは何か?」という問いを「関係」から掘り起こす試みを行う。最後に、こうした西洋的な自我・自己理解に対して、他者に対することを「否定」と捉える西田幾多郎の論文「私と汝」(1932年)を紹介することで、受講者一人ひとりの「私とは何か?」という問いを深める講義を心がける。
31	教養科目群	教育学	教育の歴史と思想について概観し、日本の学校教育、家庭教育、地域での教育について講義を行う。また、欧米、アジア、アフリカ等の諸外国の教育状況や、日本の教育との違いについて講義する。その際、教育の現代的課題である、いじめ問題や多文化共生について、諸外国の事例をあわせて紹介する。さらに、学生の興味にしたがい特定の教育分野に関するグループ発表を実施し、まとめとしてフィードバックを行う。 教育を多角的な視点から学ぶことで、学生の教育に対する興味・関心を深めることが本科目の目標である。
32	教養科目群	音楽の基礎	(目標)歴史の中で培われて来た様々な音楽を、自分の力で読み取り、味わい、深く理解することが出来るようになるための音楽の基礎知識を身につけることを目指す。楽典の学びは前期の「音楽の基礎」から引き続き、「音楽の実際」の講義でも行う。(概要)楽典の基礎を学びつつ、リズムを中心に実技も取り入れた講義。読譜力をつける訓練や、ボーディーパーカッション、新曲視唱などにも挑戦させる内容。グループでのリズム創作なども実施。
33	教養科目群	音楽の実際	(目標)歴史の中で培われて来た様々な音楽を、自分の力で読み取り、味わい、深く理解することが出来るようになるための音楽の基礎知識を身につけることを目指す。楽典の学びは前期の「音楽の基礎」の内容の続きとなる。(概要)引き続き楽典を学び、基礎知識全般を身につけることを目標とする。実技では読譜力を高める訓練、声楽アンサンブルなど行うが、受講生の人数やレベルにより、内容は変わることがある。授業後半では、指揮の基礎を学び、簡単な楽曲の指揮が出来るようになることを目指す。
34	教養科目群	コミュニケーションの演習	(概要)大学生としてのレポートの書き方、文章表現技術、スピーチの基本と準備&人を惹きつける話法、自分やグループの考えを上手にまとめる方法などを演習を通して学ぶ。講義と演習課題の添削は3名の教員が共同して実施。15回の講義で、大学の勉学の仕方と図書館の利用、レポート・小論文の書き方、文章表現技術(理論と演習)、スピーチの種類と方法(講義)、スピーチ演習(スピーチ原稿の準備)、スピーチ演習(練習と発表)、グループ発想法(理論)、グループ発想法(演習)等を学ぶ。



35	教養科目群	異文化間コミュニケーション	<p>異文化間コミュニケーションに役立つ背景、知識、議論を学ぶ。文化の定義、分析、比較に踏まえ、数回ゲストスピーカーを招き、この話からも議論を行う。課題は海外で働くためのノウハウ、国際結婚の実態、課題、帰国子女の立場、問題の理解。参加型の授業で、学生が課題を選んで、疑問と議論を出す。文化の分析はKluckhohn, Hofstedeの研究を初回する。文化に作り上げたIdentityのあり方、文化的摩擦、(Culture Shock)などの課題と取り組む。グローバル社会のための基本的知識を提供する。授業は日本語で行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)  (13 ジャンプレゲンス/10回) 1. 文化の定義、2. ハードな文化、ソフトな文化、3. 文化のパラメータ、4. 海外で働く日本人についての討論会、5. 文化ショック、6. 日本で働く外国人、国際結婚についての討論会、7. 第三の文化児童、8. 日本化される習慣、9. 帰国子女についての討論会、10. 異文化の土台  (16 上村敏文/5回) 1. コミュニケーション理論、2. 翻訳、通訳のむずかしさ、3. 海外で働く外国人、4. 日本で暮らす、働く外国人、5. 帰国子女)を担当。</p>	隔年/オムニバス
36	教養科目群	キャリア概論 I	<p>より良い就職キャリアアップをめざし、社会人として求められる基礎力の習得、有効な履歴書の書き方、面接の仕方、コミュニケーション能力を高める技法を学ぶ。単に就職ということにとどまらず、ライフロングの自己実現をめざす。具体的には、転職、定年退職以降も、いかに「幸せな」生涯を送ることができるかについて、理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)  (16 上村敏文/10回)概論  (28 福山和女/5回)各論の担当で実施する。</p>	オムニバス
37	教養科目群	キャリア概論 II	<p>主体的な行動実践につながるマインドやスキルアップをめざして、講義だけではなく、ワークショップを積極的に取り入れ、また実際に仕事についている、知識人、先輩諸氏を招いて交流を試み、自分の生き方を考えるきっかけとする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)  (16 上村敏文/10回)社会人として求められるコミュニケーション能力(聴く、話す、書く)、時事問題、就職活動で活用できる知識、ノウハウ  (28 福山和女/5回)適性検査、個人ワーク</p>	オムニバス
38	教養科目群	コンピュータ入門 I	<p>(概要)パソコンの基礎的演習を通して、コンピュータに関する基礎知識と操作技術を習得する。現代の高度情報化社会に対する認識と理解を深め、コンピュータの利便性と危険性を学ぶ。技能レベルにより3クラスに分ける。15回の講義で、コンピュータの歴史とパソコンの基礎知識、インターネットのしくみとWeb検索、Microsoft Word演習(和文/英文の入力とレイアウト、パソコンでアイデアを練る方法、スタイル設定、タブ設定、図と表を含むレイアウト、論文作成の方法)等を学ぶ。</p>	
39	教養科目群	コンピュータ入門 II	<p>(概要)事務処理用ソフトとして、汎用性の高いMicrosoft Excelを使って、表計算とグラフ作成の基本から応用操作を学ぶ。演習は、技能レベルにより3クラスに分け実施。15回の講義で、ワークシートの基本操作と簡単な計算、日付データの入力と表示の基本と応用、住所録の作成、エクセル⇄ワード間のデータコンバート、小遣い帳の作成、時刻の計算法と、統計関数、クロス集計、グラフ作成、図表入りワード文書の作成等を学ぶ。</p>	

40	教養科目群	情報言語コミュニケーション I	(概要)コミュニケーションならびに知的生産の道具として、パソコンを使いこなす知識と技術を身に付けることが目標。教室で行う講義や演習だけでなく、クラウドサービスを使ったインタラクティブな教育環境を提供する。15回の講義で、パソコンによる知的生産の方法と情報の収集・発信(概論)、パソコンとコミュニケーション技術、インターネットを利用した情報収集とデータの加工・編集、アウトラインプロセッサによる文書作成と知的生産、PowerPointによるプレゼン資料作成と発表等を学ぶ。
41	教養科目群	情報言語コミュニケーション II	(概要)先ずデータベースDBとは何かを学び、インターネットによる各種データベースの検索法を体験する。次に、カード型データベースソフトを使いながら、データベースソフトの設計と基本技術を学び、PCによるデータの分類と整理・保存、検索と抽出の方法を身につける。さらに、リレーショナル・データベース・プログラムの作成演習を通して、複雑なデータ管理を柔軟に効率よく行う方法を学ぶ。演習課題は、カード型DBソフト(住所管理、文献管理)作成、データコンバートとインポート、リレーショナル・データベース・プログラム作成。
42	教養科目群	英語Reading	英語の文書のレトリック(文書の構造)を把握して、読解力をたまる。語彙力の増強と平行して、Scanning(特定の情報を読み出す読み方)、Skimming(文の大意を読み取る読み方、斜め読み)に加えて、文の複数の主題をまとめるスキル、段落の中心概念(Main Idea)を読み取るスキルなどの習得にも強調が置かれる。時事英文にも取り組む。読む訓練を通して、文書がもっと早く読めることにも重きをおく。小テストによって、専門言葉の学びも行う。と同時に、Extensive Reading(授業外の読書)を進めていく。
43	教養科目群	英語Speaking/Listening	英語のSpeakingとListeningのスキル(技能)のダイナミクスを習得することに重きが置かれる。主に自然なスピードの英語の発音、リズム、アクセント、イントネーション発音上の省略形の学習を通して聴解力の増強に努める。授業は実用的な英会話の訓練と習得。特にFormulaic Expressions(挨拶など)の勉強、日本語と英語の社会言語の比較(sociolinguistics)も触れる。実際の内容のある練習、演習も練り込む。Communicative English(学生が独自の情報交換)の授業です。
44	教養科目群	英語Writing/Grammar I	英語の文書の種類、段落(Paragraph)の構造をまなぶ。英作文のSentence Types(文章の種類)、Signal Words(接続詞など)の配置、機能を勉強します。英文法のポイントを踏まえながら、Writingの力をつけていくための学習をする。主に練習(宿題)が中心になる授業で、学生が自分で書かれた文章が編集できるよう進めていくように。そのため、英語でのCommon Errors(典型的な間違い)に注意を払う。Prewritingの技術(アイデアを募って、整理する)の訓練もします。
45	教養科目群	英語Writing/Grammar II	英語の文書の種類、段落(Paragraph)の構造をさらに学ぶ。英語の文書の種類、段落(Paragraph)の構造をまなぶ。特に日本人にとっての英語の難点、前置詞区、形容詞の順(Prepositional Phrases, Adjective Order)を徹底的に勉強する。Writing/Grammar Iと同じく学生が自分で書かれた文章が編集できるよう進めていくように。実用的な訓練、英語のBusiness Letter, Personal Letter, Advertisementの書き方もとりいれる。文字での情報伝達の力をつけることに努める。

46	教養科目群	英語特別演習 (Independent Study)	英語力が特別にあると認められている(帰国子女等)学生とニーズにあわせて授業を展開します。本人の英語力をさらにのばすため、レベルの高い授業、たとえば、翻訳、原文で読んだ課題に基づいて議論する。授業はすべて英語で、レポート等は必要に応じて要求することもある。一学期に90分の授業を15回、あるいはそれに匹敵している授業計画をたてる。	
47	教養科目群	英語Reading演習A(基礎)	英語のレットリック(文書の構造)を学んで、段落の論点の展開を把握する訓練をする。読書の技術、読解力をあげる。なかには語彙力の増強、文脈の論点の活用、英米文学の展開がある。授業はなるべく英語で行われる。宿題の他、持ち帰り試験(学生が時間をかけて問題、課題を行う)は評価の2割に充てる。	
48	教養科目群	英語Reading演習B(発展)	Reading演習A(基礎)の学んだ技術を踏まえて、さらに読解力を上げる。英文の購読、理解に必要な能力の復習、習得に努めていきます。できるだけ原文を教材に取り入れる、学生が読む題材について自由に提案すること奨励されます。授業はなるべく英語で行われる。宿題の他、持ち帰り試験(学生が時間をかけて問題、課題を行う)は評価の2割に充てる。	
49	教養科目群	英語Speaking/Listening 演習	英語での実用的な会話、情報交換を学び、スピーチと発表の技術の学びと訓練。会話のためのCommunication Strategies(情報交換の戦略)にも重きをおきます。スピーチと発表の技術、訓練は英語に問わず、日本語の発表にも役に立つ。人の前で英語での発言の違和感を和らげるため、授業ごとにSpeaking Homework(短い英語での発表)を要求する。諸々の英語による情報伝達を計画していく演習が行われる、特にDiscussion(議論)、Summarizing(要領を伝える)、疑問す(Questioning)の訓練をする。	
50	教養科目群	英語Writing 演習	主眼点は明確な文章を書くこと、論理的な文の展開を進めることにおかれる。段落(Paragraph)の構造の復習、Narration(物語の伝達)、Description(ものの定義、説明、描写)、Exposition(議論、見解の文)の書き方の理解、訓練を行う。特にEssay(小論文)の構造、展開、まとめの技術を学び、また、目的によって変わるEssayの書き方の練習も配慮する。留学のための文章力を授業の目的とする。そのため様々なスキルが紹介されます。学生は最後に完成した英語小論文を提出する。	隔年
51	教養科目群	ドイツ語 初級A(読本・会話) I	初めてドイツ語に接する人のための授業。アルファベットから単語の発音と綴り、短文の作り方について学び、簡単な挨拶等の会話の練習をする。ドイツ語圏の人々が使っている言語を通して彼らのものの考え方、国と言語の特徴、日常生活、食文化、観光名所などを紹介する。CDとビデオを用いてドイツ語とドイツ語圏の文化について一歩一歩楽しく学んでいく。「読む」「書く」「聞く」「話す」という四つの技能を総合的にマスターすることによって、「自分で使える」ドイツ語も培っていく。	
52	教養科目群	ドイツ語 初級A(読本・会話) II	初級AIIに引き続きドイツ語の初歩を学ぶ。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四つのスキルを基本に、基礎的なコミュニケーションのスキルに自信をつけることを目指す。ドイツの古都、食生活、スポーツ界、首都ベルリンの歴史と現代、多様な文化、宗教行事、環境保護への取り組みなど、様々なテーマを通してドイツ語とドイツ語圏の人々の世界について楽しく学んでいく。ペアワークやゲームを用いてドイツ語運用能力を高め、「分かる」ドイツ語と「使える」ドイツ語をバランスよく培っていく。	

53	教養科目群	ドイツ語 初級B(文法)	文字の読み方や発音といった初歩から始めて、ドイツ語の理解に不可欠な基礎を学び、使いこなす力をつける。まずは初級向けの教科書等をもとに基本的な文法事項を学び、新しい事項ごとに練習を繰り返して、基本を確実に身に付けることを目指す。ドイツの文化や生活などについても、音楽や映像資料を用いて紹介する。多くの学生にとっては未知の言語であるドイツ語の学習を、ドイツ語圏の国々の文化や歴史、社会等への関心を深めることにつなげたい。受験希望者があればドイツ語検定試験の対策も行う。	
54	教養科目群	ドイツ語 中級A(講読・会話) I	基礎的なドイツ語を復習しながら、語彙と構文の数を徐々に増やし、「理解できる」ドイツ語と「使える」ドイツ語を更に関連付けながら、ドイツ語に関する知識を応用できるようになるために、練習問題を一つ一つ積み上げていく。多様なテキストに触れることによって、それぞれの用途や文脈に応じたテキストのスタイルが理解できるようになることを目指す。ドイツの歴史と文化、宗教、有名な人物、観光名所、食文化、民謡など、受講生の興味・関心がある様々なテキストに取り組み、ドイツ語の世界に親しむ。	隔年
55	教養科目群	ドイツ語 中級A(講読・会話) II	語彙と構文の復習をしながら、前期に引き続き、多様なジャンルのテキストに取り組み。それぞれの単語と文脈との総合作用についての知識を深め、テキスト全体を文化的背景に照らし合わせて理解できるようにすることを目指す。テキストの主題、位置づけ、構成、論述の仕方など、多方面から理解したうえで、テーマにそって簡単な会話の練習にも役立てるようにする。使用するテキストは受講者の専門、または興味・関心に配慮して選定するので、対話を通じて双方向で作り上げていく授業を心掛けたい。	隔年
56	教養科目群	ドイツ語 中級B(文法)	すでに学んだ基礎の復習をしながら、中級レベルの文法を学ぶとともに、作文、文章の読解など、実地的なドイツ語の運用習得を目指す。さまざまなドイツ語テキストに触れることで、ドイツ語圏の国々、ひいてはヨーロッパの文化や歴史、社会等への関心や知識を深めたい。読み物は、参加者の到達度や希望に合わせて、ドイツの歴史文化を学び楽しめるものや、現在のドイツを理解するためのテキスト、ニュース記事等を取り上げる。特に読解に力を入れ、学生がそれぞれの専攻分野の研究に役立てられるようなドイツ語力の育成を目指す。	
57	教養科目群	外国の言語と文化 初級(韓国語)	① 文字と発音から始め、読み書きができ、さらに韓国語で「自己紹介」ができるまで練習する。 ② 基本的な単語の意味と発音を練習する。そして、基本的な文法を習得して、単文作成を学ばせる。 ③ 日・韓合作ドラマのビデオを見せつつ、言葉・会話・文化を学ぶ (ビデオ題名: friends)	
58	教養科目群	外国の言語と文化 中級(韓国語)	① 初級で習得した基本を中心に、会話練習をする。 ② 形容詞と動詞の語尾変化を学び、手紙が書けるよう練習する。特に、年末年始の韓国の伝統的過ごし方(儀礼、用語など)を学んで、それを単文で表現した文章を書いて見る。 ③ 場合によって、韓国料理を作ることもある。	
59	教養科目群	外国の言語と文化 初級(中国語) I	中国語の初歩を会話中心に学ぶ。中国語の基礎である四声及び発音記号:ピンインを学習、基本的な語順及び文法を理解する。自己紹介やものの数え方、場所の聞き方など、代名詞や疑問詞とその使い方を楽しい会話の中から覚え、旅行などに実践できる即戦力のある会話能力を会得する。また同時に、中国及び中国語圏の文化や歴史、政治や経済の体制などの概要講義、及び日中関係日台関係、アジアの諸問題に関するニュースに関する時事解説などを行い、その理解を深める。	

60	教養科目群	外国の言語と文化 初級(中国語)Ⅱ	Iの学習を踏まえ、更に一步進めた学習を行う。ピンインを使って辞書を引けるようにし、経験の説明や要請などより深い表現を楽しみ会話の中から覚える。学年末には集大成として生徒全員の漢詩の暗唱に挑戦し、現代中国語の中にもリズムとして残る「韻」という中国語独特の詩の世界に触れる。また同時に、中国及び中国語圏の文化や歴史、政治や経済の体制などの概要講義、及び日中関係日台関係、アジアの諸問題に関するニュースに関する時事解説などを行い、その理解を深める。
61	教養科目群	外国の言語と文化 (フィリピン語)	フィリピン共和国は、東南アジアに位置し、7,000以上の島から成り立っています。言語も100以上に分かれ、マレー系、中華系、西洋にルーツをもつ人々が多民族社会を構成しています。スペインやアメリカによる長い植民地支配の歴史もありますが、フィリピン人は、豊かな自然の中で人間同士の結びつきを大切にしている人々であります。フィリピン語学習をとおしてフィリピンとそこに暮らす人々の文化を理解していきたいと思ひます。
62	教養科目群	日本語特講(留学生)Ⅰ	授業形態: 毎回の授業で学術的文章の技能を学び、学術的文章を書く練習をする。 授業目標: 日本語の学術的文章作成に必要な技能、知識を習得する。自分や他者の文章を批判的に読む力をつける。 授業計画: 以下の技能を順を追って学習する。 1. 学術的文章とは 2. 学術的文章にふさわしい日本語① 3. 学術的文章にふさわしい日本語② 4. 一文一義で書く 5. 文と文の関係を明示する 6. 明確な語句を使う 7. 「マップ」を使って書く 8. 全体を構成する 9. 主張を根拠で支える 10. 論点を整理して書く 11. 数え上げて書く 12. パラグラフを作る 13. 参考文献を示す 14. ブロック引用をする 15. 要約引用をする
63	教養科目群	日本語特講(留学生)Ⅱ	授業形態: 毎回の授業で修士論文または博士論文の一部となる文章を作成し、検討する。 授業目標: 自分や他者の文章を批判的に読む力をつける。データに基づいた学術的文章を書けるようになる。 授業計画: 修士論文、博士論文を作成するため、以下の内容を毎週検討していく。 1. 研究の問いを決める 2~3. 序論を書く(研究目的、背景、方法) 4~6. データを収集し、記述、整理する 7~9. データを分析する 10~13. 考察を書く 14~15. 結論を書く
64	総合人間学コア科目群	人間・文化とキリスト教Ⅰ	本講義は文化とキリスト教の歴史的な側面を取り上げる。古代から現代までキリスト教がどのように政治界、思想界、または宗教界(宣教、宗教間関係、エキュメニカル運動など)に影響を及ぼしたのかを展望する。この中で、キリスト教がどのようにして広がり、各時代の文化がどのように変化して新しくなったのかを検証する。具体的にそれを学ぶためにアジア、アフリカ、ヨーロッパとアメリカの地域文化とキリスト教との発展を検証する。そのように学ぶことで、キリスト教と文化の豊かな歴史が見えるようになり、現代の世界をより深く理解することができる。最後に現代世界がキリスト教からどのような影響を受けているかを紹介する。

65	総合人間学コア科目群	人間・文化とキリスト教Ⅱ	本講義は文化とキリスト教Iを踏まえて、更にキリスト教の文化的表現と遺産を検証する。本講義はキリスト教と芸術の歴史を取り上げ、美術と音楽の遺産を紹介し、また文学とキリスト教の歴史も紹介する。それぞれの分野はキリスト教の影響をどのように受け、現代までどのように発展してきたのかを展望する。最後に現代世界に対するキリスト教の神学的な遺産を紹介する。「解放神学」、「受難する教会」、「共にいる神」、「科学と神学」などの現代的なテーマを通して神学遺産を紹介する。	集中
66	総合人間学コア科目群	キリスト教の人間観Ⅰ	われわれは多元的な社会に住んでいるので、様々な視点から(たとえば、心理学的、社会的、神学的、人類学的な視点から)人間を理解して、人間の存在の生きがいを探る。そして、いろいろな角度から現代の人間の問題に取り組む。課題図書を読み、小グループで議論し、自分の意見を積極的に表現するように奨励する。コミュニケーション・スキルを高める。キリスト教の立場から人間を探ることが大切です。自分自身との関係、他者との関係や神様との関係を考察する。	
67	総合人間学コア科目群	キリスト教の人間観Ⅱ	キリスト教の人間観Ⅰ(前期)の学習と知識に基づき、より深い議論や、意見交換をする。講義や小グループとしてジレンマのケース・スタディを提出することやグループで議論し、自分の意見を積極的に表現するよう学習する。小人数グループはグループごとに特定のジレンマのケースを授業で発表する。グループ全員でケースの選択をしそれぞれの選択した内容を検討する。クリスチャン・ノンクリスチャンのそれぞれがどのように人間を見るのかという観点で話し合う。	
68	総合人間学コア科目群	社会福祉の基礎	社会福祉入門科目と位置付け、社会福祉制度の根幹である社会福祉関係法(特に障害福祉関係法、老人福祉法、介護保険法)のそれぞれの成り立ちと内容についての基礎的な知識を習得し、ソーシャルワーク実践における社会福祉法制度の意味を理解する。 本科目では、実習に臨むにあたって必要とされる、社会福祉法制度及びこれに基づく社会福祉施設・機関等に関する基本的な知識を習得することを目的として講義を中心に進める。具体的には、社会福祉関係各法制度の枠組みを学び、さらに各法制度等の内容を理解し、課題、問題点の考察も試みる。	
69	総合人間学コア科目群	ソーシャルワーク論Ⅰ	ソーシャルワーカーとなるための、基盤となる知識と技術について学び、ソーシャルワークの基礎知識を身につけることを目的とする。相談援助の基盤として、まず、ソーシャルワークの価値、知識、技術を学ぶ。価値では、人間の尊厳や社会正義についての学びを深める。また、ソーシャルワークの定義、構成要素、範囲について学び、ソーシャルワークの枠組みを知る。そして、専門職倫理について学びを深める。さらに、総合的な相談援助の視点と展開を学び、ネットワーク、ケアマネジメント、連携協働調整についても学ぶ。	
70	総合人間学コア科目群	ソーシャルワーク論Ⅱ	社会福祉実践における個別援助のあり方について、その歴史・理念・分野・理論・実践方法を包括的に学ぶ。特に学生たちが将来就くであろう相談援助職のおかれた現場の実情を念頭において、具体的に教授することを基本とする。 個別援助を担当するソーシャルワーカーに必要な知識、技術、価値、倫理、行動規範等々も、サービス利用者との関係を前提にして具体的に考えられるよう、多くの実際の事例を用いて可能な限り理解しやすさを工夫して教授する。社会福祉士の受験資格取得に必要な科目である。	

71	総合人間学コア科目群	ターミナルケアとグリーフワーク	<p>オムニバス方式で行う。1回目の導入および15回目のまとめを福山と共同で担当。導入では、社会福祉・キリスト教・臨床心理教育においてターミナルケアとグリーフワークを学ぶ意義について、講義とグループ討議により学ぶ。まとめでは、なぜ「まとめ」が必要かをターミナルケアとグリーフワークの概念と結び付けて理解した上で、授業全体を通して学んだことを振り返る。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(28 福山和女/7回);喪失とソーシャルワーク体験、日本における現状と課題;福祉現場に見る諸問題、医療現場の死;医療者は死をどのように看取ってきたか、死と日本文化、スピリチュアルニースとスピリチュアルケア、患者の知る権利と告知、まとめ</p> <p>(8 加藤純/8回);ホスピスにおけるソーシャルワーク、音楽による看取りのケア、喪失体験者のたどるプロセス、死別を体験した子ども達、死に直面した人への精神的援助、死を迎える子どもとその家族、芸術表現と芸術療法</p>	オムニバス
72	総合人間学コア科目群	地域福祉論I	<p>「授業形態」講義 「目標」人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂、地域福祉の主体と対象等、地域福祉の基本的考え方、および地域トータルケアシステムの構築方法について理解する 「授業計画」1-2回社会の変化と地域福祉の課題3-6回地域福祉の基本的考え方7-8地域福祉の発展過程9地域福祉の主体と対象10-14回地域福祉サービスの実際15回地域福祉のこれからのありかた16回試験</p>	
73	総合人間学コア科目群	地域福祉論II	<p>「授業形態」講義 「目標」多職種・多機関との連携を含む、地域福祉におけるネットワーキングの意義と方法、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、サービスの評価方法を含む地域福祉の推進方法、地域福祉計画と地域福祉活動計画、地域福祉にかかわる組織、団体、専門職、地域福祉の財源について理解する 「授業計画」I-6回地域福祉の推進方法7-9回地域福祉計画と地域福祉活動計画10-11回ボランティア福祉教育12-14回推進にかかわる組織・団体・専門職・住民な役割15回地域の財源16回試験</p>	
74	総合人間学コア科目群	ボランティア・市民活動論	<p>ボランティア・NPO活動について、その理論と実際を学ぶ。具体的には、ボランティア・NPO活動の意義・理念、歴史的経緯、ボランティア・NPO活動を支援する制度や専門機関の働き、地域で展開されている実際の活動の特色や課題等について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 市川一宏/1回);ボランティア・NPO活動の歴史的経緯について、国内・海外の動向を踏まえて学ぶ</p> <p>(22 秋貞由美子/14回);ボランティア・NPO活動について、その意義・理念、ボランティア・NPO活動を支援する制度や専門機関の働き、地域で展開されている実際の活動の特色や課題等について学ぶ</p>	オムニバス
75	総合人間学コア科目群	多文化ソーシャルワーク	<p>オールドカマーと呼ばれる在日韓国・朝鮮の人々の高齢化、他方、労働や結婚でニューカマー(新たに来日した人々)と呼ばれるアジア及び南米出身の人々が日本の地域社会で暮らしており、エスニシティおよび文化が多様化してきた。今後、発展途上国内の失業と少子高齢化により労働力が不足し、労働力としての外国人が増加する可能性が考えられます。このように日本社会は多文化・多民族化しつつあり、民族や国籍を超えて時代に即応した社会創りが求められています。ソーシャルワークの視点から多文化共生を考えていきます。</p>	

76	総合人間学コア科目群	児童福祉の諸問題	子どもや親が直面する生活課題について、家族や社会という広がりの中で理解する力を養うことを目的とする。講義を中心に、生活課題に直面している子どもや家族に関するテレビ番組や映画の視聴、小グループ討議などを行う。具体的には、児童福祉の語義から始め、介護問題や貧困など多様な社会福祉領域との関連、子育て不安や虐待、要保護ニーズ、ひとり親家庭の生活課題、アルコール依存症や夫婦間暴力など家庭内の課題、いじめや不登校など学校と関わる課題について、発生の背景と子どもや家族への影響などを学ぶ。
77	総合人間学コア科目群	教育心理学	人間の発達における「学び」をキーワードとして、教育心理学の基礎的な概念や理論について講義形式で学習する。講義の最後に意見・感想・質問などをリアクションペーパーで提出し、次回の講義で質問に答えることによって知識の定着を促進する。また、得られた知識が実際の教育現場や日常場面でのように活用されているかについても学ぶ。各単元ごとにディスカッションを取り入れながら、人間の発達と教育との関わりについて理解を深めることを目標とする。
78	総合人間学コア科目群	発達心理学(発達障害を含む)	人生の誕生前後から死に至るまでの一生涯を対象として、基礎的な理論や発達のとらえ方や援助などについて、心理学的視点から学んでいく。特に変化の大きな乳幼児期・児童期の発達を丁寧に取り上げて、発達に関する基礎的事項の理解を深める。発達障害については、注意欠陥多動性障害、学習障害、広汎性発達障害を取り上げる。それぞれの特徴と具体的な支援のポイントについて講義するとともに、発達障害のとらえかたについて考える。最新の調査結果を紹介しながら時代と共に変化する人間の発達についても学ぶ。
79	総合人間学コア科目群	国際社会福祉概説	20世紀の国際関係に影響を与えた出来事から世界で暮らす人々の社会の課題を考える。相互依存が進む国際社会においてどのような地球規模の福祉諸課題が生じているかを把握ながら、「人間の安全」が保障される地球社会のあり方を考える。具体的には、国連憲章、世界人権宣言から人類不偏の願いを概観し、平和と暴力、貧困、難民、子ども、女性、多民族共生、ガバナンスや市民社会の役割などに関する課題を扱います。そして、21世紀における私たちの近未来を描いてみたい。授業では、講義のほか、視聴覚教材を利用します。
80	総合人間学コア科目群	心理療法概説	心理的援助という視点から、現代わが国で行なわれている代表的な心理療法の理論と技法について学生によるグループ発表と教員による講義を行い心理療法の歴史、背景理論の違いや相違点などについて学び、さらには、心理療法の有用性や限界などについても考察する。後半では、心理臨床場面における心理療法の実践について事例を提示しながら解説する。また、グループ発表を通じて、文献検索・レジュメの作成・発表の仕方などを学習する。
81	総合人間学コア科目群	カウンセリング実技の基本	この授業では、臨床心理学に基づく専門的な援助の方法として、対面式の面接とその技法に焦点を当てる。面接の構造、さらに面接技法のロールプレイを行い、基礎的な枠組みを理解することが目標となる。面接の構造がどのような機能を持つかを理解したうえで、心理臨床家に必要な「臨床的な態度」とはどのような態度か、またなぜそれが必要なのかを考え、体験的に理解する。前半は講義やグループディスカッションを交えた知識の整理を中心とし、後半は面接場面のロールプレイを用いた体験学習を行う。



82	総合人間学コア科目群	カウンセリングの実際	<p>カウンセリングを行うための基本を学ぶ。理論編ではカウンセリングの原理、過程、各種技法、特有の概念などを学び、実践編として、カウンセリングルームの作り方、望ましいカウンセラー像を学んだ上で、参加者が相互にロールプレイを行うことによって、話し方や表情、相槌の打ち方、基本とされる姿勢である「傾聴と共感」をどのように実現するかを体得してゆく。</p> <p>実技の上達には時間と経験を要するが、心理アセスメント等がクライアントに安心感を与えつつ過不足なくできることを目指す。</p>	
83	総合人間学コア科目群	心理学基礎実験	<p>演習形式で行う。心理学において主要な方法論である実験法の技能を習得することを目標とする。実験法の技能には、仮説の導出、実験計画、データ収集、データの統計処理、結果のまとめと考察が含まれる。授業では、心理学の古典的な実験研究を取り上げ、グループ単位で追試を行う。これによって実験法の一連の流れを体験的に学習する。また、各自で実験レポートを作成することを通して、科学論文の書き方についても学ぶ。</p>	
84	総合人間学キリスト教といのち科目群	いのち学序説	<p>現代社会における「いのち」をめぐる問題についての基礎的知識、及びそうした問題に向かい合う感性と理性の涵養を目的とする。生命科学や医療における倫理的な課題、孤独死や自死などの社会問題、死刑をめぐる問題やエコロジカルな課題など、今日の様々な死といのちに関わる課題を取り上げながら、本学での「いのち学」の特徴と意義を理解し、学びのオリエンテーションを行う。講義とディスカッション、グループによる作業、発表などの多様な方法によって学びを形成する。</p>	
85	総合人間学キリスト教といのち科目群	人間の尊厳と人権	<p>1948年の世界人権宣言の採択に始まり、国際人権規約、人種差別撤廃条約、女性差別撤廃条約、子どもの権利条約等々、第二次大戦後、人権保障の国際的潮流は広がり深まりを見せている。こうした流れとキリスト教はどのように関係してきたのだろうか。また、人権の聖書的根拠は何か。国際社会における人権概念の広がりを学びつつ、個別の人権課題をめぐって生じている神学的立場の相違と今後の対話の可能性について検討したい。また、信仰と社会的実践の関係についても理解を深めたい。授業は講義と学生の発表、ディスカッションで進める。</p>	
86	総合人間学キリスト教といのち科目群	福祉のキリスト教的源流	<p>旧約聖書以来三千年に及ぶキリスト教の福祉への関心と実践を、その聖書的根拠、歴史的展開、かけがえのない貢献をした人々の思想と行動の解明をとおして、世界史と日本史の両方に目配りしながら、講義する。今日の社会福祉の課題を念頭に置きつつ、とくに人間の尊厳また社会的・世界的な共生という理念がどのようにして形成され普遍化していったのかという視点も大事にしていく。社会福祉の根底に流れるキリスト教的価値観を把握することを目指す。</p>	隔年
87	総合人間学キリスト教といのち科目群	社会福祉とキリスト教	<p>社会福祉のあり方が見直されている今日、社会福祉実践の根拠や社会福祉専門職のよって立つところはどこにあるのかということについて、社会福祉実践の歴史、価値、今日的課題をふまえてキリスト教の視点から理解する。</p> <p>具体的には、社会福祉実践の歴史、価値について、キリスト教社会福祉の先駆的担い手の思想や実践をたどり、社会福祉の今日的な課題と照らし合わせながら理解を深める。テーマにより本学内外の講師による講義を行う。適宜ディスカッションも取り入れ、参加者による意見交換を活発に行う。</p>	隔年

88	総合人間学キリスト教といのち科目群	キリスト教と生命倫理	<p>倫理とは、「倫を倫たらしめる理」である。つまり様々な人が共に生きていくために「拠り所となるルール」を明らかにしようとする哲学的営みが倫理学である。</p> <p>倫理の拠り所は、個人的感情をはじめ、法律や多種多様な思想・信条にあるが、「愛」をその根本原理に据えているキリスト教倫理の視点を学ぶことにより、単なる「ルール」を超える「生き方の姿勢」を模索する手がかりとしたい。</p> <p>本科目においては、特に生命倫理(バイオエシックス)の諸ケースをとおして、「愛すること」における生命操作の是非について考えてみたい。</p>	
89	総合人間学キリスト教といのち科目群	人間・いのち・世界Ⅰ	<p>人間とは何か、生きるとはどういうことか。私たちの生について、また世界について深く掘り下げ、「いのち」の問題に迫っていくためのキリスト教的思索の基本を学ぶ。特に、「関係的存在」としての人間のあり方を聖書やキリスト教思想の古典的著作に基づきつつ学び、「心とからだ」「性と結婚」「労働と休息」「宗教と国家」などのテーマに迫り、生きるということ、自分であるということに思索をめぐらす基本的な言葉や考える方法を学ぶ。</p>	
90	総合人間学キリスト教といのち科目群	人間・いのち・世界Ⅱ	<p>現代世界の様々な問題を捉え、人間が生きるということの上で「宗教的なこと」(スピリチュアルな次元)が持っている意味を考える。宗「現代の宗教事情」「科学と理性の時代」「情報化社会」「マテリアリズム」「消費社会」「ニヒリズム」など現代世界を特徴づける言葉の意味を学び、「戦争と平和」、「歴史を生きること」「安らかな死」などの課題にキリスト教的視点から迫る。宗教というものの意義とその可能性や危険性についても学ぶ。</p>	
91	総合人間学キリスト教といのち科目群	キリスト教の倫理	<p>倫理学というものの基本的な性格を述べた後、キリスト教倫理の特徴としての先行する神の恵みと人間の責任ある応答という独自の性格と構造を紹介する。その具体例としての、隣人愛の種々相、正義・公平と平和創造、新しい生命倫理や環境倫理の核心的問題を講述し、聖書の見方・生き方と現代の諸問題との切り結びを試みる。キリスト教的な倫理観を提示することで、多様な背景を持つ受講生それぞれの倫理観の形成に資することを旨とする。</p>	
92	総合人間学実践科目群	海外研修	<p>海外研修は、フィールドを海外に移して、日本と異なる国や地域に人間や社会が直面する問題や困難に焦点をあて、その国の歴史や文化的背景を理解しながら、個々の課題に対してマクロな側面としての制度、政策、そして、メゾ及びミクロな側面の実践が、どのように人々のQOLを高めているかを学ぶことを目標とします。海外での取り組みを学習することを通じて、日本社会に生じている類似の社会現象に対して、比較的視点への学びへ発展させることが期待されています。</p>	集中
93	総合人間学実践科目群	食といのちと環境Ⅰ	<p>日本を取り巻く食文化、そしていのちの尊さを学ぶ。学内にある植物を調べ、また植生を学びながら、実際にさまざまな植物を植えていく。南アルプスのスモモ園、甲府のブドウ園の農家と協力しながら、農作業(剪定、雑草取り、農具管理、収穫)の手伝いをしながら、日本の農業とその将来について一緒に考えていく。その上で、さまざまな環境問題について理解を深めていく。</p>	集中
94	総合人間学実践科目群	食といのちと環境Ⅱ	<p>さまざまな農業形態を体験しながら、環境問題について理解を深める。栃木県西那須にあるアジア学院との協力により、アジア、アフリカから日本の農業を学びに来る留学生、研究生との交流により、日本だけではなく、海外における農業、そして林業について理解を深める。また、会津のクリスチャン農民との交流により、生協の創始者である賀川豊彦以来の伝統である農民福音学校に参加しながら、さまざまな課題について考察する。</p>	集中

95	総合人間学実践科目群	ボランティア実習	ソーシャルワーク実習やインターンシップへ行く前段階の体験的な学びを目的とし、学生の研究テーマ・関心に応じたボランティア・NPO団体等において数日間のボランティア活動を行う。活動先の探し方、活動のあたっの諸注意を事前に学び、活動の記録をとり、活動終了後は報告会を行う。	
96	総合人間学実践科目群	介護技術演習	基本的介護技術を体験することで、被介護者への理解を深めることを目的とします。講義内容は口腔ケア、血圧測定、洗髪、清拭などの基本的介護技術の根拠、技術方法の講義で学んだのち、演習を行い、まとめとしてカンファレンス、まとめのレポートを作成します。	集中
97	総合人間学実践科目群	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	社会福祉分野の実習生としてふさわしい、価値、倫理観、態度を身につける。実習生として十分な自己覚知が行えること。そして、実習先の施設・機関に関する、法律、制度、施設基準、サービス内容、利用者等についての理解をすること。実習についての目標を定め、実習計画をたてていく。ゼミ形式の授業である。	
98	総合人間学実践科目群	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	社会福祉分野の実習と並行して履修する。ソーシャルワーク実習を通じて気づいた自身の課題について理解する。そして、対処する。ソーシャルワーク実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について、理論と統合させて理解を深める。施設・機関の理解、利用者の理解、利用者との関わりの理解、他の専門職の職務や役割の理解、地域社会の理解、組織の理解などを深める。ゼミ形式の授業である。	
99	総合人間学実践科目群	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	社会福祉分野の実習と並行して履修する。ソーシャルワーク実習を通じて気づいた自身の課題について理解する。そして、対処する。ソーシャルワーク実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について、理論と統合させて理解を深める。施設・機関の理解、利用者の理解、利用者との関わりの理解、他の専門職の職務や役割の理解、地域社会の理解、組織の理解などを深める。ゼミ形式の授業である。	
100	総合人間学実践科目群	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ	社会福祉分野の実習終了後に履修する。ソーシャルワーカーとしての高度な知識と技術を習得する。自身の課題について深く理解し、適切に対処することができる。ソーシャルワークの理論と実践を統合させ、自身が地域における相談援助の専門家として実践を行う準備ができる。専門職としての価値と倫理の再確認を行う。	
101	総合人間学実践科目群	精神保健福祉援助演習(専門)Ⅰ	精神保健福祉の現場で専門職としての働きをするようになるため、必要な技術を具体的に身につける。ゼミ形式の授業において、観察、観察したこと、の言語化、記録、考察などを学ぶ。さらに、個別面接、グループワーク、ケアプランニング、チームアプローチとネットワーキングなどについて、実践的な演習を通して、具体的に学びを深める。精神保健福祉領域の相談援助の専門家として、実際の現場において用いられる事例を用いながら、学びを深めていく。	

102	総合人間学実践科目群	精神保健福祉援助演習(専門)Ⅱ	精神保健福祉分野の実習終了後に履修する。精神保健福祉領域のソーシャルワーカーとしての高度な知識と技術を習得する。自身の課題について深く理解し、適切に対処することができる。ソーシャルワークの理論と実践を統合させ、自身が地域における相談援助の専門家として実践を行う準備ができる。精神保健福祉領域における相談援助の専門職としての価値と倫理の再確認を行う。
103	総合人間学実践科目群	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	精神保健福祉分野の実習生としてふさわしい、価値、倫理観、態度を身につける。実習生として十分な自己覚知が行えること。そして、精神保健福祉領域の実習先の施設・機関に関する、法律、制度、施設基準、サービス内容、利用者等についての理解をすること。実習についての目標を定め、実習計画をたてていく。ゼミ形式の授業である。
104	総合人間学実践科目群	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	精神保健福祉分野の実習と並行して履修する。精神保健福祉領域の実習を通じて気づいた自身の課題について理解する。そして、対処する。精神保健福祉領域の実習を通じて得られた精神保健福祉現場の実情について、理論と統合させて理解を深める。施設・機関の理解、利用者の理解、利用者との関わりの理解、他の専門職の職務や役割の理解、地域社会の理解、組織の理解などを深める。ゼミ形式の授業である。
105	総合人間学実践科目群	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	精神保健福祉分野の実習と並行して履修する。精神保健福祉領域の実習を通じて気づいた自身の課題について理解する。そして、対処する。精神保健福祉領域の実習を通じて得られた精神保健福祉現場の実情について、理論と統合させて理解を深める。施設・機関の理解、利用者の理解、利用者との関わりの理解、他の専門職の職務や役割の理解、地域社会の理解、組織の理解などを深める。ゼミ形式の授業である。
106	総合人間学実践科目群	ソーシャルワーク実習Ⅰ	実習を通して、ソーシャルワーカーとしての知識と技術を身につける。実習を通して、自己について気づいた自身の課題について理解し、対処することができるようになる。実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について、理論と統合させて理解を深める。実習は、社会福祉士のための実習であり、180時間以上現場における実習を行う。
107	総合人間学実践科目群	ソーシャルワーク実習Ⅱ	ソーシャルワーカーとしての高度な知識と技術を身につける。資格取得のための実習を終えた上で、さらに、興味関心の深い分野において実習を行い、自身の課題を知り、振り返りを深め、また、現場における実践を知ることを通して、理論と統合させて理解を深める。実習は、概ね10日間以上の実習となる。
108	総合人間学実践科目群	ソーシャルワーク実習Ⅲ	実習を通して、ソーシャルワーカーとしての知識と技術を身につける。実習を通して、自己について気づいた自身の課題について理解し、対処することができるようになる。実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について、理論と統合させて理解を深める。実習は、社会福祉士や精神保健福祉士のための実習にあたらぬ分野や施設におけるもの。180時間以上現場における実習を行う。

109	総合人間学実践科目群	精神保健福祉現場実習	実習を通して、精神保健福祉分野におけるソーシャルワーカーとしての知識と技術を身につける。実習を通して、自己について気づいた自身の課題について理解し、対処することができるようになる。実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について、理論と統合させて理解を深める。実習は、精神保健福祉士のための実習であり、150時間以上現場における実習を行う。そのうちの90時間以上を精神科医療機関における実習とする。	
110	総合人間学実践科目群	精神保健福祉実習	実習を通して、精神保健福祉分野におけるソーシャルワーカーとしての知識と技術を身につける。実習を通して、自己について気づいた自身の課題について理解し、対処することができるようになる。実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について、理論と統合させて理解を深める。実習は、精神保健福祉士のための実習であり、210時間以上現場における実習を行う。そのうちの90時間以上を精神科医療機関における実習とする。	
111	総合人間学実践科目群	インターンシップゼミ	インターンシップがより深い学びにつながるよう、インターンシップ前には、活動先の事業・活動について調べ、活動計画をたてる。活動期間中は適宜ゼミにおいて互いの状況を報告しあい、活動終了後は理論と実践の結び付けをはかるため、報告会を行う。	
112	総合人間学実践科目群	インターンシップⅠ	学生自身が将来の進路について考える一助として、社会で働く・社会に貢献することを体験的に学ぶことを目的に、45時間のインターンシップを行う。活動先としては、学生の研究テーマ・関心に応じた、地域のボランティア・NPO団体、法人、企業等を予定している。	
113	総合人間学実践科目群	インターンシップⅡ	学生自身が将来の進路について考える一助として、社会で働く・社会に貢献することを体験的に学ぶことを目的に、45時間のインターンシップを行う。活動先としては、学生の研究テーマ・関心に応じた、地域のボランティア・NPO団体、法人、企業等を予定している。	
114	総合人間学実践科目群	インターンシップⅢ	学生自身が将来の進路について考える一助として、社会で働く・社会に貢献することを体験的に学ぶことを目的に、45時間のインターンシップを行う。活動先としては、学生の研究テーマ・関心に応じた、地域のボランティア・NPO団体、法人、企業等を予定している。	
115	総合人間学実践科目群	インターンシップⅣ	学生自身が将来の進路について考える一助として、社会で働く・社会に貢献することを体験的に学ぶことを目的に、45時間のインターンシップを行う。活動先としては、学生の研究テーマ・関心に応じた、地域のボランティア・NPO団体、法人、企業等を予定している。	

116	総合人間学実践科目群	海外インターンシップ前ゼミ	海外インターンシップで必要な心構え、準備(実習テーマの設定、実習計画の作成、その他の事前準備)を進める。インターン先の国及び地域(歴史、政治、経済、文化)について基礎的な知識を身につけ、社会福祉実践と国際協力についての概要を学ぶ。履修者が実習テーマ及び目標を設定した上で、実習計画表を作成する。それを基に、実習受け入れ先の選定と調整を行います。授業の進め方は、学生の発表を中心に、インターン先についての学習及び作成された実習目標、実習計画表を用いて発表を行います。	
117	総合人間学実践科目群	海外インターンシップ	海外インターンシップ先機関で実施します。総合人間学科で提供される授業で学んで知識と技術を総合的に用いて、海外インターンシップ計画で立てた目標を達成することにあります。インターンシップ現場として、開発途上国に共通に見られる現象としての貧困と社会的排除などの社会問題、福祉及び地域の課題が存在します。総合人間学科の学生(子ども支援コース学生)にとって諸外国におけるの実践から学ぶことを念頭においています。履修学生の興味関心に沿って、インターンシップ先を検討します。	
118	総合人間学実践科目群	臨床心理実習前演習	本演習は、臨床心理実習の準備段階として位置づけられる。実習先に関する情報を収集することから始め、実習先の見学とその後の議論、ロールプレイなどによって、実習に取り組む姿勢と実習に必要な知識、技能を習得する。その上で各自の関心にあわせた実習目標をたて、実習計画の作成に取り組む。	
119	総合人間学実践科目群	臨床心理実習 I	「臨床心理実習前演習」の内容を踏まえて、各自学外での実習に取り組む。授業時間内では、それぞれの実習内容を報告し、意見や疑問、感想を出し合うグループスーパーヴィジョンを行う。同時に毎回の実習記録を担当教員に提出し、内容や記述の仕方について指導を受ける。以上を通して、大学で学んでいる臨床心理学の理論や技術、価値観が実践の場でそのように活かされているかを理解することを目標とする。	
120	総合人間学実践科目群	臨床心理実習 II	この授業では、前期の「臨床心理実習前演習」の授業内容を踏まえ、夏季休暇中の5日間を通して、学外の精神科病棟で実習を行う。実習期間中は毎回始業時から病棟を訪問し、実習記録として患者さんとのやり取りについての逐語記録を作成する。逐語記録は毎回の実習終了後に行われるグループスーパーヴィジョンの中で教員の指導を受け、実際の関わり方や心の理解に必要な視点について振り返りながら学ぶ。また精神科医療の現場で、心理の専門家は何かができるのか、どのような働きをしているのかを体験的に学ぶ。	集中
121	総合人間学外国語原典講読科目群	英語聖書 I	新約聖書の英語版本文(New Revised Standard Version)を自分で翻訳することで、聖書の本文に親しみつつ、英語の文章にも慣れることがこの授業の目的である。そのため、「英検3級」程度の英語力が受講の前提となる。受講者が順番に英語本文を音読しつつ翻訳し、教師がその都度それにコメントを加える形で授業を進める。平成26年度は「ヨハネによる福音書」を取り上げる。	
122	総合人間学外国語原典講読科目群	英語聖書 II	英語聖書 I と同じ目的と方法で、引き続き「ヨハネ福音書」の訳読を続ける。II の受講者は、I を受講していることが望ましい。聖書本文の理解をさらに深めるために、教師が適当と判断した場合には、ギリシャ語原文のニュアンスをコメントとして付け加える場合もある。	

123	総合人間学外国語原典講読科目群	神学初級演習	キリスト教や宗教、現代社会におけるスピリチュアリティ、死といのちの問題などキリスト教コースで扱う幅広い領域のなかで、自らの関心をテーマとして選び、学びを深め、さらに論文やレポートの形にまとめていく基礎的力を身につける。問題関心を育て、大学での学びとしての読書法、研究ノートの作り方、議論の仕方などを実践的に学び、レポートや論文にまとめていくための基本的な技術を習得する入門ゼミである。	
124	総合人間学外国語原典講読科目群	旧約聖書原典講読	[授業のねらい]旧約聖書をヘブル語原典で味わうこと。[到達目標]ヘブル語聖書を音読し、辞書をひきつつ、その意味をくみ取ることができるようになること。[講義内容]最初はヘブル語聖書を講読する際の約束事・諸注意について確認し、その後実際に決められた聖書箇所を正確に辞書をひき、単語の持つニュアンスをくみ取りながら、文法、文脈に留意しつつ読み進めていく。参加者が順番に本文を読んで私訳する。	
125	総合人間学外国語原典講読科目群	新約聖書原典講読	新約聖書をギリシア語原典で講読することを通して、新約ギリシア語の語彙、文法、構文の実際に触れる。また福音書およびパウロ書簡を通読し、その文体的特徴、神学的傾向について学ぶ。講義の進め方としては、各受講生が担当箇所を訳出し、その内容についての検討を行う。また併せて新約研究に必要な諸文献・諸資料の使い方について学ぶ。	
126	総合人間学外国語原典講読科目群	ドイツ語聖書	授業形態はドイツ語のテキストを用いる。そのテキストを音読させ、正しく発音しているかを確認する。次に、本文の解釈及び文法理解、最後に内容理解を質疑応答をしながら進め、確認をする、最終目標としてドイツ語聖書を原文で読解することを目指す。テキストとして、現代ドイツの殆どのプロテスタント教会の堅信教育のテキストとして用いられている『マルティン・ルター博士の小教理問答』(ヘルムート・コリント監修)を用い、特に、そこに引用されているドイツ語聖書本文の理解を進めていく。	
127	総合人間学外国語原典講読科目群	ヘブル語	①授業形態:講義形式で行います。②授業目標:旧約聖書原典を読みするために必要な聖書ヘブル語の初級文法を習得することを目標にします。③授業計画:テキストはプリントを使います。そのプリントに基づいて毎回初級文法を解説し、適宜語彙についても学びながら基礎知識を段階的に学習します。後期は実際の聖書本文を翻訳しつつ、既に習得した文法事項を確認しながら進みます。宿題や課題や練習問題を行い、語彙を覚え、基本事項を確認しながら復習します。 (オムニバス方式/全15回) (12 大串肇/前期週2コマ、30回);初級基礎文法 後期週1コマ基礎文法(発展編) (40 江本真理/後期のみ、週1コマ15回);旧約原典をテキストにするリーダークラスを江本真理が担当。	オムニバス
128	総合人間学外国語原典講読科目群	ギリシア語	本講座の目標は、受講者が将来、聖書教育や神学研究のために新約聖書並びに新約関連古典文書を原語で読む際、直面する言語上の諸問題を独立ないし指導者の最低限の手ほどきを得て解決できるレベルの文法事項を習得することとする。授業形態及び計画として、文法の指定教材をもとに講義を進め、毎回講義内容の定着のための宿題を課する。後期中盤を目標に教材を一通り終了した段階で、「指導者の最低限の手ほどき」を受けた読解を実践に移すため、新約聖書の諸文書から章単位でテキストを選び、比較的容易なものから難易度を上げながら演習形式の講読を行う。	

129	総合人間学外国語原典講読科目群	社会福祉英専門書講読	ソーシャルワークの定義、ソーシャルワーカーの価値、知識、技術がどのように規定されているかを国際ソーシャルワーカー連盟(International Social Worker's Federation)の英語文献からソーシャルワーカーの求められる専門性を考える。また、欧米に限定せず、アジア地域における最近のソーシャルワークの実践テーマを取り上げ、実践的取り組みについて英語文献を通して学ぶことによって、ソーシャルワークの世界的な広がりを理解することが出来るようになる。
130	総合人間学外国語原典講読科目群	臨床心理英専門書講読A	授業の目的:毎年、指定した英専門書を講読する。特に臨床心理学の中でも精神分析または精神分析的な心理療法に関する基礎文献を講読することで、臨床心理学の歴史を学び、学派による理論と技法を明瞭に区別しながら、基礎的な臨床心理学的知見を習得することを目的とする。授業形態:講義とディスカッションで展開する。本講義を受講する学生は、担当箇所の和訳を行い、クラス当日に持参すること。
131	総合人間学外国語原典講読科目群	臨床心理英専門書講読B	授業の目的:毎年、指定した英専門書を講読する。専門書は前期で使用したものを引き続き講読する。特に臨床心理学の中でも精神分析または精神分析的な心理療法に関する基礎文献を講読することで、臨床心理学の歴史を学び、学派による理論と技法を明瞭に区別しながら、基礎的な臨床心理学的知見を習得することを目的とする。授業形態:講義とディスカッションで展開する。本講義を受講する学生は、担当箇所の和訳を行い、クラス当日に持参すること。
132	総合人間学外国語原典講読科目群	臨床心理英語論文読解 I	心理学の研究論文を正しく読む力を身に付ける。この授業では、日本語の心理学の学術雑誌を用いる。はじめに、1本の論文を取り上げ、研究論文がどのように構成されているかを学び、また問題、方法、結果、考察で何が表現されているかを適切に読み取ることができるようになる。さらに、各構成がどのように繋がりをもっているのか全体的な流れを理解する。後半では、受講生が各自関心のある研究をピックアップし、担当の論文についてレジュメにまとめ、研究を解説することを通して、読解力を身に付け、関心テーマについての理解を深める。
133	総合人間学外国語原典講読科目群	臨床心理英語論文読解 II	心理学の研究論文を正しく読む力を身に付ける。Iで理解した研究論文の構成を踏まえて、IIでは英文の研究論文を扱う。はじめに、1本の論文を取り上げ、問題、方法、結果、考察で何が表現されているかを適切に読み取ることができるようになる。さらに、各構成がどのように繋がりをもっているのか全体的な流れを理解する。後半では、受講生が関心のある研究をピックアップし、担当の論文についてレジュメにまとめ、研究を解説することを通して、読解力を身に付け、関心テーマについての理解を深める。
134	総合人間学総合演習科目群	卒業演習プレゼミナール	卒業論文のテーマを選ぶために先行研究の検索の仕方、図書館の利用の仕方、心理学の学術論文の読み方、卒業論文の執筆の仕方、引用文献の表示の仕方などを学ぶ。心理学の論文には一定の書き方のパターンがあるので、その方法になれると共に、自分の関心のあるテーマを研究計画として具体的に実現していくためにはどうしたら良いかを解説する。この講義の前半にゼミの希望調査をしゼミ配属をし、その後は担当教員につなぐまでを指導する。



135	総合人間学総合演習 科目群	卒業演習Ⅰ	ゼミ形式で、卒業研究・論文の取り組みについて学ぶ。各自の専門分野に基づいた問題関心を掘り起こし、研究のテーマ設定、さらに具体的なテーゼの立て方を学ぶ。研究資料としての第一次、第二次資料の収集、先行研究の学び方から論文の書き方についての基本的な方法論を学んでいく。また、必要に応じて共同研究や量的調査の具体化、研究倫理の課題についての基礎的知識を習得する。自分の問題関心を具体的な研究へと前進させ、スケジュールリングを行い、指導を受けながら論文執筆へと結びつけていくプロセスを学ぶ。
136	総合人間学総合演習 科目群	卒業演習Ⅱ	原則的に卒業演習Ⅰに引き続き、同じ指導教員に指導を受けながら、研究をすすめる。先行研究にあたり学術論文の取り組みについて学びを深め、テーマに即した議論の深め方や専門分野における方法論に具体的に習熟し、論文執筆のための論述を展開する力を養う。論文やプレゼンテーションの構成を考え、計画に基づいて研究と調査を実施し、結果の分析を行い、考察を経て論文を完成させる。また、執筆に伴う新たな課題の整理方法についても学ぶ。
137	総合人間学総合演習 科目群	卒業演習Ⅲ	卒業演習Ⅱに続く科目である。卒業論文の書き方を学び、完成に向かって研究をすすめる方法を学ぶ。自分で企画した研究を、確実に前進させ、中間発表をへて最終的に論文として完成させるプロセスを学ぶ。原則的に卒業演習Ⅰ・Ⅱに引き続き、同じ指導教員に指導を受けながら、研究をすすめることになる。
138	総合人間学総合演習 科目群	ソーシャルワーク演習Ⅴ	ソーシャルワークの理論と実践を統合して理解する。ソーシャルワーク実践を適切に行えるようになる。地域福祉の基盤整備や開発の方法を計画、実施できるようになる。少人数の演習で、各自調べてきたことをもとに発表し、討議する。各演習のテーマに基づき、ソーシャルワークの実践や地域福祉の基盤整備と開発などについて具体的に学ぶ。ソーシャルワークの理論と実践の統合化を図る。
139	総合人間学総合演習 科目群	ソーシャルワーク演習Ⅵ	ソーシャルワークの理論と実践を統合して理解する。ソーシャルワーク実践をより適切に行えるようになる。地域福祉の基盤整備や開発の方法を計画、実施できるようになる。ソーシャルワーク演習Ⅴに引き続き、少人数の演習で、各自調べてきたことをもとに発表し、討議する。各演習のテーマに基づき、ソーシャルワークの実践や地域福祉の基盤整備と開発などについて具体的に学ぶ。ソーシャルワークの理論と実践の統合化を図る。
140	総合人間学総合演習 科目群	卒業論文	卒業演習(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)において指導教員の指導のもと論文の作成方法を学ぶ。ゼミでの発表、2回の中間発表会での表を経て、12月の定められた日までに卒業論文を提出する。特別な事情のない限り、2回の中間発表ができなかった場合は、卒業論文の提出はできない(ただし、ゼミ論として、指導教員に提出することは可能である)。
141	総合人間学キャリア 形成科目群(キリスト 教人間学系)	世界の宗教Ⅰ	仏教、儒教、神道を中心にその教義、歴史を概観する。インドで発生した仏教の社会的背景、そしてその伝播と日本に対する影響。そして「日本式」仏教の成立を検証する。また、中国で成立した儒教について、その発生と発展を老荘思想との対比において比較考察する。その上で、日本の神道にどのような影響関係があったのかを一つの仮説に基づいて考察する。すなわち日本の伝統的宗教としての神道への影響について理解を深める。

142	総合人間学キャリア形成科目群(キリスト教人間学系)	世界の宗教Ⅱ	ユダヤ教、キリスト教、イスラム教を中心にその教義、歴史を概観する。ユダヤ教に関しては旧約聖書を吟味することによりその形成を学ぶ。また、キリスト教はいかに成立し、ギリシャ、ローマ世界にどのように展開し影響を与えていったかについて、また同時に、アジア、アフリカへの伝播についても付言する。イスラームについては今日的課題として重要なテーマの一つであるので、客観的にその内容を具体的に吟味する。
143	総合人間学キャリア形成科目群(キリスト教人間学系)	文化史	日本文化の起源について、縄文、弥生文化に敷衍しつつ、古代、中世、近世、近代日本を中心にそれぞれの文化的特徴を明らかにする。古代日本の形成、平安期の国風文化の醸造、中世における武家文化としての能楽、また近世以降、キリシタン時代に生じた軋轢と禁教、鎖国、そして江戸樹の歌舞伎、浄瑠璃など独特の文化形成について、また近代日本の国家形成におけるプロテスタンティズムとの相克を多角的に検証していく。
144	総合人間学キャリア形成科目群(キリスト教人間学系)	比較文化論	アジア、アフリカなどさまざまな文化を学びながら、日本文化を考察する。東アフリカを中心に生活をしているマサイ族が、この20年でキリスト教を急速に受容していった背景、また韓国、中国でキリスト教が伸びた理由は何であるのか。その反対に何故日本ではキリスト教が量的には増大しなかったということについて、比較文化論の手法を援用して考察する。各自関心のある領域、課題を提出したプレゼンテーションを実施する。
145	総合人間学キャリア形成科目群(キリスト教人間学系)	いのちのキリスト教史	この講義の前提は、神の愛が創造的であり、全ての生きているものにいのちを与え、人間関係を新たにする力であるということである。神の愛が歴史の中でどのように伝えられたかを理解するためには、毎週の授業で教会史の中からある特定の神学者の文章を読み、歴史的な意義を学ぶ必要がある。講義の基本的な考えは、各時代の神学者たちがそれぞれの時代に神の創造的な愛について述べて、キリスト教の本質を表したというものである。各時代の代表的な神学者の文書を通して、歴史的背景のみならず、現代に生る自分をより深く理解できるようになることを目的とする。古代から現代までキリスト教の一つの大事なテーマ、「神の愛」を各時代の中でどのように伝えられたのか展望する。
146	総合人間学キャリア形成科目群(キリスト教人間学系)	日本における死生学	日本の宗教・文化の底流にある「死生観」を掘り起こし、日本人の死といのちについての考え方・捉え方を深く学ぶ。神道や仏教のみならず、山岳信仰や民間信仰、祖先儀礼や現代のスピリチュアリティに至までいわゆる宗教的な実践や著作、文学などを通して、死の問題がどのように扱われ、論じられ、感じられて生きられてきたのか、現象学的手法を用いながらその実像に迫り、考察していく。日本的な宗教性の二つの潮流を確認し、「死生観」の特徴を知る。
147	総合人間学キャリア形成科目群(キリスト教人間学系)	キリスト教と死生学	キリスト教の生と死、また復活についての考え・思想の根拠とその神学的考察の意味を理解し、キリスト教の死生観が現代を生きる私たち日本人にとって、どのようなメッセージをもっているのかを考える。「聖書」を初めとして二千年及ぶキリスト教の歴史における代表的な神学的思想家・その著作に尋ねながら、キリスト教的死生観がどのような特長をもっているのかを捉える。それぞれ異なる時代状況のなかで、聞き取られたメッセージの意味を深く学ぶ。

148	総合人間学キャリア形成科目群(キリスト教人間学系)	キリスト教カウンセリング	「キリスト教」の立場から、ヴィクトール・フランクルの「実存分析」、エリック・バーンの「交流分析」、エリック・エリクソンの「ライフサイクル理論」、エリザベス・マッキンレーのパーソン・センタードの「スピリチュアル回想法」、宮本真巳の「異和感の対自化」等々、いくつかの「心理学・カウンセリング理論」と対話することを通して、学生が将来目指している「カウンセラー/ケアワーカー」としての「メタ認知能力」と「自己洞察」を深め、「共感的な受容と傾聴」と「セルフケア」の技能を身につけてゆく。
149	総合人間学キャリア形成科目群(キリスト教人間学系)	キリスト教の歴史Ⅰ	この講義は、初代教会から宗教改革の前夜であるルネッサンスまでを辿る。ほぼ1500年に及ぶ教会史を辿るので、扱うテーマは多様である。古代教会の歴史は公会議と教義の発展が中心となり、特に三位一体の教義とキリスト論を代表的な問題として取り上げる。中世の歴史の中心課題は修道院制度や教会の東西分裂を検証する。イスラムとキリスト教の中世史を検証し、十字軍の歴史も学ぶ。ルネッサンスの人文主義の教会に対する影響を紹介する。そして、宗教改革を予告した神学者についても学ぶ。
150	総合人間学キャリア形成科目群(キリスト教人間学系)	キリスト教の歴史Ⅱ	この講義は、宗教改革から現代に至る教会の歴史を辿る。特に宗教改革の発端となったルターの新学に注目しつつ、プロテスタント諸教派の形成の歴史にふれる。更にカトリック改革にも目を向け、正統主義と経験主義を学ぶ。19世紀からの近・現代に於ける北アメリカ、ヨーロッパ、ラテンアメリカなどのキリスト教運動、又はキリスト教の地理的拡張と宣教について学習する。この時代に影響を及ぼしたプロテスタント神学、カトリック神学と東方教会の神学の発展について検証する。宗教改革という出来事の現代世界に対する意義を紹介する。
151	総合人間学キャリア形成科目群(キリスト教人間学系)	聖書入門Ⅰ(旧約)	授業形態:講義形式 目標:キリスト教の正典である旧約聖書は、三千年の時を経て現在もなお人間の真のアイデンティティを発信し続けている。本科目では、その旧約聖書の内容を理解し、また登場人物の人間像を通して、旧約聖書の語る人間の真のアイデンティティを理解する。授業計画:全15回
152	総合人間学キャリア形成科目群(キリスト教人間学系)	聖書入門Ⅱ(新約)	「永遠のベストセラー」といわれている聖書の世界にアプローチする。主に聖書に書かれているテキストを題材に聖書がどのように読まれ解釈されてきたものであるのか、実例と共に学んでいく。聖書は信仰の書としてだけでなく、人々の生活全般、政治、経済、教育、芸術とさまざまな領域に横断的にかかわりを持っている。まず聖書本文そのものに慣れ親しみ丁寧に読むことを心がけながら、聖書と現代的な問題とのかかわりに目を転じて、人間観、世界観、生命観などについて入門的に学ぶことを目標とする。
153	総合人間学キャリア形成科目群(キリスト教人間学系)	旧約聖書の人間観	①授業形態:講義形式で行います。②授業の目標:旧約聖書は神のみならず、人間について語っています。人間の本質は変わっていません。男も女も、からだ、魂、心をもった人間です。旧約聖書はその姿をいきいきと、立体幾何学的に描き出しています。その人間像とはどのようなものなのか。旧約聖書の人間理解について学ぶことを目標にします。③授業計画:旧約聖書の人間理解の上で、重要なキーワードや聖書箇所を取り上げながら展開します。

154	総合人間学キャリア形成科目群(キリスト教人間学系)	新約聖書の人物像	新約聖書はキリスト教の正典として読まれ、また文化的な遺産としても読み継がれている。とりわけ新約聖書に登場する諸人物のイメージは文学や音楽に多大な影響を与えおり、様々な状況における「生き方」のモデルを示してきた。本講では新約聖書の主要な登場人物を新約テキストに即して論考を深める。そのためにまず当該のテキストを丁寧に読んで文脈を考察し、他の出来事や人物との相関関係などへも考察を深めながら、多方面にわたる影響史について論考を深めたい。	
155	総合人間学キャリア形成科目群(キリスト教人間学系)	聖書に見るジェンダー	ジェンダーおよび性の概念を明らかにした上で、両者の関係について学ぶ。ジェンダーの問題は、人権および社会正義の問題とも緊密に関連している。同じような問題に関心を持っている聖書がこれらの問題に対してどのような思想的基盤を提供しているかを検討する。	隔年
156	総合人間学キャリア形成科目群(キリスト教人間学系)	スピリチュアリティと聖書の伝統	今日いのちに関わるさまざまな援助職に就く者にとって深く理解することと自らそれを豊かに持つことが期待されるスピリチュアリティなるものの性質を解明する。同時に、それと密接な関わりをもってきた聖書・キリスト教の伝統を学ぶ。聖書はとくに詩編の中に湛えられている、人間が窮境に陥っているときや喜怒哀楽の諸場面で明らかになってくる霊性を味わう。またキリスト教史上に現われた人々の霊性の諸相を残された文献を通して学ぶ。	
157	総合人間学キャリア形成科目群(キリスト教人間学系)	美術史	造形芸術作品の歴史的背景への洞察や複眼的な観察眼を総合的に用いながら、批判的な視点を培い、美術作品、主に視覚芸術作品を鑑賞・分析する力を養う。分析対象は伝統的な「美術」作品をはじめ、日常生活用品、広告ポスターなど、幅広い造形表現を扱う。作品の表象のみならず、人間が日常的に行う「見る」「知覚する」という行為に伴う、「解釈する」行動のメカニズムを分析し、受講生自身のものの見方／見え方を再考・検討する。後期開講科目「キリスト教美術特講」の基盤となる。	隔年
158	総合人間学キャリア形成科目群(キリスト教人間学系)	キリスト教美術特講	キリスト教に関わる美術／主に視覚芸術表現を、他宗教の芸術表現との冷静な比較検討の態度、ならびに前期講義で学んだ歴史的背景への洞察や複眼的な観察眼を総合的に用いながら、批判的視点を培いつつ鑑賞・分析する。分析対象は、西欧の「伝統的な」キリスト教美術のみならず、日常生活用品、非西欧圏の美術、現代美術も取り上げ、キリスト教に関わる幅広い造形表現を概観する。また、教室内での講義のみならず、キリスト教に関わる作品を展示する美術館もしくは礼拝堂建築を訪問し、現場での鑑賞・分析の実践を行う。	隔年
159	総合人間学キャリア形成科目群(キリスト教人間学系)	キリスト教文学特講Ⅰ	講義形式。日本近代文学をキリスト教の観点から考える。遠藤周作の作品のうち『白い人黄色い人』『海と毒薬』『沈黙』『侍』『深い河』から各期三作品ずつを組合せて読解し、日本人の思考と西洋人の思考、日本人一般と日本人キリスト教徒の生き方、さらに今日的な宗教多元主義等の問題を扱って遠藤文学の独自性を考える。ほぼ毎回授業のポイントや問題点を記した印刷物を配布して予復習に役立ててもらおうとともに授業中の相互対話に生かしてもらおう。計画では一作品を連続四回で読了しその都度小レポートを作成し、最後に定期試験に替わるレポートも作成してもらおう。	隔年

160	総合人間学キャリア形成科目群(キリスト教人間学系)	キリスト教文学特講Ⅱ	講義形式。①夏目漱石の『心』、②大岡昇平の『野火』、③大江健三郎の『個人的な体験』についてキリスト教の観点からアプローチする。①では明治啓蒙期に育った知識人の孤独と罪責感、②では敗残兵の孤独と救済への叫び、③ではエゴイステイックな自由の希求と異質な他者との共生の問題を今日的な「出産前診断」に絡めて考える。ほぼ毎回授業のポイントや問題点を記した印刷物を配布して予復習に役立ててもらおうとともに授業中の相互対話に生かしてもらおう。一作品を連続四回で読了し、その都度小レポートを作成し、最後は定期試験に替るレポートを作成してもらおう。	隔年
161	総合人間学キャリア形成科目群(キリスト教人間学系)	キリスト教音楽実技Ⅰ	鍵盤楽器の基礎的な技術を習得し、読譜力と表現力を身につけることを目的とする。ピアノ履修者の保育士試験準備を目的とする者は「バイエル教則本」や子どもの歌の曲などをレッスンする。リードオルガンやパイプオルガン履修者は教会や諸施設での礼拝、その他の奉仕に必要な音楽を学び、習得できるようそれぞれのレベルに合わせたレッスンとなる。基礎的な技術を学びながら教会音楽の作品を学ぶ。	
162	総合人間学キャリア形成科目群(キリスト教人間学系)	キリスト教音楽実技Ⅱ	教会音楽実技Ⅰをすでに履修した者が更に演奏技術を向上させ、音楽的表現力やレパートリーを広げることを目的とする。また、実際に実習や礼拝などで奉仕ができるようにする。それぞれのレベルに合わせたレッスンとなる。	
163	総合人間学キャリア形成科目群(キリスト教人間学系)	キリスト教音楽実技Ⅲ	教会音楽実技Ⅰ・Ⅱをすでに履修した者が更に演奏技術を向上させ、音楽的表現力やレパートリーを広げ、レベルアップを目指し学ぶ。様々な時代の作品に挑戦してみる。それぞれのレベルに合わせたレッスンとなる。	
164	総合人間学キャリア形成科目群(キリスト教人間学系)	礼拝音楽と讃美歌	キリスト教の礼拝に何故音楽が必要か、なぜ、賛美歌を歌うのかなどを旧新約聖書や様々な資料から学ぶ。授業の中では歴史的な詩編の賛美歌を聞いたり、校正の音楽家たちが残した神を賛美するための音楽、聖書の物語を音楽に表した作品などにも触れ、賛美がどのように行われてきたか、どのように表現されてきたかを学ぶ。	
165	総合人間学キャリア形成科目群(キリスト教人間学系)	日本の宗教Ⅰ	古事記上巻を中心に、神道の成立について総合的に学ぶ。序文の思想を吟味することにより、古事記成立の意図を探る。また本文冒頭を日本書紀と比較することにより、その相違と背景について論考する。特に7、8世紀の古代日本社会と神道、そして仏教との関係について学びながら、神道の変遷、そしてとくに鎌倉仏教の成立とその特徴と、それぞれに教義について吟味する。	
166	総合人間学キャリア形成科目群(キリスト教人間学系)	日本の宗教Ⅱ	古事記中巻、下巻を中心に、神道、仏教について総合的に学ぶ。上巻を受けて、それぞれに時代にどのような事象があったのかを概観する。式年遷宮など、伊勢神宮、出雲大社についてその歴史、特徴をそれぞれ学ぶ。必要に応じてフィールドワークを実施し、神社の実際を体験する。その一方で、幕末から発展してきたいわゆる教派神道、また戦後展開する新宗教、新々宗教についても論及する。	

167	総合人間学キャリア形成科目群(キリスト教人間学系)	キリスト教の信仰	人々が信仰するとはいったいどのような現象を指しているのか。本講ではキリスト教の「信仰」理解を主に新約聖書テキストから学び、歴史的な宗教としてキリスト教が実際に何を信じ、また社会的文化的にそれが何を意味してきたのかを多角的に考察する。主な資料として日本語訳の聖書を用いるが、そのために適宜さまざまな関連書物、記事などを取り上げながら、具体的に人から人へ「信仰」を軸に何が受け継がれ分かち合われているのかを考察したい。	
168	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	社会福祉の歴史	講義形式の授業進行を中心に進めていく。授業内容としては、イギリスを中心とする欧米と日本の社会福祉の現在に至るまでの状況について、法制度等を中心に、具体的な福祉サービス等を交えながら学んでいく。イギリスでは17世紀の救貧法からみていき、日本では19世紀の恤救規則からみていくこととする。授業のなかでは、必要に応じて社会福祉施設創設者に関連するものや、盲導犬のはじまり、徳島県善意銀行(現在のボランティアセンター)等のビデオ、DVD等の視聴も交えていくこととする。	集中
169	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	社会福祉入門	社会福祉入門科目と位置付け、我が国の社会福祉制度の成り立ち、社会福祉制度の根幹である社会福祉関係法(特に社会福祉法、生活保護法、児童福祉法)について、それぞれの成り立ちとその内容についての基礎的な知識を習得する。 本科目では、実習に臨むにあたって必要とされる社会福祉法制度及びこれに基づく社会福祉施設・機関等に関する基本的な知識を習得することを大きな目的として講義を中心に進める。具体的には、社会福祉関係各法制度の枠組みを学び、さらに各法制度等の内容を理解し、課題、問題点の考察も試みる。	
170	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	ソーシャルワーク論Ⅲ	相談援助の中でも、複数の人を対象とした、グループワークについて学ぶ。グループとは、グループの力動、グループの持つ力などについて学ぶことによって、グループワークの基礎を学ぶ。そして、グループワークの展開過程における、グループの特徴と、ソーシャルワーカーの行動について学ぶ。その上で、児童分野、高齢分野、障害分野、医療分野、司法分野などにおけるグループワークの実際について知識と技術を身につける。	
171	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	ソーシャルワーク論Ⅳ	卒業直前の4年生後期に開講される科目である。個別援助のソーシャルワークにおける面接、事例検討、スーパービジョン等々の実施方法を体験的に学び、その学びの中でソーシャルワーカーの倫理や行動規範について考え、意見交換をする。具体的な事例を用いてロールプレイを行い、これを録音し、逐語記録を書いて振り返りを行い、これを基に意見交換をする。グループの中で意見を述べ、他のメンバーの意見を聴き、これらをまとめて発表すること等々を求める実際的な授業である。社会福祉士の受験資格取得に必要な科目である。	
172	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	ソーシャルワーク論Ⅴ	ソーシャルワークという相談援助の理論と方法が、理論、技術、価値で体系化されたもので、マイクロレベルの個人だけでなく、家族集団をはじめ、マクロレベルの社会までを対象にした専門性の高い成果を出せるものであることを理解し、事例検討に基づき、観察力、分析力、応用力を習得する。実践でのソーシャルワーク論の展開には、社会福祉に関する基礎から応用に至る既習の理論、知識、価値、技術などの的確な応用が求められる。ソーシャルワークの理解を深め、実践の事例を理論的に分析し、的確な援助について考察する。4年次を対象とする。体験学習と討論形式を採用する。	

173	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	ソーシャルワーク論VI	ソーシャルワークという相談援助の理論と方法が、理論、技術、価値で体系化されたもので、ミクロ・レベルの個人だけでなく、家族集団をはじめ、マクロ・レベルの社会までを対象にした高い専門性のものであることを理解し、現場実践の観察力、分析力、応用力、専門スタッフに対するスーパービジョン力を習得する。ソーシャルワークの中でも、技術の習得を主にし、理論的に把握したあと、適格に実践に生かせることができるように、スーパービジョンの実際を通して学習させる。4年次を対象とし、「ソーシャルワーク論V」を履修済みであることが必要。
174	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	精神保健福祉の理論と相談援助の展開	精神保健福祉分野における、ソーシャルワークの価値、知識、技術について学ぶ。精神保健福祉領域におけるアセスメント、ケースワークとケアマネジメント、危機介入、個別面接における理論と実際などについて学びを深める。特に、認知理論、行動理論、動機づけ面接の具体的な展開方法について知る。さらに、デイケア、日常生活自立支援事業、成年後見制度、医療保護観察法、依存症の実態と依存症者へのケアについて学びを深める。
175	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	介護概論	超高齢社会を迎えたわが国において、加齢に加え、障害や疾病、家族、地域社会の変化等から介護専門職の支援を必要とする人々が増加し介護ニーズは多様化・重度化している。介護に関する基礎知識を学ぶことは社会福祉士をめざす者はもちろん一社会人としても重要である。この講義では、介護の基礎知識を学ぶとともに介護問題の背景、介護の歴史、介護の原理・倫理を踏まえ今求められている介護を理解していく。この授業は講義形式であり、介護技術についてはVTR等を通し、介護過程の展開については演習方式を通して学んでいく。
176	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	高齢者福祉の諸問題	到達目標は、①人口の高齢化、要介護高齢者、一人暮らし高齢者、高齢者夫婦のみ世帯の増加に顕著に表れる、超高齢社会となった日本が直面する課題を明確にする。②高齢者福祉が取り組むべき課題、すなわち孤立、家族介護を含む介護の問題、健康問題、認知症高齢者、経済的貧困等の問題を明らかにする、ことである。そのため、日本における高齢者人口の割合は、世界の中でも最も急激に増加した。将来、3人に一人が高齢者の時代が来ると言われている。また家族の変化、地域の変容、長寿化等を理由として、広範化、多様化してきており、大きな社会問題となってきている。そこで、本講義では、高齢者問題を多面的にとらえ、理解を深め、解決方法を模索するための基礎学習を行う。
177	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	高齢者福祉論	到達目標は、①福祉にとどまらず、社会参加、社会保障、就労、保健、医療等の高齢者福祉政策を検証し、課題を明確化する。②実際の事例を通して、高齢者支援のあり方を考察する、ことです。高齢者福祉分野は、改革の中心にあり、かつニーズの増加に対応し切れていない課題をもっている。地方自治体への権限の委譲と格差の拡大、担い手の広がりやセーフティネットの不明確化、保健医療福祉、産業、環境との連携とそれを妨げること等々、考察していきたい。その結果、社会福祉制度全体のあり方を検討する機会を目指したい。

178	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	障害者福祉の諸問題	別に開講されている「障害者福祉論」と対になっている科目である。精神障害者に関する部分は除き、身体障害者、知的障害者、発達障害者、難病による障害者の直面する諸問題の中から、障害者福祉論では重点的には取り上げられない領域の問題を中心に教授する。 具体的には、障害児教育に関わる問題、累犯障害者等の司法制度に関わる問題、障害者にとっての自立とは何かという自立概念に関わる問題、障害者にとっての就労の意味とその支援のあり方に関わる問題等々を取り上げ、受講者と意見交換しながら展開する科目である。
179	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	障害者福祉論	大きな変革期を迎えている障がい福祉について、その歴史的経緯をふまえ、また今後を展望しながら、主として障がい者の状況、関連福祉制度について、理解を深める。具体的には、障がい者の実態とこれを取り巻く状況についての理解、障がい者福祉制度の発展過程についての理解、ソーシャルワーク実践において必要となる関連法制度についての理解を深めるため、講義を中心としつつ、適宜ディスカッションを取り入れ、意見交換を行う。社会福祉士受験資格に必要な科目である。
180	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	保健医療サービス	現在の社会福祉実践においては、分野を問わず、保健医療との連携が欠かせないものとなっている。その際には、社会福祉の視点・立場から事象をとらえ、考察し、実践していくことが求められている。授業では、保健医療社会福祉士科目(共通科目)シラバスに盛り込まれた内容を網羅しつつ、保健医療の変遷、保健医療ソーシャルワークの理論と方法、医療福祉に関する時事的課題に言及しながら、実践的な知識と姿勢を獲得することを目指す。
181	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	精神保健福祉の領域で、人々が直面している諸問題現象について、観察力、理解力、応用力を習得させ、総合的包括的な援助および地域福祉の基盤整備と開発など、精神保健福祉士の果たすべき役割やその専門職の意義について理解を深めさせる。精神保健福祉士受験資格取得に必要な科目であり、「精神保健福祉に関する制度とサービス」の科目の前段として、2年次を対象として習得させることを目指す。講義と討議形式の混合型の授業であるため、事前、事後の文献による学習が必須となる。精神科ソーシャルワーカーの専門性や役割について理解させ、社会福祉の視点やソーシャルワークの方法や理論が援助活動には不可欠であることを体験を通して学習させる。
182	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	精神保健福祉に関する制度とサービス	相談援助活動と法(日本国憲法の基本原理、民法、行政法の理解を含む)との関わりについて理解させることを目指す。特に、相談援助活動において必要となる医療保険制度(診療報酬制度に関する内容を含む)や保健医療サービス、成年後見制度(後見人等の役割を含む)、生活保護制度等の法律についても理解を促す。精神保健福祉士受験資格を取得するための科目の一つであり、2年次に習得させることを目標とする。
183	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	精神障害者の生活支援システム	精神障害者の生活支援の意義と特徴について理解を深める内容とする。また精神障害者の居住支援や就労支援に関する制度・施策と相談援助実践(その他日中活動等に関する相談援助を含む)について講義する。更に行政機関等における精神保健福祉士の相談援助実践について理解を深める講義を実施する。



184	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	SST	認知行動療法に基盤を持つSSTは、支援を必要とする利用者が「望む生活」の実現を目指して社会的スキルの向上を援助する方法の一つである。講義では理論を理解したうえで、その技法を用いて利用者を実際に支援できるようになることを目指す。SSTの展開に沿って、利用者のスキルのアセスメント、目標設定、課題設定の方法を学ぶ。指導法の学習には最も重点を置いており、「グループを対象としたSST」と「個人を対象としたSST」とを演習形式で体験的に学習を重ねる。	
185	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	権利擁護と成年後見制度	民法を中心に権利擁護制度について理解する。成年後見制度などを概観することにより、教員採用試験や公務員試験などに対応するとともに、日常生活にも対応できる知識を身に付ける。内容としては、民法を中心に憲法、行政法について、具体的事例をあげながら講義する。民法では、成年後見、契約、不法行為、親族・相続、行政法では行政処分や不服申立てを中心に学習する。さらに、消費者・利用者の権利擁護制度とそれにかかわる専門職について、関連法制度を含めてその実際を理解する。	
186	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	公的扶助論	講義は、貧困者救済制度の英国等西欧の歴史とわが国の歴史、公的扶助制度の目的・概念・範囲等の基礎及び公的扶助制度と社会保険制度との目的と相違について理解し、その上で、公的扶助制度の中核である生活保護制度については、国民の生存権保障の最終的なセーフティネットであることの意義と役割、生活保護法の基本原理及び基本原則とその運用の実際について新聞、テレビ番組(VTR)等も活用しながら、現代の社会・政治・経済等との関連や問題、現状と課題、さらに展望についても学び、福祉職として欠かすことのできない公的扶助制度・生活保護制度をツールとして使いこなすことができるよう、実践的かつ高度な知識を身につける。	
187	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	就労支援サービス	障がい者や生活困窮者の自立支援の一つとなる就労支援制度、および、それにかかわる関係機関や専門職の役割、活動、連携などについて理解し、社会福祉士国家試験や公務員試験などに対応するとともに、相談援助職として必要な知識を身に付ける。内容としては、わが国の雇用・就労政策・法規全般を理解する中で、相談援助職に必要な各種の就労支援制度、および、それにかかわる国や地方自治体の役割、さらには、関係機関・専門職について理解するとともに、就労支援の関連分野について学ぶ。(オムニバス方式/全15回) (5 金子和夫/1回)わが国の高齢者・障がい者などを含めた雇用・就労の動向、労働時間や賃金などの現状を学ぶとともに、それにかかわる労働基準法、男女雇用機会均等法、高齢者雇用安定法など関連法規について理解する。 (3 西原雄次郎/7回)障がい者就労支援制度を中心に、そこにおける行政、職業リハビリテーション機関、サービス事業所・支援施設等の役割・連携、および教育施策との連携について学ぶ。 (39 江幡五郎/7回)生活保護制度を中心とした低所得者の自立支援に向けた制度の学習を中心とする。自立支援を必要とする対象者の状況を概観し、生活保護制度における自立支援制度を学ぶとともに、生活保護受給者に対する就労支援サービスの現状を多方面から学ぶ。	オムニバス

188	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	更生保護制度論	<p>様々な事情で罪を犯した人物の社会復帰を支援する更生保護制度の全般と、それに関わる司法福祉の考え方を教授する。</p> <p>明治の頃から慈善事業として行われてきたわが国の更生保護事業の先達たちの実践から、現在の新しい課題に取り組む公的事業としての更生保護の全容を概説し、近年のわが国の犯罪の実情、刑事司法の一般原則から、少年非行、累犯障害者や高齢累犯者の問題、医療観察制度、被害者救済制度等々の現状について多くの事例をもとに教授する。合わせて、近年、更生保護分野において活用されつつあるソーシャルワークの実際を教授する。社会福祉士の受験資格に必要な科目である。</p>
189	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	医学一般	<p>社会福祉士や精神保健福祉士の資格取得を目指す学生を主たる対象に、人体の構造と機能、福祉専門職が知っておかなければならない代表的疾患(例えば脳梗塞や糖尿病などの生活習慣病、感染症、神経疾患、難病、精神疾患など)、障害とリハビリテーション医学、及び公衆衛生について、教科書とプリントを用いて15回に分けて学ぶ。この講義を受けることによって、前述の国家試験をけるための知識を得られるだけでなく、日常生活においても有用な医学知識を得られるような内容になっている。</p>
190	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	精神保健	<p>福祉職・臨床心理職は精神科医と協働することが多い職種である。その協働に必要な精神保健の知識を教授する。つまり精神医学全般の知識である。</p> <p>(概要)精神保健の定義(適応不応概念・異常正常概念)・精神保健の身体的基礎(脳の構造と機能)・精神障害の一般的知識(精神障害とは・精神症状のとらえ方・精神障害の原因と分類・主な精神障害・精神障害の治療法)・ライフステージと精神保健(胎児期・幼児期・児童期思春期・成人期・初老期・老年期)・社会と精神保健(家族・学校・職場・地域・犯罪非行・薬物依存・自殺)・地域精神保健活動と精神保健福祉行政・以上を15回に分けて講じる。</p>
191	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	精神医学	<p>福祉職・臨床心理職は精神科医と協働することが多い職種である。その協働に必要な精神医学の知識を教授する。つまり精神医学全般の知識である。</p> <p>(概要)精神医学の本態と評価(疾病分類・原因、予防・既往歴、診察、検査)臨床的症候群(統合失調症・気分障害・不安およびストレス関連障害・人格障害・身体症状を伴った精神障害・器質脳症候群・内科外科疾患の精神医学的側面・薬物依存、アルコール依存・故意の自傷・摂食障害・性的障害・児童精神医学・知的発達障害・老年精神医学・司法精神医学)治療(心理学的治療・精神薬理学・電気痙攣療法・精神科リハビリテーション・精神保健福祉法他)・以上を15回に分けて講じる。</p>
192	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	聴覚障害者のコミュニケーション	<p>現在日本ではどのような人たちが「障害者」に認定されているのか。その中で聴覚障害者や重複障害者はどのような問題を抱えているのか。コミュニケーションとはまず相手のことを正しく知り、理解することから始まる。本講義では、様々な障害者との多様なコミュニケーション手段を実践し、障害の本質を学ぶ。</p>

193	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	ソーシャルワーク演習Ⅰ	<p>少人数の演習で、具体的な課題別の相談援助事例などを活用し、それぞれの課題を、個人的な課題としてではなく、社会的な課題としてとらえ、情報の収集・整理して伝達し、課題の発見・分析・解決の技術を学ぶ。学習テーマは、相談援助、社会的排除、児童・高齢者の虐待、家庭内暴力、低所得、ホームレス問題などを扱う。毎回の課題について、グループ討議に参加することが求められる。自分で調べ学習を行い考察を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 市川一宏/12回)「児童高齢者の虐待」担当  (5 金子和夫/12回)「家庭内暴力」担当  (3 西原雄次郎/12回)「危機状態にある相談援助」担当  (15 原島博/15回)「社会的排除」担当となります。</p>	オムニバス
194	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	ソーシャルワーク演習Ⅱ	<p>地域における相談援助の専門職としての働きをするようになるため、ゼミ形式の授業において、各自で学習し、グループでまとめ、全体への発表を行うなどを通して、具体的な事例についての総合的・包括的な支援の過程についての学びを深める。関心の深い領域の事例をもとに、アウトリーチ、インターク、アセスメント、情報収集、支援計画、支援の実施、モニタリング、評価などの展開過程に沿って、ソーシャルワーカーとしての支援の在り方を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(19 山口麻衣/15回)「認知症高齢者の治療と地域生活支援」をテーマに学ぶ  (11 高山由美子/15回)「障害者の治療と地域生活支援」をテーマに学ぶ  (7 福島喜代子/15回)「多様な課題を抱える家族と地域生活支援」をテーマに学ぶ  (15 原島博/15回)「難民・移民と地域生活支援」をテーマに学ぶ</p>	オムニバス
195	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	ソーシャルワーク演習Ⅲ	<p>地域における相談援助の専門職としての働きをするのに必要な、基礎的な技術を身につける。ゼミ形式の授業において、コミュニケーション技術(自己の理解と他人との関わり)、面接技術(傾聴、共感、明確化、細分化、時間の流れで理解する)、マッピング技法等を習得する。また、自己覚知を深め、自分が将来活動する分野を選択し、必要な基礎知識を得る。さまざまな福祉の領域の施設・機関の働きについての基礎知識を得る。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 福島喜代子/11回)</p> <p>自己覚知、コミュニケーション技術、記録の書き方等における基礎的知識を習得し、精神保健福祉分野における施設・機関の働きと利用者について学ぶ。  (19 山口麻衣/6回)</p> <p>自己覚知、コミュニケーション技術等における基礎的知識を習得し、高齢分野における施設・機関の働きと利用者について学ぶ。  (11 高山由美子/8回)</p> <p>自己覚知、コミュニケーション技術、基本的な面接技術等における基礎的知識を習得し、障害分野における施設・機関の働きと利用者について学ぶ。  (3 西原雄次郎/6回)</p> <p>自己覚知、コミュニケーション技術等における基礎的知識を習得し、児童分野における施設・機関の働きと利用者について学ぶ。  (5 金子和夫/1回)</p> <p>行政機関等の働きと利用者について学ぶ。</p>	オムニバス

196	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	ソーシャルワーク演習Ⅳ	<p>社会福祉の現場で、相談援助の専門職としての働きをするようになるため、必要な技術を具体的に身につける。ゼミ形式の授業において、観察、観察したことの言語化、記録、考察などを学ぶ。さらに、個別面接、グループワーク、ケアプランニング、チームアプローチとネットワーキングなどについて、実践的な演習を通して、具体的に学びを深める。相談援助の専門家として、実際の現場において用いられる事例を用いながら、学びを深めていく。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 福島喜代子/15回)観察、観察したことの言語化、記録、考察、グループワークの技術を習得する。</p> <p>(3 西原雄次郎/8回)個人を対象としたソーシャルワークの技術を習得する。</p> <p>(19 山口麻衣/8回)ケアプランニングの技術を習得する。</p> <p>(11 高山由美子/8回)チームアプローチとネットワーキングの技術を習得する。</p>	オムニバス
197	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	キャリアアップゼミ	<p>大学生活の最終学期において、これまで一般教養科目、専門科目、実習関連科目で学んだ思想・理論・知識・技術等を、卒業後の実践の場に活かせるようにすることを目標とする。内容としては、卒業後の進路・分野を念頭に置きながら、理論と実践の統合、国家試験準備、就職支援、キャリア形成などについて、個別の一般教養科目・専門科目・実習関連科目の内容を踏まえて、講義形式・ゼミ形式などにより学習する。(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(11 高山由美子/8回)授業形式、ゼミ形式により、理論と実践の統合、キャリア形成などについて専門科目から振り返り、かつ、グループ討議により学びを深める。</p> <p>(5 金子和夫/8回、1 市川一宏/8回、3 西原雄次郎/6回、7 福島喜代子/4回、15 原島博/3回、19 山口麻衣/5回)同様に講義形式、グループ形式の組み合わせの展開において学ぶ。</p>	オムニバス
198	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	社会福祉特講A	<p>本講義は、これまでの学びを発展させ、それぞれの領域間の関連を理解したうえで、社会福祉に従事する専門家となるうえで必要な専門知識を統合して理解することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(19 山口麻衣/8回)相談援助の理論と方法、高齢者福祉論、社会福祉調査法、福祉サービス組織論</p> <p>(11 高山由美子/5回)全体まとめ</p> <p>(3 西原雄次郎/3回)障害者福祉論、就労支援サービス、更生保護制度論。</p>	オムニバス
199	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	社会福祉特講B	<p>精神保健福祉分野における、ソーシャルワーク専門職として必要な知識の統合を図る。精神保健及び精神障害者の福祉に関する法律、障害者自立支援法、自殺対策基本法、医療観察保護法などについての学びを深め、知識を整理する。さらに、精神科医療、障害者支援施設、障害者の地域生活移行・定着、障害者雇用などの制度と統計などについて学びを深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 福島喜代子/8回)</p> <p>精神保健福祉の相談援助の過程と理論、精神保健及び精神障害者の福祉に関する法律、自殺対策基本法、医療観察保護法などについて学ぶ。</p> <p>(64 鈴木あおい/7回)</p> <p>障害者自立支援法、精神科医療、障害者支援施設、障害者の地域生活意向・定着、障害者雇用などについて学ぶ。</p>	オムニバス

200	総合人間学キャリア形成科目群(地域福祉開発系)	社会福祉と国際協力	地球社会では、一日1ドルで生活する家族、ストリートチルドレン、児童労働、感染症、民族紛争、環境破壊など福祉を脅かす状況が存在しています。雇用、保健、栄養、教育、居住環境など、基本的な生活ニーズを満たせないこれらの人々の福祉は、国境を越えて暮らす先進国社会の私達の課題でもあります。21世紀の福祉は「国家」という枠組みから「世界」という枠組みに移行し、国際主義を再構築することが人類には求められる。是非、「福祉国家」を越え、「福祉世界」の思想と国際協力の在り方を学ぶ。	
201	総合人間学キャリア形成科目群(地域福祉開発系)	社会保障論I	社会保障の全体像を説明でき、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験や公務員試験などに対応するとともに、日常生活にも対応できる知識を身に付ける。内容としては、社会保障の歴史を中心に、理念・範囲・機能について概観し、次に、社会保障の財政や各制度の概要を説明する。また、今日の社会保障制度に大きな影響を与える少子高齢社会の状況を明らかにする。その後、社会保障の各論としての労災保険制度、雇用保険制度、生活保護制度などについて、また、民間保険の概要などについて説明する。	
202	総合人間学キャリア形成科目群(地域福祉開発系)	社会保障論II	社会保険制度を中心に概要を説明できるようにするとともに、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験や公務員試験など、また日常生活に対応できる知識を身に付ける。内容としては、年金保険制度、医療保険制度、介護保険制度の概要およびそれらの問題点・課題について指摘する。年金保険制度は、全国民を対象とする国民年金、民間企業の被用者を対象とする厚生年金保険、医療保険制度は、地域住民対象の国民健康保険、民間企業の被用者を対象とする健康保険を中心に、そして介護保険について講義する。	
203	総合人間学キャリア形成科目群(地域福祉開発系)	地域支援技法I	<p>地域における様々な生活課題と実際に展開されているボランティア・市民活動について学ぶ。地域における様々な生活課題と必要な取り組みについて講義を受けたのち、地域住民とのグループディスカッションを通じて実際の福祉課題について考え、ボランティア・市民活動団体へ調査を行い、活動の経緯や取り組み内容等について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (30 和田敏明/3回)</p> <p>地域における様々な生活課題について学び、地域福祉の展開における住民の役割について考える。  (15 原島博・22 秋貞由美子/12回) 地域住民が地域で様々な人とかかわり支援する際の、人とのかかわり方の基本を学ぶ。また、地域における様々な生活課題と実際に展開されているボランティア・市民活動について、実際にヒアリングを行うこと等を通じて、その活動の目的や効果、課題を学ぶ。</p>	オムニバス

204	総合人間学キャリア形成科目群(地域福祉開発系)	地域支援技法Ⅱ	<p>地域の様々な生活課題を解決するための新たなボランティア・市民稼働の企画と展開について学ぶ。活動企画の手法や計画の立て方、留意点等について講義を受けたのち、地域住民とのグループディスカッションを通じて、住民同士の新たな支え合い活動の企画を行う過程を経験し、ボランティア・市民活動の展開手法を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (30 和田敏明/2回)</p> <p>ボランティア・市民活動の企画手法、計画の立て方、留意点等について講義を通じて学ぶ。 (15 原島博・22 秋貞由美子/13回)</p> <p>地域住民とのグループディスカッションを通じて、住民同士の新たな支え合い活動の企画を行う過程を経験し、ボランティア・市民活動の展開手法を学ぶ。</p>	オムニバス
205	総合人間学キャリア形成科目群(地域福祉開発系)	福祉行財政と福祉計画	<p>福祉専門職として理解しておかなければならない、行財政を含む福祉の制度的な仕組みと計画の意義について説明できるようにする。社会福祉士・精神保健福祉士国家試験や公務員試験などに対応するとともに、地域において活動できる知識を身に付ける。内容としては、福祉行財政の実施体制である国・都道府県・市町村、その他関係組織・団体・専門職の役割や関係、および、福祉政策において重要な課題となる福祉財政について現状、問題点、課題を理解する。さらに、福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について学び、福祉計画の運営全般を理解する。(オムニバス方式/全15回) (5 金子和夫/8回)福祉行政における国と地方自治体の役割と地方分権、国と地方自治体の福祉財政の負担関係やその動向、民間の福祉財源、福祉事務所や児童相談所など福祉行政の組織や専門職の役割について学ぶ。 (1 市川一宏/7回)福祉計画の意義・目的、福祉計画における住民参加の意義、福祉計画の主体と種類、策定過程・策定方法と留意点、評価方法、福祉計画の実際等について学ぶ。</p>	オムニバス
206	総合人間学キャリア形成科目群(地域福祉開発系)	福祉サービスの組織と経営	<p>ソーシャルワークとして働く上で、組織に属しながら、多職種・多機関との連携を含め、組織のマネジメントや人的資源のマネジメントに携さわることも多く、マネジメントを理解する重要性が指摘されている。本講義では、モチベーション、リーダーシップなどの組織論を学びながら、福祉サービスに係る組織や団体(社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治体など)の経営の実際やサービスの質の向上にむけた課題について理解を深める。</p>	
207	総合人間学キャリア形成科目群(地域福祉開発系)	社会福祉調査	<p>本講義は、社会福祉に従事する専門家に必要な社会福祉援助技術の一つである社会福祉調査に関する基礎知識を養うことを目的とする。まず、社会福祉分野における調査の目的、意義、課題を理解する。次に、統計法の概要も含め、社会調査法の基本を学ぶ。さらに、社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。その上で、社会福祉調査における量的調査法と質的調査法について、具体的な調査方法や分析方法を学ぶ。</p>	
208	総合人間学キャリア形成科目群(福祉相談援助系)	福祉実践調査	<p>本講義は、将来、現場で何らかの社会福祉調査を行う際の基本的知識とスキルを習得する。先行研究レビュー、量的調査分析法、質的調査分析法など、社会福祉の実践調査の具体的な方法について、実際に調査のプロセスを体験することを通じて、社会福祉調査・分析のスキルを学ぶ。</p>	

209	総合人間学キャリア形成科目群(地域福祉開発系)	地域開発総論	<p>これまでの学びを統合し、誰もが地域でその人らしく安心して暮らす事ができる多文化共生の地域社会づくりと生活基盤の開発する力を養う。(オムニバス方式/全15回)(5 金子和夫/5回)地域において福祉行政、福祉活動などに従事する人材の状況について理解し、地域にかかわる専門職を中心に理解すべき知識を習得する。特に、民生委員・児童委員、その他地域の福祉人材の現状や課題について講義する。</p> <p>(15 原島 博/5回)開発途上国の地域に根差した参加型開発手法について事例を通して学ぶ。開発途上国の地域支援の取り組みを支える先進国による国際協力の仕組みについての知識と理解を深める。</p> <p>(19 山口麻衣/5回)社会福祉計画とまちづくり、個人支援と地域支援、住民参加の地域福祉実践、地域包括ケア、地域で暮らす人の思いやニーズを把握する方法、それらの人を支える多様な人々(住民、ボランティア、NPOなど)の間での連携・ネットワークづくりを促す手法、地域におけるプログラム開発法について学ぶ。</p>	オムニバス
210	総合人間学キャリア形成科目群(地域福祉開発系)	社会福祉特講C	<p>地方公務員や社会福祉協議会などの職員採用試験に合格できる力を身に付ける。地方行政の一端を担う者として必要な法律、制度、技術を整理し理解する。地域行政、特に地域福祉にかかわる人材として必要な「専門科目」について、各自治体や主要自治体における社会福祉協議会・第3セクターなどの採用試験問題を参考に、理解度を確認しながら講義する。福祉系公務員や社会福祉協議会職員として必要となる法律、制度、技術以外にも、地域情勢や時事問題など関連領域の理解も重要であり、あわせて学習する。</p>	
211	総合人間学キャリア形成科目群(子ども支援系)	保育原理と保育士の専門性	<p>保育の基本理念や保育の基本についての理解を深めるとともに、保育の原理的・体系的な知識および考え方について理解する。また、今日の保育の制度・実態にて知ることにより、保育の内容・方法について概略を学び、保育士として必要な心構えや要求される専門性を理解することを目標にする。保育の実践との関係をイメージできるよう講義を進めていく。乳幼児期の重要性を理解し、保育の意義を踏まえ、保育の概念、今日の保育の実態概要を総合的に知り、保育の目標・方法を学び、保育の総理解の上に保育者の役割について知る。</p>	
212	総合人間学キャリア形成科目群(子ども支援系)	児童福祉論	<p>児童福祉に関する法令の体系を学ぶことから始め、子どもや家族の状況に応じて、支援に必要な法令の条文を見つけ、条文の内容を理解し、支援場面に活かす力を養う。講義を中心として、現場を取材したビデオの視聴、社会福祉士国家試験の出題例を用いた演習などを加える。具体的には、要保護児童対策、ひとり親家庭への支援、健全育成、児童相談所、民生児童委員、児童家庭支援センターなど、施設や機関の機能、職員の責任と役割などを学ぶ。</p>	

213	総合人間学キャリア 形成科目群(子ども支 援系)	レクリエーションとグループリーダー	「人間、社会、生活」と「遊び、レジャー活動」の関りを通して「レクリエーション」の理論と活動を学び、理解を深めます。さらに実技、実例、映像を多く紹介し、福祉分野をはじめ実社会での諸活動に役立てることを目指す。主な内容は「レクリエーションの理解」(レクリエーション概念の理解、現代人とレジャー・レクリエーションとの関り、社会福祉におけるレクリエーションの役割等)、「レクリエーション活動の実際」(誰でもが楽しめるレクリエーション活動／集団ゲーム、ニュースポーツ、歌等)、「レクリエーション指導法」(リーダーシップの取り方、集団ゲームの指導法、プログラムの企画と運営、余暇生活設計等)など、現場に即した方法を学ぶ。	
214	総合人間学キャリア 形成科目群(子ども支 援系)	発達障害の理解	[授業形態]集中講義 [目標]発達障害の特性を理解し、アセスメント方法や支援方法について学び、彼らを取り巻く現状について理解を深める。 [授業計画]発達障害のある子どもの知能、情緒、社会性の発達の基本事項について理解を深め、アセスメント方法や支援方法について学ぶ。また、知能検査などを中心に事例的検討を行い、心理・社会面、学習面での支援方法などについて学ぶ。さらに、発達障害のある子どもを取り巻く現状について理解を深め、教育や医療の現場などで活用できる基礎的な力を獲得することを目標とする。	集中
215	総合人間学キャリア 形成科目群(子ども支 援系)	家族福祉論	授業目標は家族及び家族の抱える問題を社会システムのコンテキストの中で理解し、ソーシャルワーカーとしての家族との関わり合い方を習得し、スキルを身につけることにある。授業計画には(1)家族福祉の視点、家族機能とライフサイクル、家族アセスメント、(2)構造的家族、多世代家族の諸理論、(3)児童と家族の問題及び、アルコール依存、ドメスティックバイオレンス、精神障害、介護、トラウマなどの家族の問題への接近法が含まれる。授業は講義と小グループ討論およびロールプレイを使って事例を考察する。	集中
216	総合人間学キャリア 形成科目群(子ども支 援系)	家族心理学	家族心理学はの研究・学習目標は、その理論モデルとなっている家族システム論に準拠し、現代の家族構造の問題点を明らかにすると共に、家族への援助(ケア)について学ぶことにある。授業形態は講義・討議・発表のバランスを取りながら行う。また授業に関心を持ってもらうために、家族問題に関するメディア(新聞・テレビなど)が提供する最も新しい情報を提供し、討議する。授業計画における講義の中心は、家族システム論と家族への援助技法である。	
217	総合人間学キャリア 形成科目群(子ども支 援系)	子どもと教育	「教育基本法」「国連・子どもの権利条約」の成立過程ならびに内容を通して、基本的人権としての教育のあり方について理解を深める(第1回～第4回)。その上で、いじめ、不登校、非行等、子どもの問題行動を大人社会への問題提起として捉え、人権の視点からひとりひとりの子どもの育ちにに応じた教育を創り出していこうとしている市民的取り組みを学びたい(第5回～第11回)。また、経済格差が広がっている日本社会において、今後、どのように全ての子どもに教育への権利を保障していけるのかを検討する(第12回～第15回)。授業形態は講義を主とする。	



218	総合人間学キャリア 形成科目群(子ども支 援系)	子どもと家族の国際問題と支援	今日の国際社会において、発展途上国と先進国を取り巻く環境が変化し、それぞれの国および地域において子どもと家族の生活課題に類似性と相違性が見られる。さらに、国家の枠を超えた人の移動と交流が活発になり、二つの国にまたがる子どもと家族の問題が顕在化している。わたしたちの社会が国際化する中で生じる子どもと家族の問題に焦点をあて、社会福祉の視点から支援のあり方を学ぶ。	
219	総合人間学キャリア 形成科目群(子ども支 援系)	子どものプレイセラピー	子どもを支援する方法の一つとして遊びを交えた関わり方について学ぶ。特に、子どもの遊びや言葉の意味を理解する力と、応答する力を養うことを目的とする。具体的には、大人への支援と異なる子ども支援の特徴、遊戯療法の原則、言葉の反映と行動の反映の技法、遊びで表現される象徴的意味の理解、安全な表現の場の作り方、子どもの遊びへの参加方法などを学ぶ。本から抜粋した一場面の詳細な記録や、事例全体を簡潔にまとめた論文などを読み、小グループで検討し、講義により理論と実践の関係について解説を加える。	隔年
220	総合人間学キャリア 形成科目群(子ども支 援系)	虐待への対応	虐待やネグレクトと言われる課題について理解を深め、子どもや家族への支援について学ぶ。具体的には、虐待という概念について社会構築主義の視点から、社会問題として成立した歴史および個々の事案を虐待と認識する過程について検討する。さらに、虐待対応に関する法制度、家族システム論に基づき児童相談所における家族支援、児童養護施設における家族再統合と子どもへの治療的ケアについて学ぶ。1単位の授業として開講。事例検討を中心に、講義により理論と実践のつながりについて説明を加える。	隔年
221	総合人間学キャリア 形成科目群(子ども支 援系)	教育カウンセリング	この授業では、学校などの教育場面で生じる心の問題を、発達心理学的観点から踏まえて理解する。特にスクールカウンセラーの役割から学内の心理臨床場面について学び、自ら教育の場に心理学の知見がどのように応用できるのかを思考できるようになることを目標としている。「いじめ」、「不登校」、「非行」、「青年の自殺・自傷行為」といった様々な問題がなぜ起こるのか、またその支援策について、グループワーク、ディスカッションを通して探究する。	
222	総合人間学キャリア 形成科目群(子ども支 援系)	家族療法	様々な社会問題が山積みされるなか、これを解決するために家族の役割に大きな期待が寄せられている。家族療法の授業では子どもや親が直面する問題を、家族システムの視点から理解し、家族の歴史・コミュニケーション・ものの考え方の側面から、解決と援助の糸口を見出す力をつけることを目標として、講義、体験学習、討議を行う。	
223	総合人間学キャリア 形成科目群(子ども支 援系)	小児と高齢者の栄養	栄養は人が健康に生きるために欠かせないものである。小児と高齢者の栄養の授業では、まず栄養学の基礎として各種栄養素の構造や種類、生体内での代謝や役割を学ぶ。次に保育・福祉の現場で主な対象者となる小児と高齢者を中心とした各ライフステージ別の対象者の身体的特徴、および各ライフステージに発生しやすい疾患、問題点を整理する。さらにその疾患、問題点への対処法として、栄養バランスの調整や食事の形態などの工夫といった栄養療法について学ぶ。	

224	総合人間学キャリア形成科目群(子ども支援系)	子ども支援キャリアデザイン	子どもや家族を支援する仕事の多様性を知り、進路の目標を描けるようになること、また、目標の実現のために大学での学習計画を立て、実践への備えとして意欲的に学べるようになることを目的とする。児童養護施設職員やスクールカウンセラーという典型例だけでなく、保育所や学童保育、児童館、子ども家庭支援センター、母子生活支援施設、社会教育団体などの機能と職員の役割や資格について理解する。1単位の授業として開講。各施設や機関の実践を紹介したビデオの視聴、現場職員による講義、施設見学、グループ発表などを用いる。	
225	総合人間学キャリア形成科目群(子ども支援系)	野外活動とキャンプ	子どもの成長を支援する方法の一つとして野外活動とキャンプについて学ぶ。社会教育団体ではもちろん、児童福祉施設や教会などでも参加や企画を求められることがある。野外活動やキャンプに必要な技法と、グループ場面での子どもへの関わり方を学ぶ。具体的には、活動の意義、実施の原則、プログラムの構成方法と運営方法、障害を持った子どもへのプログラム提供方法などを学ぶ。1単位で開講。講義の他、学内での練習、学外で実施されるキャンプへのボランティアスタッフとしての参加などにより学ぶ。	
226	総合人間学キャリア形成科目群(子ども支援系)	子どものグリーフワーク	大切な人との死別や離別、被災など、子どもが体験するさまざまな喪失について理解を深め、喪失を体験した子どもへの支援について学ぶ。具体的には、子どもが体験する喪失体験にどのようなものがあるか、喪失体験が子どもに及ぼす身体面や心理面への影響、生活や人間関係への影響、子どもが出すサイン、支援の方法について学ぶ。1単位の授業として開講。講義の他、海外や日本での実践を紹介したビデオの視聴、グループ発表、事例検討など演習を用いる。	隔年
227	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	臨床心理フレッシュマンゼミ	この授業では初めに心理学研究の性質を理解し、科学的観点から研究がどのように構成されているのかを理解する。グループディスカッションや課題提出を経て自らの関心や疑問から研究のテーマを設定し、最終的に自らテーマを決定し、文献研究を行うことが目標となる。文献研究では、心理学の学術論文や専門書を読み、複数の文献から1つのレポートを執筆する。執筆のための基礎力として、心理学研究の形式を学び、論文のまとめ方、文章の作り方、論文の構成の仕方、文献リストの作り方などを理解する。	
228	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	臨床心理学概説	学部新生を対象として、臨床心理学の基礎的な知識や考え方を概観すると共に、臨床心理士の職務についても紹介し、理解を深める。授業の最後に意見・感想・質問などをリアクションペーパーで提出し、次の授業で質問に答えることによって知識の定着を促進する。また、臨床心理士に限らず、人間関係や社会における臨床心理学的な視点の重要性についても視野を広げて議論することによって、学生それぞれが卒業後の進路も含めた人生の中で、臨床心理学の考え方をどのように役立てていけるかについて考えを深めていく。	
229	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	臨床心理の倫理	臨床心理学の専門的実践を導く職業的倫理の徹底した探究を行い、臨床心理学の専門家としての自らの行為の判断、選択、実行の決断をするための基礎を身につけることを目標とする。トピックは、秘密保持(内密性)、インフォームド・コンセント、専門家としての能力の維持と向上、患者/クライアントに対する尊敬などを含む。講義と討論、そしてグループワークへの積極的参加を重視する。	

230	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	心理療法演習	集団療法の各種アプローチと集団力学の基礎理解をもとに、集団精神療法の理論と技術の基礎を学ぶことを目標とする。社会システムや家族システムが大きく変化し、個人の孤立が大きな課題となっている現代社会において、個人の心の空間を確保し、安心して心を育み鍛える機会を提供する集団療法の可能性を体験的に学ぶ。講義に加え、グループ体験やシナリオロールプレイなどのワークショップを行い、体験的な理解を重視する。
231	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	青年心理学	ライフサイクルにおける青年期のもつ意味を検討し、現代社会における青年期の発達課題と発達危機の理解を深めることを目標とする。すなわち、これまでの青年期発達に関する理論を学ぶとともに、従来とは異なる外観を見せる現代の青年期をいかに理解することが出来るのか、具体的な現象の分析を通して探究する。講義と討論への積極的な参加を重視する。
232	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	心理学研究法Ⅰ(統計基礎)	心理学は実証科学として発展してきた。つまり、何らかの方法を用いてデータを得、人間の行動や心をめぐるいろいろな現象やメカニズムを明らかにしてきた。この授業では、得られた数値データをどのように統計処理し、仮説に対する結論をどのような方法で得るかに関する知識を学ぶ。記述統計からはじめて推測統計の初歩的な内容を丁寧に講義していく。正規分布を用いた統計的検定から始めてt検定くらいまでの内容を理解するまでを予定している
233	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	心理学研究法Ⅱ(質的研究)	前半は、心理学の人間理解や臨床実践に関わる事例研究やライフヒストリー、KJ法などの研究法を学び、研究協力者の選択、面接や観察などデータ収集法、分析手順とまとめ方など基本的な質的研究の特色と意義について学ぶ。後半では臨床心理学をはじめ対人ケアサービス領域で広く用いられている修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチの基本を習得するために分析技法の解説、研究例の紹介を経て、実際にインタビューデータを用いた分析を実習し 概念、カテゴリー生成、まとめまでを体験する。
234	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	心理学研究法Ⅲ(データ解析)	後期の心理学基礎実験で必要となる、データ処理技法を実習する。記述統計や推測統計の理解を基礎にして、パソコン(エクセルおよびSPSSなどの統計ソフト)を用いてデータ分析を行う。具体的には、図表の作成、関数の使い方、SPSSでt検定や分散分析の使い方と結果の読み取り方を学ぶ。ペアや小グループを作り、小実験を行ってデータをとり、結果を分析し、小レポートにまとめて提出することがあるので、出席状況や授業態度を非常に重視するため注意すること。
235	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	質問紙調査法実習	心理学研究の方法には、観察法、実験法、面接法などがあるが、その中でも、質問紙調査法は中心となる研究方法である。この授業では、関心を有する分野の文献検索の方法を学び、ある概念に関する研究情報を収集する。グループで実際に調査票を作成し、調査実施する。得られたデータをパソコンを用いて入力しデータをチェックする方法を学ぶ。そののち、因子分析を用いて、項目内容を精選する。これら一連の流れを体験的に実習し、心理学研究の方法を体験的に学ぶ。

236	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	人間行動観察実習	演習形式で行う。心理学研究において観察法・実験法を用いることの長所と短所を理解するとともに、それぞれの実施手続きや分析方法についての知識を習得することを目標とする。最新の心理学研究の中で、観察法・実験法を用いた研究を例に、なぜそれぞれの方法論を用いるのか、どのような手続きをしているか、どう結果を記述し、考察しているか、という観点で検討を行う。その後、観察法・実験法それぞれ1つずつ実際にデータ分析を行って、その手続きについて体験的に学ぶ。	
237	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	心理検査技法 I	本講義では、1. 心理検査の背景にある理論、配慮項目の理解、2. 検査者および被検査者の体験、3. 自己理解を深める、4. 心理検査結果におけるアセスメントについての理解、5. 心理検査を実施における倫理上の問題への理解を到達目的とする。本講義では、状態・症状のアセスメント、人格のアセスメント、知能のアセスメントに関する心理検査の中で、医療や教育現場および研究で使用されている質問紙法、作業検査法、知能検査を取り上げる。	
238	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	心理検査技法 II	心理検査技法 I を受講した学生を対象に、心理臨床場面で使用頻度の高い投射法を中心に講義する。検査の概説、実施方法の説明の後、検査の実施と結果のまとめ方を体験する。結果のアセスメントやテストバッテリーについてふれ、検査の実際について具体的な事例を提示し説明する。学習の到達目的は、1. 心理検査の背景にある理論、配慮項目の理解、2. 検査者および被検査者の体験、3. 自己理解を深める、4. 心理検査結果におけるアセスメントについての理解、5. 心理検査を実施における倫理上の問題への理解とする	
239	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	学習心理学	数ある心理学の分野の中でも、学習心理学はとりわけ客観性を重んじてきた分野です。本授業では「学習」という観点から種々の心理学的現象について考察します。「学習」にまつわる心的現象や基本的知識を取得する事を目標とします。これらには例えば「適応」「条件付け」といった事柄が含まれます。また学習心理学・行動理論の応用として「行動療法」についてのちねを得ることも目標とします。これらの目標と同時に、「客観的な事実による裏付け」がどのように得られるのか、どのように「事実」を解釈するかについても見つけることを目標とします。	
240	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	認知心理学	認知心理学は、人間をはじめとした知的システムの、認識や心的過程について考察する心理学の一分野です。「情報処理」という観点から理論的に心的過程について考察し、また経験的に心的過程のあり方、つまり人間の情報処理様式を検証することを目的としています。本授業では認知心理学において用いられる基礎的な概念や考え方を学ぶことを目標とします。具体的には知覚情報処理、記憶過程、注意過程、判断・意思決定、といったトピックが含まれます。また心的現象の捉え方や、仮説をどのように検証してゆくのかといった事柄を、研究例を通して学習してゆきます。	
241	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	生理心理学	生理心理学は神経心理学同様、バイオサイコロジの一分野で、生理学と心理学にまたがる領域に関係し、ヒトの行動と脳の関わりについて知ることを目的とする。授業では最初に生理心理学とは何かを概説し、脳の構造・機能、生物学的・生理学的基礎、心理状態とその脳基盤を解明する様々な方法について説明する。更に様々な病態における変化とその脳基盤について各論の講義を行う。各論では、睡眠、情動、記憶などの障害を取り上げる。以上より、ヒトの心理・行動の生理学的理解を深める。	集中

242	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	神経心理学	(概要)脳や神経系の働きやその障害から、人の心の働きについて講義する。前半では、脳の構造(神経細胞の構造、脳の血管や脳脊髄液の役割)や脳の領野(前頭葉、側頭葉、頭頂葉、後頭葉)、左右の半球の役割と機能について概説し、後半では脳損傷患者が示す症状(失語、失行、失認)や、発達障害(広汎性発達障害、注意欠陥・多動性障害、学習障害)、精神障害(うつ病、統合失調症)、認知症(アルツハイマー病、前頭側頭型認知症)、高次脳機能障害とリハビリテーションについて概説する。	集中
243	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	カウンセリングの理論	この授業では、臨床心理学の理論として、精神分析、分析心理学、行動療法、来談者中心療法という現在の心理臨床の基礎となる古典的理論について学び、心理療法がどのように生まれたのかを理解することを目標としている。臨床心理学が人間の心をどのように明らかにし、心の問題に対して支援しようとしてきたのかを、各理論の共通テーマとして、また各理論の違いを通して理解する。それぞれの理論の歴史的な背景から、中核的な概念を解説し、各理論の特徴を学ぶ	
244	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	絵画療法	前言語的な心内の内容を反映する絵画は、心理テストとしてのみならず、心理療法としても重視されている。一般的に絵画は得意不得意があると思われるが、心理テスト、心理療法として用いられる場合は、技術や表現の上手下手は問わない。日常にも親しい表現、伝達手段である絵画について、今一度出会い直し、その表現の豊かさに気づいてほしい。実作と視覚教材を使つての鑑賞、評価、イメージの拡充により、面接場面や遊戯療法時におけるセラピストの態度について学んでもらいたい。 1 芸術療法と心理療法 2 発達段階と絵画 3 絵画療法実習1 4 絵画療法実習1の続き 5 鑑賞、解釈、イメージの拡充 6 絵画療法実習2 7 鑑賞、解釈、イメージの拡充	集中
245	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	箱庭・コラージュ療法	遊戯療法とは、子どもが自らの心的世界を眼前に展開し、再取り入れ、発展させることであると思う。箱庭はまさにその世界の構成と発展を安全に容易に進めることのできる媒体である。そして子どもだけでなく、言語によって不自由に縛られている大人にとっても有効な表現手段である。箱庭のセラピストとして、実作経験は欠かすことのできない体験であり、できるだけ体験として箱庭作成にかかわってみてほしい。また、コラージュは印刷媒体の美しさ、豊かさをもとに切り取りと貼り付けという作業によって、作品に仕上げる。これもまた、安全な表現療法として有効な手段であり、容易に実作できるので、ぜひ、体験してもらいたい。	集中
246	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	自律訓練法	自律訓練法は、心身医学領域では中心的な心理療法であるが、現在は、ストレス対処や健康増進の1方法としてひろく広く実施されている。本講義では、自律訓練法の標準練習について知り、習得することで、①心身医学領域における治療法として有用性のある自律訓練法の知識を得る。②自律訓練法の体験を通して、心身相関が理解できる。ことを主な目的とする。また、医療領域における自律訓練法の実践について、事例を提示して説明する。	集中

247	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	サイコドラマⅠ	集団心理療法の1つである「サイコドラマ」を体験的に学習する。サイコドラマは、即興的なドラマ表現を媒介として、個人に自己理解あるいは自己洞察をもたらすことを期待した心理療法である。サイコドラマの構成は、集団のウォームアップ、個人のウォームアップ、主役の選択、ドラマ化、シェアリングという一連の流れをもっている。これらの流れを理解し体験的に学ぶ。また、主役、補助自我、観客などの要素や、ダブルやロールリバーサル、ミラー、などの技法についても学ぶ。
248	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	サイコドラマⅡ	サイコドラマⅠのアドバンスコースである。参加者はある程度、ドラマ表現を媒介として、個人に自己理解あるいは自己洞察をもたらすというサイコドラマの意義を理解しているのので、少し深いテーマに関して学べるように指導したい。テーマとしては、自分自身の課題や家族との関係性など、その気づきが日常に役立つ体験となることを目指したい。また、主役、補助自我、観客などの要素や、ダブルやロールリバーサル、ミラー、などの技法についても、少し自発性を発揮して、創造的に取り組むことができるようにしたい。
249	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	サイコドラマⅢ	参加者は、サイコドラマⅠ・Ⅱにおいて体験的にサイコドラマの意義を理解している。この授業では立場を変えて、サイコドラマの監督として、実際にグループを動かす方法を学ぶ。病院のデイケアや福祉の作業所などでは、サイコドラマなどのグループを運営する場面がある。そのために、ウォーミングアップ、ドラマ化、シェアリングという3つの段階がどのような意義をもっているかを理解し、実際に監督としてグループをリードする体験をする。
250	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	サイコドラマⅢ演習	サイコドラマⅢに続く科目である。監督のトレーニングに関して基礎的なことを学んだ学生に対して、実際に監督の経験を多く体験するための授業である。ウォーミングアップ、ドラマ化、シェアリングという3つの段階がどのような意義をもっているかを理解し、実際に監督としてグループをリードし、うまくサイコドラマを進めるためのノウハウを会得する。学生の中で主役も体験するため、主役やダブルなどの体験も併せて行うことになる。
251	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	人格心理学	心理学の中でも最も多義的で曖昧な概念の1つである「人格(パーソナリティ)」に関する諸理論を学び、人格とは何か、人格はどのように発達するのか、人格はどのように変容するのか、人格はどのように測定するのかなどといったテーマについて、理解を深めていく。また、青年期の人格形成の特徴や、人格とメンタルヘルスとの関連性、人格形成の場としての家族のあり方、人間の尊厳等、身近な問題について取り上げる。授業形態は主に講義形式をとるが、理解を深めるためにグループ討議を行うこともある。
252	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	交流分析	交流分析は1964年米国の精神科医、E. バーンによって創始された人間の心と行動に関するパーソナリティ理論である。S. フロイトの精神分析理論が背後にあり、次の6つの基本理論より成り立っている:1) 自我状態の分析、2) やりとりの分析、3) ストロークへの欲求とデスカウント、4) 心理的ゲームの分析、5) 人生における基本的構え、6) 人生脚本の分析。これらの基本理論を学ぶことにより自己理解、他者理解が得られる。 2. 講義の進め方・評価について 講義は基本理論の紹介とその実際を体験学習を通して取得するよう進める。 評価は授業・体験学習への参加度70%、レポート30%。

253	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	社会心理学	社会心理学は人と人の相互作用に関して研究する学問である。社会心理学では実証的な研究を積み重ね、多くの理論や知見が報告されており、その一部は教育や臨床の現場で応用されている。特に、臨床心理学への応用は「臨床社会心理学」という分野で研究されており、日本においても近年、注目が高まってきている。本授業は講義形式で行うが、社会心理学の基礎的な概念や理論について学習しながら、臨床心理学との関連についても触れ、社会心理学に対する理解を深めていく。	集中
254	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	産業組織心理学	人は集団・組織といったものを築き上げ、それらと密接な結びつきを保ちながら生活を営んでいる。本講義は、企業などの組織における人の行動や主観的体験に関する、心理学の代表的な知見の紹介を行う。具体的には、組織行動、安全衛生、モチベーション、消費者行動などがテーマとなる。講義に登場する理論・現象をもとに日常生活や実社会での問題を題材に、ディスカッションを行い、受講者自身が考える機会としたい。	
255	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	精神分析学	講義形式だが時に体験的学習も織り交ぜる。精神分析の諸概念、理論、治療実践法の基礎的理解を得ることが主要な目標である。古典的な理論のみならず、その時代的要請や学問上の発展に伴う変遷、さらには文化的問題との関わり、脳科学など現代科学とのつながりについても考察する。授業計画の概要:①精神分析の成立と発展の歴史、②精神分析的治療論、③精神分析的発達論、④自我心理学、⑤対象関係論、⑥新フロイト派、⑦自己心理学、⑧日本語、日本文化からみた精神分析、⑨現代科学と精神分析	
256	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	ストレス学	ストレッサーとストレス反応、ライフスタイル、ストレスへの対応についての講義から、ストレスとは何か、心身相関やストレス反応の神経科学的メカニズムを理解し、ストレスが人間に及ぼす影響を感情や疾病のレベルにおよび学ぶ。また、ストレス関連疾患やストレスへの対処、予防について呼吸法、自律訓練法や認知行動療法など日常レベルから治療的介入のレベルにおよび体験的に学ぶ。各ライフサイクルと心身の健康についても学ぶ。	
257	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	犯罪心理学	犯罪行為を行う心理を心理学的に分析・検討することで、犯罪行為者の心理傾向を把握するとともに、犯罪防止策ならびに犯罪者への対応のあり方を理解することを目的とする。 最初に、犯罪者等、問題を抱えた人を理解する際の、臨床心理学的な原則を理解する。ついで、犯罪現象やその他の社会病理現象について概観し、犯罪者処遇、類型論、非行問題、社会心理学的な犯罪理論を理解する。最後に犯罪心理学の最新のトピックスを検討する。	集中
258	総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	臨床心理特講A(大学院進学支援講座)	演習形式で行う。自分にあつた大学院を選ぶこと、その大学院進学に必要な心理学の基礎知識を習得するための学習方法を身につけることを目標とする。授業では、大学と大学院の違い、専攻(心理学・基礎心理学)による違いを整理した結果や、複数の大学院に関して情報収集し、まとめた結果を発表しあう。また、大学院進学にあたって身につけるべき知識やその勉強法、参考図書を紹介する。そこで学んだ方法は実践して報告し、より良い勉強法についてのディスカッションを行う。	